

台渡里官衙遺跡群（台渡里廃寺跡）

台 渡 里 20

— 店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第168次） —



2 0 1 9

水戸市教育委員会

台渡里官衙遺跡群（台渡里廃寺跡）

台 渡 里 20

— 店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第 168 次） —

2019

水戸市教育委員会

ごあいさつ

台渡里官衙遺跡群は、那須茶臼岳を水源とする那珂川下流域右岸の台地上に位置する古代常陸国那賀郡の官衙跡・寺院跡です。県内でも最古級の寺院跡を含む広大な古代遺跡として県外からも多くの注目を集め、現在、その一部は国の史跡として指定され、恒久的な保存と継続的な活用に向けて検討を進めているところでございます。

台渡里官衙遺跡群の周辺には国史跡「愛宕山古墳」をはじめ、堀遺跡、西原古墳群、渡里町遺跡など数多くの古代遺跡が立地しており、古くから政治・宗教・文化の中心地であったと考えられます。

歴史的文化遺産のひとつである埋蔵文化財は、一度破壊されると二度と原状に復すことができないため、現代を生きる私たちが大切に保存しながら、後世へと伝えていかなければならない貴重な国民の共有財産ですが、都市化の様相が強まる中で、埋蔵文化財の現状保存は非常に困難になりつつあります。本市においては、市民の生活安全・衛生とのバランスを考慮しつつ、埋蔵文化財の意義や重要性を踏まえ、文化財保護法及び関係法令に基づいた保護・保存に努めているところです。

このたび、台渡里官衙遺跡群を構成する「台渡里廃寺跡」の一角において、店舗建設工事が計画され、発掘調査を実施したところ、奈良時代から平安時代にかけて営まれた竪穴建物跡や掘建柱建物跡、井戸跡、粘土採掘坑、貯水・導水施設などの遺構が検出されるとともに、寺院の堂塔の屋根に葺かれていたとみられる多数の瓦や本遺跡では初見となる「文殊」と記銘された墨書土器が2点出土するなど、台渡里廃寺跡に関連する遺構・遺物の広がりをつかえるとともに、台渡里廃寺跡周辺における信仰の一端を示唆する貴重な成果を得ることができました。

ここに刊行する本書が、豊かな地域史の一端を復元するうえでかけがえのない貴重な文化財に対する保護・活用の意識の高揚や郷土愛の育成へと繋がることを願い、学術研究等の資料として、広く御活用いただければ幸いです。

末尾ながら、今回の発掘調査の実施にあたり、多大なる御理解と御協力をいただきました事業者様、近隣住民の皆様方、並びに種々の御指導・御助言を賜りました関係各位に心から感謝を申し上げ、ごあいさつといたします。

平成 31 年 3 月

水戸市教育委員会

教育長 本 多 清 峰

例 言

- 1 本書は、店舗建設に伴う台渡里官衙遺跡群第168次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 調査は、小園江芳枝より委託を受けた株式会社地域文化財研究所が水戸市教育委員会の指導の下に行った。
- 3 遺跡の所在地及び面積、調査期間、担当者など調査体制は下記のとおりである。


所在地 茨城県水戸市渡里町字アラヤ前 2960-1, 2962-1
調査面積 578 m²
調査期間 平成30(2018)年6月25日～同年8月1日
調査担当者 野村浩史(株式会社地域文化財研究所)
調査員 高野浩之(株式会社地域文化財研究所)
調査参加者 芥川 彰 飯田 昭 石島 昇 大貫浩一 大山年明 小坂部克己
小野健治 北村 昶 高安丈夫 高安幸且 出川 孝 長峰和幸
谷津 敬 川村理華 木村春代 小林真千子 増田香理
- 4 整理調査及び本書の作成は株式会社地域文化財研究所において高野が担当し、野村の協力を得た。
- 5 本書は、高野と米川暢敬(水戸市教育委員会歴史文化財課)が分担して執筆し、米川の助言・指導に基づいて高野が編集した。文責は各節の文末に記載してある。
- 6 出土遺物及び図面・写真などの記録類は一括して水戸市埋蔵文化財センターにて保管している。
- 7 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の諸機関・方々より御教示・ご協力を賜った。記して感謝の意を表するものである(敬称略・順不同)。

小園江芳枝 倉持明弘 斎藤栄治 茨城県教育庁総務企画部文化課 水戸市教育委員会
(有)小川重機 株式会社セブン-イレブン・ジャパン 株式会社柴建築設計事務所

凡 例

- 1 挿図中で使用した遺構の略号は以下のとおりである。

台渡里官衙遺跡群第168次 DWT-168
S I : 竪穴建物跡 S B : 掘立柱建物跡 (P : 柱穴番号) S K : 土坑 Pit : ピット
S D : 溝跡 S E : 井戸跡 S X : 性格不明遺構 K : 植栽痕・攪乱等
 - 2 測量は世界測地系を用い、挿図中の方位は座標北を示す。
 - 3 遺構の土層及び遺物の色調表現は、『新版標準土色帖2003年版』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)に準拠した。粒状規模はmm単位で表し、含有量は2%以下を「微量」、～10%を「少量」、11～20%を「中量」、21%以上を「多量」とし、多量のものについては()付で含有量を示した。いずれも同書の「面積割合」を参照している。
 - 4 挿図中、遺構図の縮尺は1/60, 1/80, 遺物図の縮尺は1/3, 1/4, 1/6である。
 - 5 遺物観察表の標記は、()内を復元値、〈 〉内を残存値として表す。遺物の計測値は規模を「cm」、重量を「g」で表した。
 - 6 出土遺物集計表の中で、接合したものは全体で1点とし、逆に同一個体が明らかであっても接合しないものはそれぞれを1点とした。
 - 7 挿図中で使用したスクリーントーン及び線種・ドット類は以下凡例図のとおりである。

凡例図  … 盛土・表土
- ※これ以外の表記は挿図中に記載した。
- 8 本文中で使用した地図類は第1～3図で、各図に明記してある。
 - 9 引用・参考文献は本文中の最後に一括して掲載した。
 - 10 表紙に使用した写真は、本調査で出土した墨書土器の集合である。

本文目次

ごあいさつ・例言・凡例・目次

第1章 調査に至る経緯と調査経過

- 1 調査に至る経緯…………… 1
- 2 調査の方法と経過…………… 2

第2章 遺跡の位置と環境

- 1 地理的環境…………… 3
- 2 歴史的環境…………… 3
- 3 台渡里官衙遺跡群における既往の調査…………… 5

第3章 調査の成果

- 1 台渡里第168次調査の概要…………… 7
- 2 基本堆積土層…………… 7
- 3 検出された遺構と遺物…………… 9

第4章 総括

- 1 土地利用の変遷…………… 37
- 2 SX06, SD01の性格について…………… 38

写真図版・抄録

挿図・表目次

第1図	台渡里第155次調査のトレンチ配置と本調査範囲……………	1
第2図	調査地点の位置と周辺遺跡図……………	4
第3図	台渡里官衙遺跡群における調査地点……………	6
第4図	基本堆積土層図……………	7
第5図	遺構全体図……………	8
第6図	SI01・出土遺物……………	9
第7図	SB01……………	10
第8図	SB02, SB01・02出土遺物……………	11
第9図	SK01～04, SK04出土遺物……………	12
第10図	Pit01～04……………	13
第11図	SD02～05, SD04出土遺物……………	14
第12図	SD06～08……………	15
第13図	SX01, SE01・出土遺物……………	16
第14図	SX02・03, SE02……………	17

第15図	SE02出土遺物……………	18
第16図	SX04, SE03……………	19
第17図	SE03出土遺物……………	20
第18図	SX04遺物出土分布図……………	21
第19図	SX04出土遺物(1)……………	22
第20図	SX04出土遺物(2)……………	23
第21図	SX04出土遺物(3)……………	24
第22図	SD01出土遺物……………	25
第23図	SX05・06, SD01(1)……………	26
第24図	SX05・06, SD01(2)……………	27
第25図	SX05・06, SD01遺物出土分布図(土器)……………	28
第26図	SX05・06, SD01遺物出土分布図(瓦)……………	29
第27図	SX06出土遺物(1)……………	30
第28図	SX06出土遺物(2)……………	31
第29図	SX06出土遺物(3)……………	32

表目次

第1表	出土遺物観察表(軒丸瓦)……………	33
第2表	出土遺物観察表(丸瓦)……………	33
第3表	出土遺物観察表(軒平瓦)……………	34
第4表	出土遺物観察表(平瓦)……………	34

第5表	出土遺物観察表(土器)……………	35
第6表	出土遺物観察表(その他製品)……………	36
第7表	出土遺物集計表(瓦)……………	36
第8表	出土遺物集計表(土器・その他製品)……………	36

写真図版目次

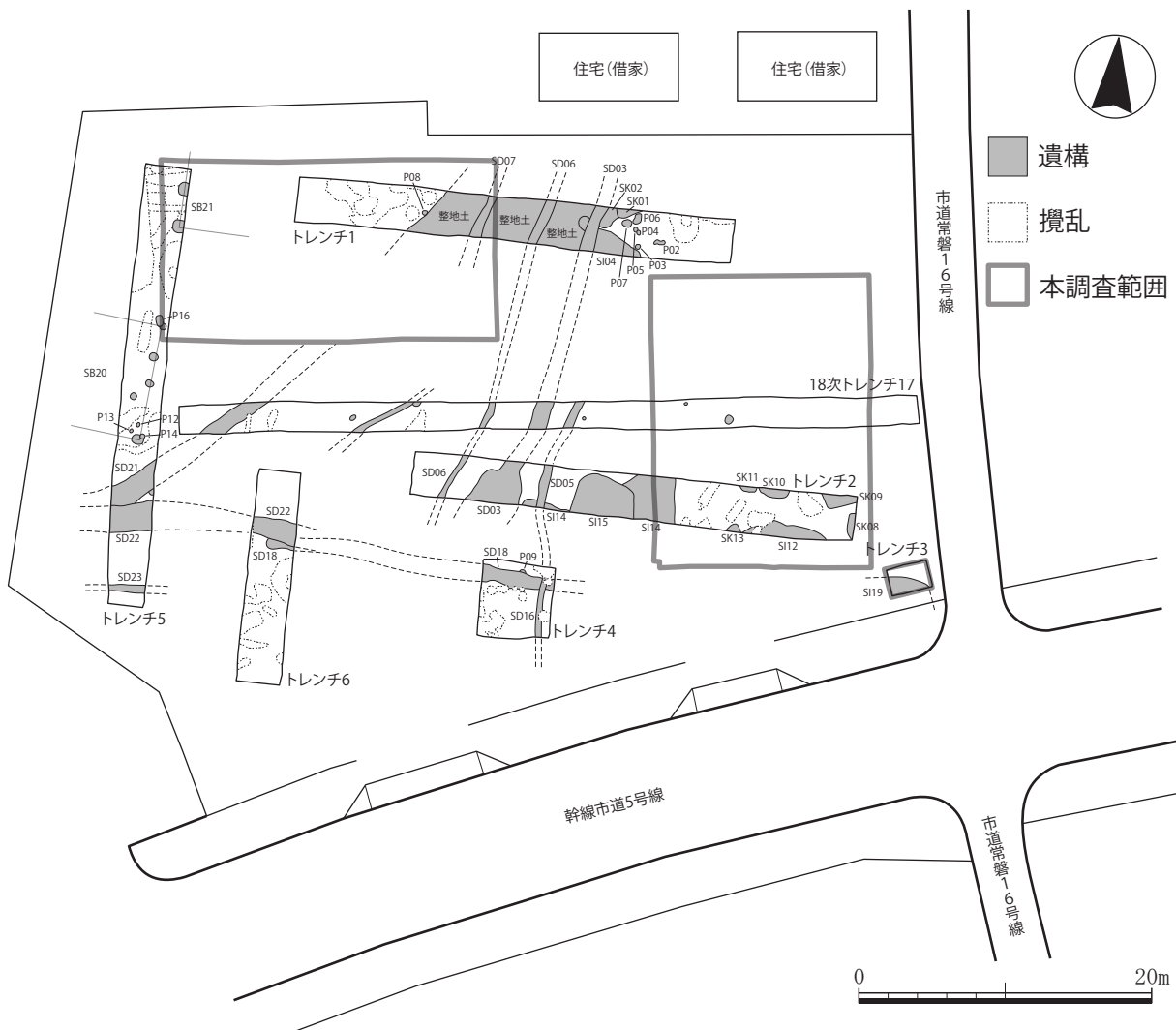
図版1	調査前現況／基本堆積土層／1区遺構確認状況／1区西側風倒木痕確認状況／1区全景
図版2	SB01全景／SB01確認状況／SB01・P2遺物出土状況／SB01・P2土層断面／SB02全景 SB02確認状況／SK04全景・土層断面／SD02～05全景
図版3	SX06上面SD06～08全景／SX05・06, SD01全景／SX06上面遺物出土状況／SX06遺物出土状況 SX06遺物出土状況近景／SX06礫集中部分確認状況／SD01南側全景／SX05, SD01北側全景
図版4	2区全景／2区遺構確認状況／SX01・02, SE01全景／SX01・02, SE01土層断面 SX01・02, SE01土層断面／SX02・03, SE02全景
図版5	SX03・SE01土層断面／SX04・SE03全景／SX04・SE03土層断面／SX04①区遺物出土状況近景 SX04④区遺物出土状況近景／3区遺構確認状況／SI01遺物出土状況・土層断面／SI01全景
図版6～12	出土遺物

第1章 調査に至る経緯と調査経過

1 調査に至る経緯

平成29年7月22日付けで株式会社セブンイレブン代表取締役 古谷一樹（以下、事業者という）より、埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会が提出された。照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地「台渡里廃寺跡」の範囲内に該当していたことから、土木工事を実施するにあたり、工事着手60日前までに、文化財保護法第93条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の届出を茨城県教育委員会教育長（以下、県教委教育長という）あて、提出する必要があること、遺跡の発掘調査や現状保存を必要とする場合には、原因者の協力をお願いする旨、回答した（平成29年7月25日付・教埋第852号）。

その後、試掘調査の依頼を受けて、平成29年8月29日～9月13日の期間に試掘調査（台渡里第155次）を実施した（第1図）。開発対象地内にトレンチを6か所設定し、遺構確認面である七本桜軽石層まで掘削した結果、全てのトレンチにおいて土坑や溝跡、竪穴建物跡と考えられる遺構が多数検出されるとともに、瓦等が多数出土した。特に平成15年度に実施した台渡里18次調査のトレンチ17で確認されていた2条の寺院地区画溝と想定される溝と接続する可能性が高いSD03及びSD06は、国指定史跡「台渡里官衙遺跡群 台渡里廃寺跡」と密接に関わる重要遺構と考えられた。



第1図 台渡里第155次調査のトレンチ配置と本調査範囲 (1/500)

上述のような遺構・遺物が確認され、事業者と計画変更及びその保存について協議を重ねたところ、重要遺構と考えられるSD03及びSD06については保護できるものの、建築計画の変更は困難との結論に達したことから、今般の土木工事については、申請建物部分及び雨水貯留浸透施設埋設部分、看板設置部分の3箇所を対象とした記録保存を目的とする本発掘調査の実施が相当である旨の意見書を付して、県教委教育長へ届出を進達した（平成30年3月30日付・教埋第854号）。

この届出に対し、県教委教育長から事業者あて、工事着手前に発掘調査を実施すること。調査の結果、重要な遺構が発見された場合には、その保存について別途協議を要すること等の指示・勧告があった（平成30年4月2日付・文第3号）。これを受けて、事業者は株式会社地域文化財研究所と業務委託契約を締結し、平成30年6月25日から発掘調査を実施することとした。（米川）

2 調査の方法と経過

(1) 調査の方法

発掘調査は、店舗部分（1区）、雨水貯留浸透施設部分（2区）、看板設置部分（3区）を対象に行った。調査区にX軸＝45540、Y軸＝53550の交点を基点とした10m×10mの方眼を設定し、X軸には北から南方向へA～E、Y軸には西から東方向へ1～7の記号を付し、双方記号の組み合わせをグリッド名とした（第5図）。遺構の実測、写真撮影の記録は調査の過程で随時行った。遺構実測は1/20縮尺を用いた。写真はデジタルカメラ（1000万画素以上）を主要機として、重要と思われる遺構や遺物出土状況は120mm判カラーリバーサルフィルムを用いた。遺構の掘り下げは人力で行い、出土遺物は現位置での記録を基本とするが、微細な遺物については上・中・下層で一括して取上げた。さらに、SX06は10m四方のグリッド中に2m×2mの小グリッドを設定して取上げる際に区分した。

整理調査は、遺構関係と出土遺物関係に分け、ほぼ同時に進行させた。遺構関係は第2原図を作成し、デジタルトレースで遺構図を作成した。遺物は全て水洗し、注記は手書きで可能な限り行った。遺物の接合はセメダインCを用い、接合後は出土遺物集計表（第7・8表）にまとめた。なお、墨書土器や文字・押印が認められる瓦や軒丸瓦・軒平瓦などは全て抽出した。

(2) 調査の経過

発掘調査は、6月25日より3区の表土除去から開始した。作業員は27日から投入し、休憩施設等設置した後に2・3区の遺構確認作業から取り掛かった。28日、遺構の掘り下げを開始した。2区南側のSX01～03を中心に行い、併せて基準点設置及び各区の遺構配置図を作成した。29日、2区の調査を継続するとともに、3区SI01の掘り下げを行った。7月3日には3区SI01の調査を完了し、作業を2区の継続に集中させた。4日、SX01～03の調査を終え、全景写真の撮影を行った。2区ではSX04の作業を続行したが、1区でもSX06の掘り下げを開始した。10日、SX06では上層面遺物出土状況の写真撮影と記録を行った。11日、SD01～05の掘り下げ、12日、SD06～08の掘り下げ及びSB01・02柱痕跡の確認作業を行った。13日、SX04出土遺物の取上げを終え、土層断面の写真撮影、翌日に実測を行った。18日からSB01・02の掘り下げと土層断面の記録を行った。23日、SB01・02を完掘し、翌日に全景写真を撮影した。25日、SX06出土遺物の取上げを終えた。26日、SX06の土層観察用ベルトを取り除き全景写真撮影を行って、全ての遺構を完掘した。8月1日、水戸市教育委員会の終了確認を受けて発掘調査の全工程を終了し、速やかに整理調査へと移行した。

整理調査は、発掘調査終了後から続けて出土遺物の水洗い及び注記を終え、接合・選別・集計・実測・トレースの順で行った。その後遺構図の作成と原稿の執筆を進め、報告書の刊行に至る。（高野）

第2章 遺跡の位置と環境

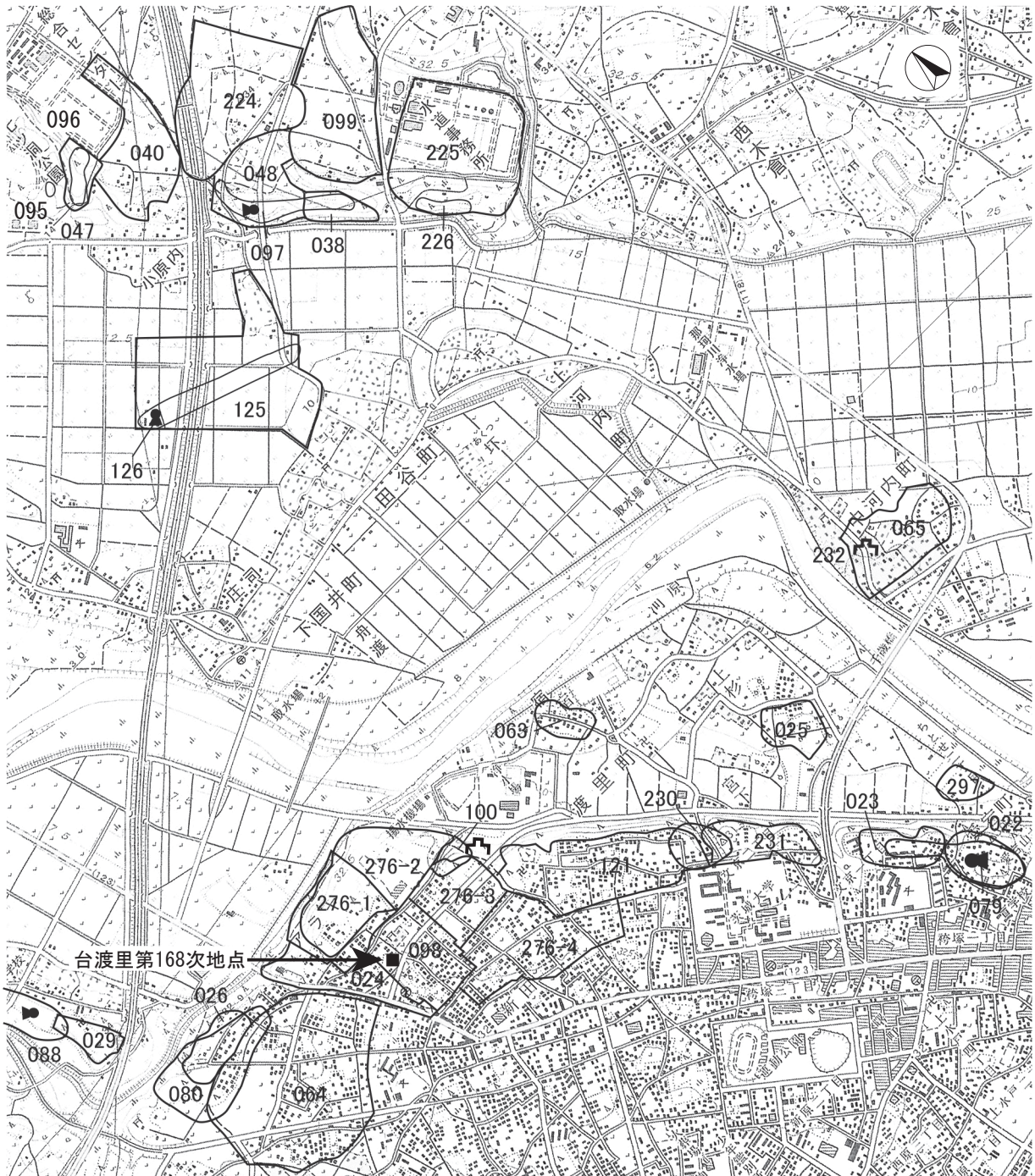
1 地理的環境

台渡里官衙遺跡群が所在する渡里地区は、関東平野の北東部に位置する水戸市の北部にあって、栃木県的那須岳山麓を水源とする那珂川を眼下に望む台地上に立地している。水戸市域に入って既に下流域に達している那珂川沿いには沖積低地が広がり、流路も蛇行が目立ってくる。特に渡里地区周辺では蛇行が顕著になる場所で、南流から東流へ大きく転換する位置にあたる。地名を追っていくと「舟渡」の地名が認められ、本遺跡の所在する「渡里」と合わせて、渡河に関連する地であったことが想定されることから、水運などの交通の要衝に適した場所であった可能性がある。一方で、低地から那珂川に面した台地縁辺部では急傾斜地が発達し、低地との比高差は20 m程を測るが、ここには古くから湧水点が点在していることが知られるなど、住環境に適した土地であったことがうかがわれる。このような好条件が重なった場所に那賀郡の中心地となる台渡里官衙遺跡群が展開している。

2 歴史的環境

台渡里官衙遺跡群周辺の遺跡は、旧石器時代から近世以降にいたるまで生活の痕跡をうかがうことができる。特に古墳時代から中世にかけては、那珂川に面した河岸段丘上といった好条件下にあり、前方後方墳を持つ西原古墳群（080）、笠原神社古墳群（230）や、那珂川流域で最大級の前方後円墳である国史跡・愛宕山古墳（079）が築造されている。また、中世においては春秋氏の居城として知られる長者山城跡（100）が築かれるなど、連綿と続いた各時代の中心地であったことが理解される。その中で奈良・平安時代には台渡里廃寺跡（098）をはじめ、常陸国那賀郡衙となる台渡里官衙遺跡（276）が造営され、中央集権国家のもとで、台渡里地区に権力の機能が集中していく時代でもある。ここでは、本次調査に関連したこの奈良・平安時代を中心に遺跡を概観する。

台渡里地区周辺における奈良・平安時代の遺跡では、台渡里廃寺跡を取り囲むようにアラヤ遺跡（024）、台渡里官衙遺跡がある。これらは便宜的に「台渡里遺跡群」と呼称されており、調査成果については後述したい。さらに広い視点で見ると、台渡里遺跡群の西側には堀遺跡（064）、東側には渡里町遺跡（121）が台渡里遺跡群を挟む形で存在する官衙隣接集落である。堀遺跡の調査は既に72地点に及び、その中で注目される地点をあげてみると、第2地点では8世紀後半～9世紀代に盛期を持つ集落跡が調査されている。竪穴建物跡と掘立柱建物跡で大規模に展開しており、桁行が8間以上を有する長舎風の公的な施設を連想させる掘立柱建物跡や、刀子をはじめとした多様な鉄製品、須恵器壺Gや人面墨書土器など特殊な土器などが出土していることから、郡衙や郡寺に関係性の強いことがうかがわれる。第4地点では「地中梁」（「柱筋溝状遺構」）と呼ばれる柱掘り方を連結した溝状掘り込みの痕跡を持つ総柱建物跡と帯金具の蛇尾が出土し、第9地点では大型の東西棟建物群、第18地点では第1地点と同様の柱筋を揃える建物などが確認され、いずれも公的な施設と考えられる建物群が調査されている。また、第6地点では古代村落内の仏堂と考えられる廂・孫廂を有する掘立柱建物跡が確認され、これが集落の外縁部に位置していると見た場合、該期における計画村落的な様相を呈している。一方、渡里町遺跡は32地点の調査を数える。第1地点では、竪穴建物跡5棟、掘立柱建物跡1棟が確認され、出土遺物の中に須恵器環の特異な墨書土器が出土している。この墨書土器は通常の文字銘記ではなく、飛雲文の絵画的な描写が施されたもので、仏教建築や寺院堂塔の屋根に葺かれる軒平瓦の瓦当文様に多く見られることから、台渡里廃寺跡など仏教に深く関わった遺物の



※国土地理院発行2万5千分の1地形図「水戸」「石塚」を使用し加筆修正

022 愛宕町遺跡	047 田谷富士山遺跡	096 富士山古墳群	224 砂川遺跡
023 文京1丁目遺跡	048 小原内遺跡	097 小原内古墳群	225 白石遺跡
024 アラヤ遺跡	063 坏渡里遺跡	098 台渡里廃寺跡	226 白石古墳群
025 上杉遺跡	064 堀遺跡	099 田谷遺跡	230 笠原神社古墳群
026 西原遺跡	065 中河内遺跡	100 長者山城跡	231 文京2丁目遺跡
029 安戸星遺跡	079 愛宕山古墳群	121 渡里町遺跡	232 中河内館跡
038 梵天遺跡	080 西原古墳群	125 塚宮遺跡	276 台渡里官衙遺跡
040 平塚遺跡	088 安戸星古墳群	126 塚宮古墳群	297 ちとせ二丁目遺跡

第2図 調査地点の位置と周辺遺跡図 (1/25,000)

可能性が指摘されている。各地点の遺構やそこから出土した遺物から7世紀末～11世紀にかけて営まれた集落跡であることが概ね明らかとなってきている。前述した堀遺跡とは集落が継続する時期に違いが認められ、同様の官衙隣接集落として相違が注視される場所である。

那珂川の対岸に目を転じると、田谷遺跡（099）では、基壇や礎石建物の痕跡とともに出土した多数の瓦の中に台渡里官衙遺跡長者山地区と同じ文字瓦が認められ、新置の河内駅家跡の可能性を示唆している。その南東に隣接する白石遺跡（225）では、竪穴建物跡・掘立柱建物跡を中心に集落が展開する。特筆されるのは桁行長88mを有したⅡ区2号建物で、駅馬を繋ぐ馬房や厩舎などが想定されている。対して北西側に隣接する砂川遺跡（224）は竪穴建物跡を主体とした集落跡であるが、出土遺物の中に足金具や雁又式鉄鎌などの鉄製品や井戸跡から木製の曲物や櫛などが出土し注目される。このように那珂川を挟んで左右両岸に対峙して、該期における一般集落には見られない特異性を持つ拠点的な集落の様相が、台渡里遺跡群を含めた各遺跡に認められる。

3 台渡里官衙遺跡群における既往の調査

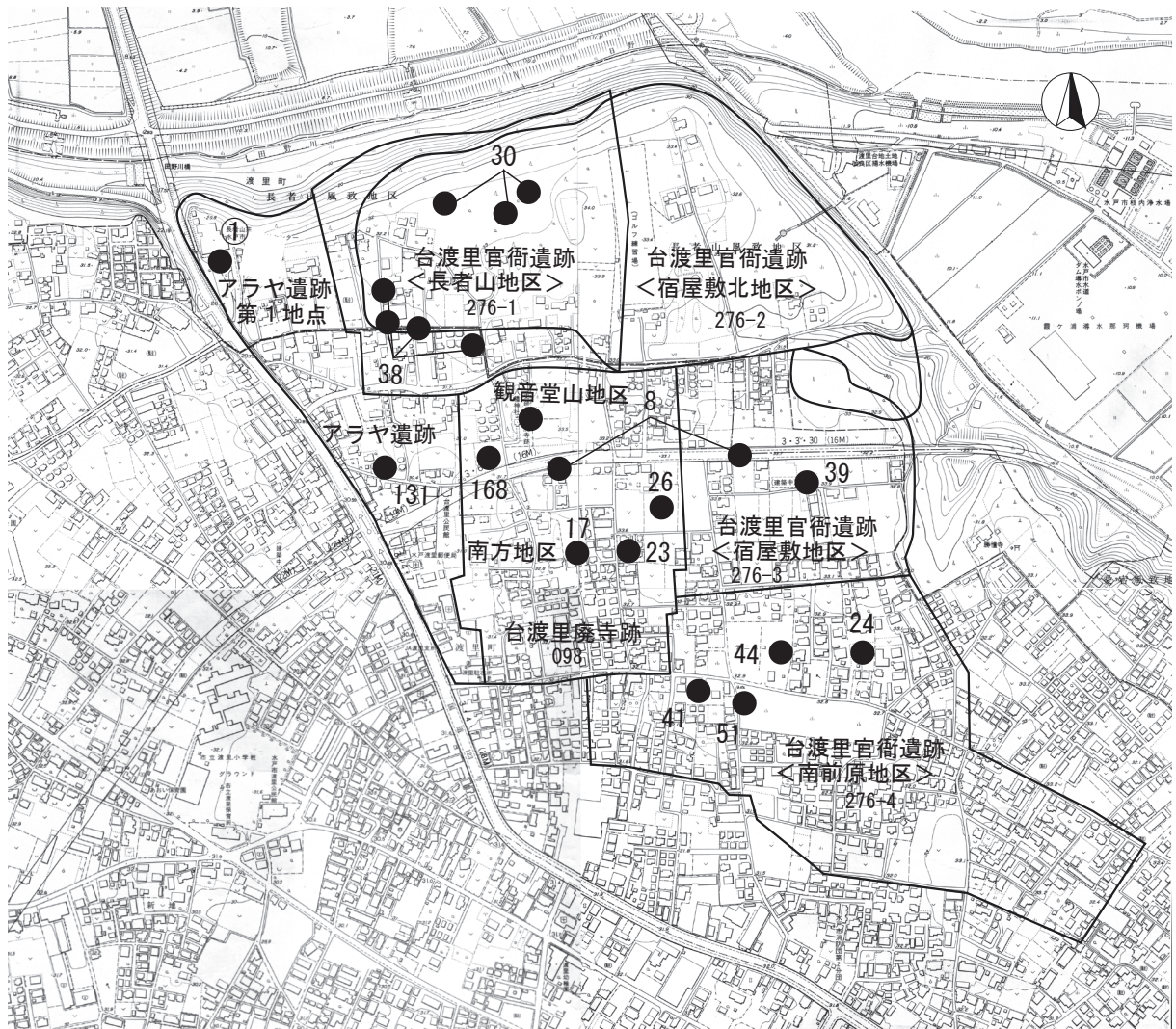
台渡里官衙遺跡群は、前述したように台渡里廃寺跡、台渡里官衙遺跡（長者山地区・宿屋敷北地区・宿屋敷地区・南前原地区）、アラヤ遺跡の各遺跡を包括的にかつ有機的に把握するために便宜的に用いられた呼称である。発掘調査は本次を含めて168次に上り、その成果によって台渡里廃寺跡及び台渡里官衙遺跡が国史跡に指定されている。調査数が多く、全ての事例を述べていくことが困難であるため、ここでは主だった調査のみを抽出しておきたい。

台渡里廃寺跡（098）の調査は、高井悌三郎氏の学術調査が最初である。第1～3次調査にわたり観音堂山地区の建物跡と南方地区の塔跡を調査し、さらに長者山地区に礎石建物跡が存在したことを確認している。その際、出土した瓦の中に「徳輪寺」などの文字瓦や瓦塔片が含まれており、これらの成果はその後の調査に大きな影響を与えている。観音堂山地区については、高井氏の調査成果が検討されていく中で那賀郡衙郡庁院や河内駅家などの見解も見られたが、第16～19次調査で陶製相輪の一部や塑像片、須恵器高坏形香炉等仏教関連遺物が出土したことから、郡衙周辺寺院で7世紀後半に遡ることが明らかにされている。一方、南方地区では、塔跡の基壇から出土した内面黒色処理された土師器坏により9世紀後半に造営されたことが明らかになった。しかし南方地区の伽藍を区画する溝が途絶していることから、観音堂山伽藍が9世紀代に焼失していることを併せて考えると、南方地区で再建が開始されたものの、何らかの理由で再建が中断されたと考えられている。

台渡里官衙遺跡（276）では、長者山地区（276-1）において高井氏が既に礎石建物跡の存在を認識していたが、その後の調査で炭化米が出土したことから那賀郡衙正倉院と推定された。さらに第30次調査で9棟の礎石建物跡が、第38次調査では二重に区画する溝が確認され、正倉院の存在と規模が明確になった。注目されるのは人名、地名など記した多数の文字瓦であり、正倉院造営に関わったとみられる人々の貴重な文字資料である。宿屋敷地区（276-3）の調査では、第8次調査において竪穴建物跡や溝跡から7世紀後半～8世紀前半の搬入品とみられる湖西産須恵器や東北地方栗圀式の影響を受けた土師器坏が出土し注目されている。遺構には溝と2m間隔で列状となった柱穴が連結することから柵列又は堀などの区画施設が連想されている。さらにこの第8次で調査された3間×3間の布掘り総柱建物跡は、第39次調査でも同じものが確認されており、同時に同じ軸を示した官衙を区画するとみられる溝からは「郡厨」の墨書が記された土師器有台坏が出土するなど、官衙との関連性がうかがわれる。また、第23次調査では台渡里廃寺跡南方伽藍の東側地区画溝、第17・26次調査で

は寺院に先行する観音堂山伽藍の造営時期に相当する竪穴建物跡、掘立柱建物跡、鍛冶工房跡が確認されており、寺院造営に関わった集団である可能性が考えられる。南前原地区では、第24次調査で、総地業の礎石建物跡と区画溝が確認された。溝の上層からは多量の炭化米が出土し、さらに竪穴建物跡の1棟からは「備所」の墨書が記された須恵器有台坏が出土したことから、租税等を備蓄した施設の存在が指摘されている。第41・44次調査では、幅6m、深さ2.5mの堀とも言える巨大な溝が方形に区画されていることがわかった。出土土器から8世紀前葉までに埋没したと考えられ、初期的な官衙施設の可能性がある。また、その上層からは礎石建物跡が確認され、第24次地点とも近接することから、この一帯に長者山地区とは別の備蓄を目的とした倉の存在が示唆されている。

アラヤ遺跡(024)は、台渡里廃寺跡の西側に隣接し、東側の一部が台渡里官衙遺跡長者山地区に組み込まれている。第1地点では側柱掘立柱建物跡や竪穴建物跡が調査され、竪穴建物跡の中には長方形を呈し、刀子や砥石が一定量出土していることから工房跡と考えられ、寺院・官衙の造営に携わった集落が展開していた可能性が指摘されている。第131次調査では、掘立柱建物跡と瓦が多量に埋没した区画溝2条を確認した。溝は走行方向が近接する台渡里廃寺観音堂山伽藍の主軸と類似することから寺院に関連した施設等の区画溝である可能性が高いと考えられる。(高野)



※水戸市都市計画区域図2千5百分の1を加筆修正

第3図 台渡里官衙遺跡群における調査地点(1/9,000)

第3章 調査の成果

1 台渡里第168次調査の概要

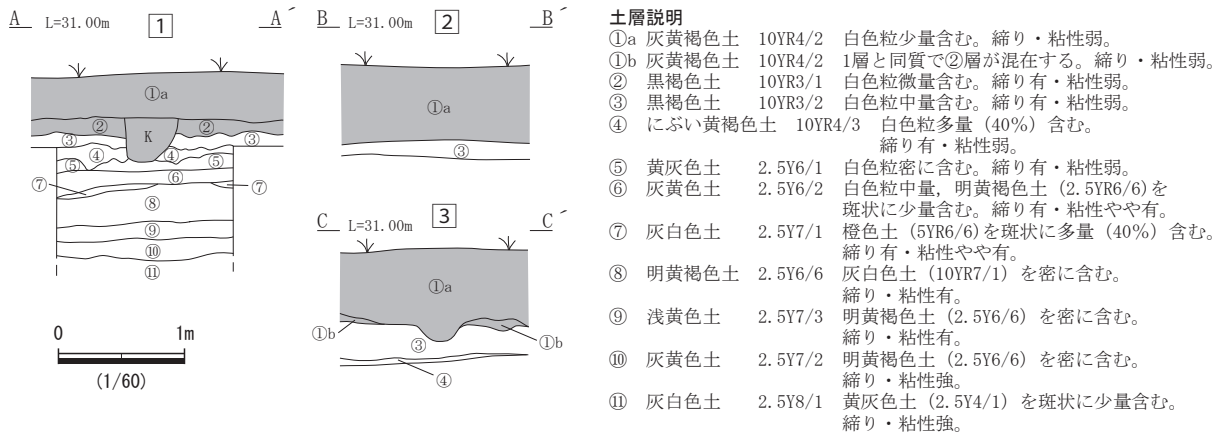
今回の調査対象地は台渡里第168次とした地点で、台渡里廃寺跡（遺跡番号098）範囲内の北西端部にあたり、八幡神社の南西側に隣接した場所に位置する。調査前の現況は畑地で、ほぼ平坦な地形となっていたが、表土除去後の遺構確認面では1区南西側と2区の東側に向けて徐々に低くなる地形が観察された。さらに2区の南西側に向けて極端に低くなる一方で、2区南東から3区にかけては高くなる地形が認められた。2区の低い地点には粘土採掘坑が密集しており、そこに盛土が厚く堆積しているため現況の平坦面が形成されたことが把握された。

検出された遺構は、奈良・平安時代の竪穴建物跡1棟、掘立柱建物跡2棟、土坑4基、ピット4基、溝跡8条、井戸跡3基、性格不明遺構6ヶ所であった。掘立柱建物跡は1区西側に南北の軸をほぼ揃えて検出されている。性格不明遺構の内SX01～04の4ヶ所は、掘り方の形態から粘土採掘坑の可能性が高く、いずれも井戸跡の重複が見られた。もう1ヶ所のSX05・06は溝跡SD01と接続する大型方形の竪穴遺構で、新旧関係が認められないことから一連の遺構と考えられる。また、1・2区内にはこれらの遺構に切られて風倒木痕が多数確認されている。

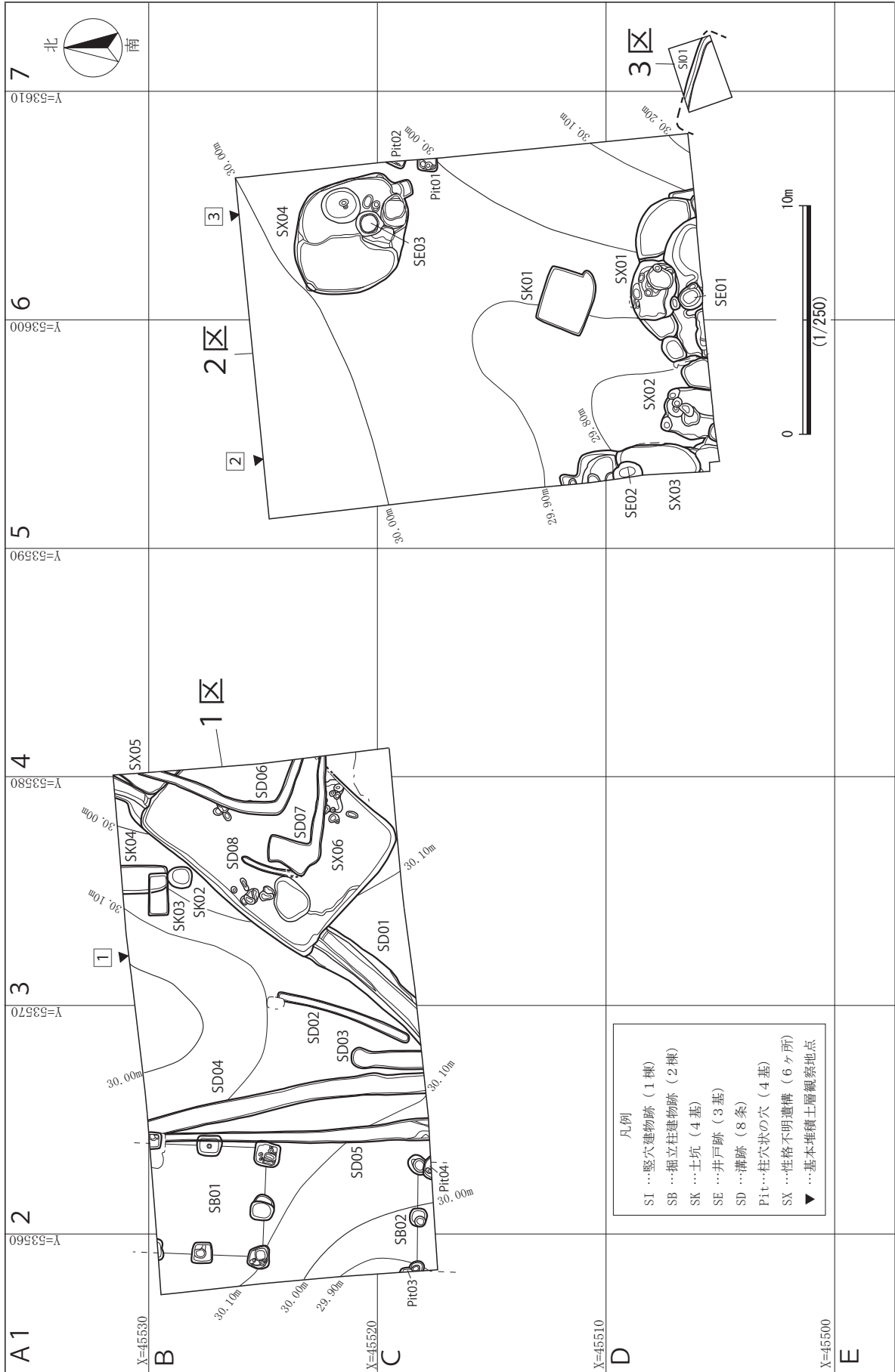
出土した遺物は、総点数5,184点であった。瓦は4,013点・254,752gで主体をなしており、内訳は丸瓦680点・50,642g、平瓦1,767点・172,484gとなる。その内軒丸瓦14点・3,556g、軒平瓦4点・2,384gが出土している。これに対し、土器類は土師器178点、須恵器245点が出土し、墨書土器の割合が比較的高い。

2 基本堆積土層

基本層序の観察は、A3グリッド内の1区北壁で行い、A5・6グリッド内の2区北壁で表土層厚の確認を行った（第5図参照）。①～③層は表土層である。1層は耕作土であるが、所々に②層が混在する①b層が認められる。③層は東方へ移行するに従い層厚を増しており、地形も徐々に低くなっていくことが把握された。その③層から七本桜軽石粒とみられる白色粒が含まれるようになり、④～⑤層にかけて白色粒の量が増し、⑤層が七本桜軽石主体の層となっている。遺構の確認面は④層上面である。⑥層以下ではローム層が認められず、粘性を持つ層が堆積する。下層になるほど粘性が強まる傾向にあり、⑪層で灰白色の粘性が非常に強い層に達する。



第4図 基本堆積土層図



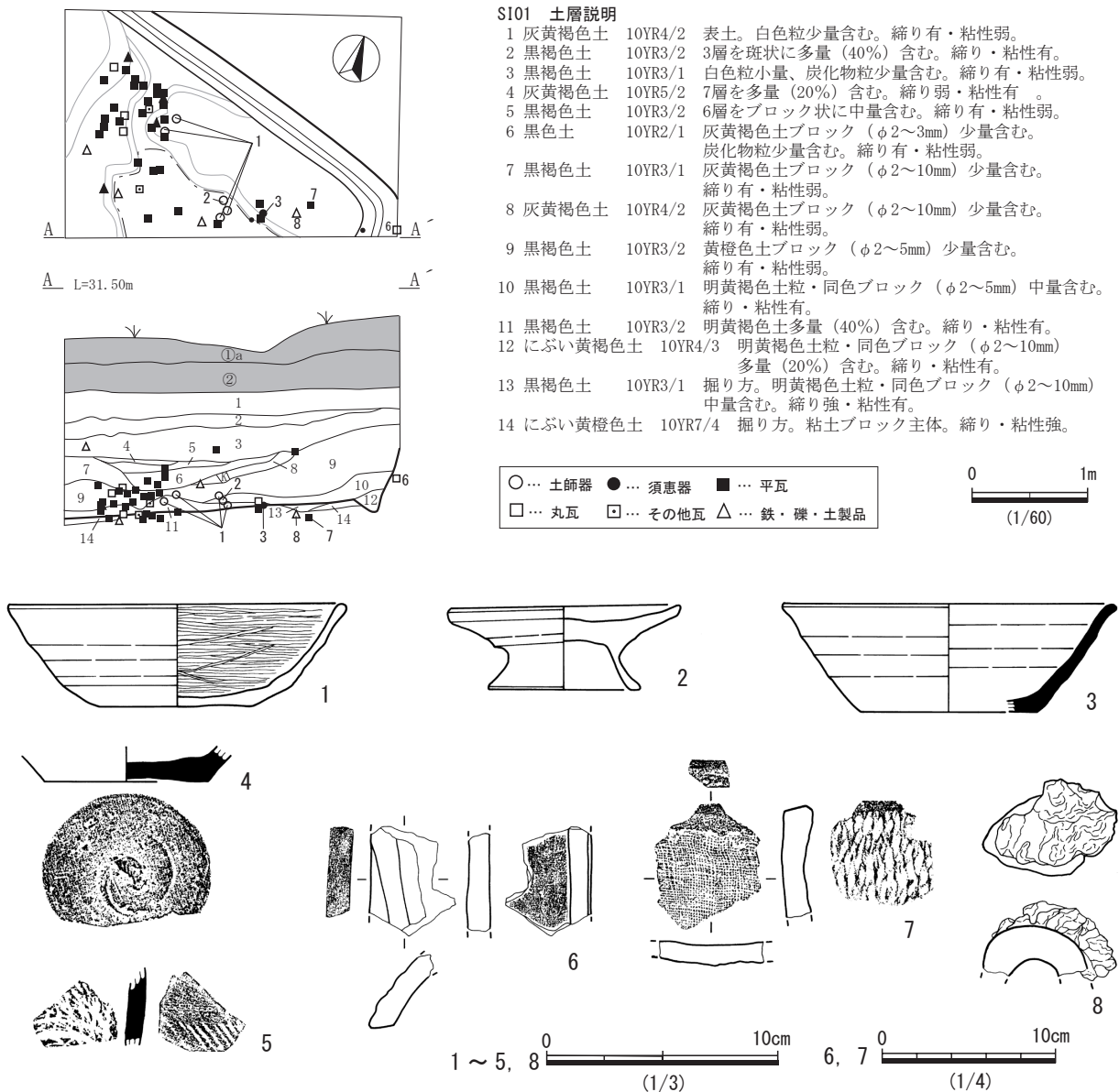
第5図 遺構全体図

3 検出された遺構と遺物

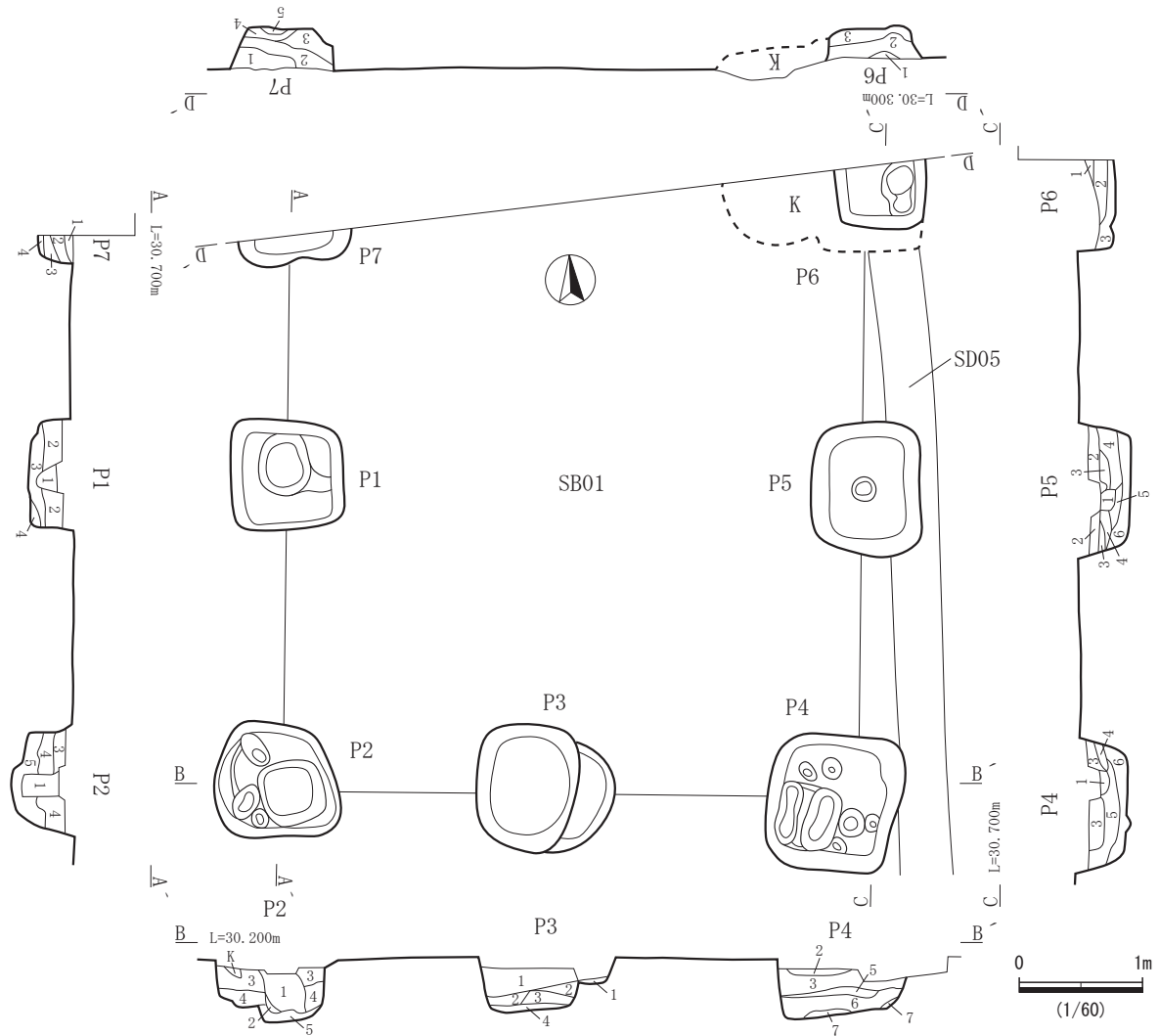
(1) 竪穴建物跡

SI01 (第6図, 写真図版5)

検出位置は3区D6・7グリッドである。調査区が狭く、北壁を確認するのみである。調査区の東壁際に南側へ折れるため、北東隅部分と考えられる。深さは74cmを測り、北壁に直交する方向を主軸と見た場合N-17°-Eを示す。壁際には幅10cm、深さ2~4cmの周溝とみられる落ち込みが認められ、覆土は黒褐色土を主体とするが、層が乱れているため人為堆積と考えられる。床面は平坦で一部硬化する。掘り方は壁際をやや深めに掘り下げている。遺物は土師器11点、須恵器7点、瓦66点が出土し、羽口や鉄滓の破片も認められる。本遺構は、北壁が直線状に延び、SX03のように挟られた痕跡がないこと、南東隅で方形状に回り込んでいることから竪穴建物跡と判断したが、カマドや柱穴などが確認できず粘土採掘坑の可能性もある。遺物は瓦片と土器片が混在していることから遺構廃絶後に投棄されたとみられ、出土した土器から9世紀後半以降には廃絶していたと考えられる。



第6図 SI01・出土遺物



SB01P1 土層説明

- 1 黒褐色土 10YR3/1 白色粒少量含む。縮り・粘性弱。
- 2 黒褐色土 10YR3/1 白色粒微量含む。縮り・粘性有。
- 3 黒色土 10YR2/1 灰黄色粘土ブロック (φ2~5mm) 微量含む。縮り強・粘性有。
- 4 黒色土 10YR2/1 灰黄色粒中量含む。縮り・粘性弱。

P2 土層説明

- 1 黒褐色土 10YR3/1 灰黄色粒中量含む。縮り・粘性弱。
- 2 黒褐色土 10YR3/2 白色粒, 灰白色粘土, 灰黄色粘土ブロック (φ5~20mm) 中量含む。縮り・粘性有。
- 3 にぶい黄褐色土 10YR4/3 灰黄色粘土ブロック (φ5~20mm) 密に含む。縮り強・粘性有。
- 4 にぶい黄褐色土 10YR5/3 灰白色粘土, 灰黄色粘土ブロック (φ5~30mm) 密に含む。縮り・粘性有。
- 5 にぶい黄褐色土 10YR4/3 灰白色粘土, 灰黄色粘土ブロック (φ5~10mm) 密に含む。縮り強・粘性有。

P3 土層説明

- 1 黒褐色土 10YR3/1 白色粒微量含む。縮り有・粘性弱。
- 2 灰黄褐色土 10YR4/2 白色粒少量, 灰黄色粘土ブロック (φ2~5mm) 微量含む。縮り・粘性有。
- 3 黒色土 10YR2/1 灰黄色粘土ブロック (φ2~7mm) 微量含む。縮り・粘性有。
- 4 黒色土 10YR2/1 灰白色粘土, 灰黄色粘土ブロック (φ5~10mm) 多量 (20%) 含む。縮り・粘性有。

P4 土層説明

- 1 黒褐色土 10YR3/1 白色粒少量含む。縮り・粘性弱。
- 2 黒褐色土 10YR3/2 灰白色粘土, 灰黄色粘土ブロック (φ2~10mm) 少量含む。縮り・粘性有。
- 3 灰黄褐色土 10YR4/2 灰白色粘土, 灰黄色粘土ブロック (φ5~15mm) 多量 (40%) 含む。縮り・粘性有。
- 4 黒褐色土 10YR3/1 灰白色粘土, 灰黄色粘土ブロック (φ10~40mm) を密に含む。縮り・粘性有。

- 5 黒褐色土 10YR3/2 灰白色粘土, 灰黄色粘土ブロック (φ5~10mm) 中量含む。縮り・粘性有。
- 6 灰黄褐色土 10YR4/2 灰白色粘土, 灰黄色粘土ブロック (φ5~30mm) を密に含む。縮り・粘性有。
- 7 暗灰黄色土 2.5Y5/2 灰白色粘土, 灰黄色粘土ブロック主体。縮り・粘性有。

P5 土層説明

- 1 黒褐色土 10YR3/1 白色粒, 灰黄色粒少量含む。縮り・粘性弱。
- 2 黒褐色土 10YR3/2 灰白色粘土, 灰黄色粘土ブロック (φ2~10mm) 少量含む。縮り・粘性有。
- 3 灰黄褐色土 10YR4/2 灰白色粘土, 灰黄色粘土ブロック (φ5~30mm) を密に含む。縮り・粘性有。
- 4 黒色土 10YR2/1 白色粒, 灰黄色粒微量含む。縮り有・粘性弱。
- 5 黒色土 10YR2/1 灰白色粘土, 灰黄色粘土ブロック (φ5~40mm) を密に含む。縮り・粘性強。
- 6 灰黄褐色土 10YR4/2 灰白色, 灰黄色粘土ブロック主体。縮り・粘性強。

P6 土層説明

- 1 暗褐色土 10YR3/3 白色粒微量含む。縮り有・粘性弱。SD05覆土。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 白色粒少量, 灰黄色粘土ブロック (φ5~15mm) 多量 (40%) 含む。縮り・粘性有。
- 3 黒褐色土 10YR3/1 灰黄色粘土ブロック (φ2~10mm) 中量含む。縮り・粘性有。

P7 土層説明

- 1 黒褐色土 10YR3/1 灰黄色粘土ブロック (φ5~15mm) 少量含む。縮り有・粘性弱。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 灰黄色粘土ブロック (φ2~10mm) 多量 (40%) 含む。縮り・粘性有。
- 3 にぶい黄褐色土 10YR4/3 灰黄色粘土ブロック (φ5~15mm) を密に含む。縮り・粘性有。
- 4 黒褐色土 10YR3/1 灰黄色粘土ブロック (φ2~10mm) 中量含む。縮り・粘性有。
- 5 灰黄色土 2.5Y6/2 粘土主体。黒褐色土中量含む。縮り・粘性有。

第7図 SB01

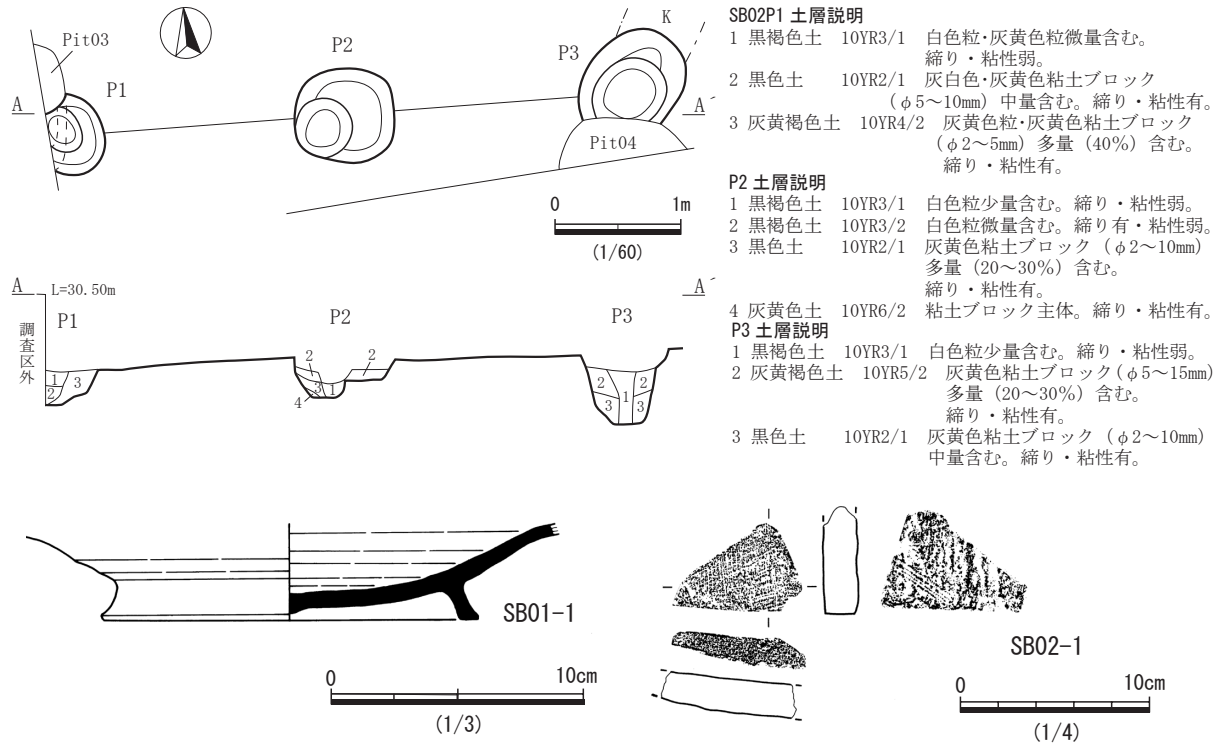
(2) 掘立柱建物跡

SB01 (第7・8図, 写真図版2)

検出位置は1区B 1・2グリッドである。北側が調査区外へ延び、P5-6の一部はSD05に切られる。側柱構造の建物跡で、桁行2間以上、梁行2間の南北棟とみられる。規模は桁行4.6m以上、梁行長4.5m(約15尺)を測り、建物の傾きはN-4°-Eを示す。柱穴は7基確認し、平面形は方形を基調とする。柱穴の規模は長軸90~109cm、深さは30~52cmの範疇である。柱痕跡及び柱掘り方に基づく柱間寸法はP1~P2間が2.5m、P2~P3間が2.0m、P3~P4間が2.6m、P4~P5間が2.5m、P5~P6間とP1~P7間はP6・7の全容が不明ではあるが2.0~2.5mと考えられる。埋土は粘土粒と少量の粘土ブロックを含む黒色土・黒褐色土と粘土ブロックを多く含む灰黄褐色土・にぶい黄褐色土が互層に堆積し、P1・2・4・5では径20~30cmの柱痕跡が認められる。遺物は土師器3点、須恵器2点、瓦4点が出土した。第8図1はP2検出面から出土した須恵器盤である。この遺物の時期から8世紀末~9世紀初頭には既に埋没していたと考えられる。

SB02 (第8図, 写真図版2)

検出位置は1区C 1・2グリッドである。遺構の大半が南側及び西側の調査区外へ延び、P1がPit03に切れ、P3がPit04と重複するが新旧関係は把握できなかった。柱穴は3基確認し、第155次調査の結果を併せると、側柱構造の建物跡で、桁行4間、梁行2間の南北棟の可能性が高く、今次調査部分は北側の梁行列に該当する。梁行長は4.5m(15尺)を測り、建物の傾きはN-2°-Eを示す。柱穴の平面形はP2が方形を基調とするが両端のP1・3は円形状になる。柱穴の規模は長軸80~90cm、深さはP1・2が28~57cmでP3のみが極端に深い。柱痕跡及び柱掘り方に基づく柱間寸法は2.25mの等間隔である。埋土は粘土粒と少量の粘土ブロックを含む黒色土・黒褐色土と粘土ブロックを多く含む灰黄褐色土が互層に堆積し、径20cm前後の柱痕跡が認められる。遺物は須恵器1点瓦1点が出土した。時期は出土遺物からの判断は難しく、覆土の状態からSB01と類似した時期と考えられる。



(3) 土坑

SK01 (第9図)

検出位置は2区C 5・6グリッドである。平面形状は長方形で南東側が瘤状に突出し、断面は皿状になる。規模は長軸 2.54 m, 短軸 2.22 m, 深さ 14 cmを測り、長軸方向はN-71°-Wを示す。覆土は粘土ブロックを多く含む人為堆積とみられる。遺物は瓦2点の細片が出土したのみで、覆土の状態からも時期の判断は困難であった。

SK02 (第9図)

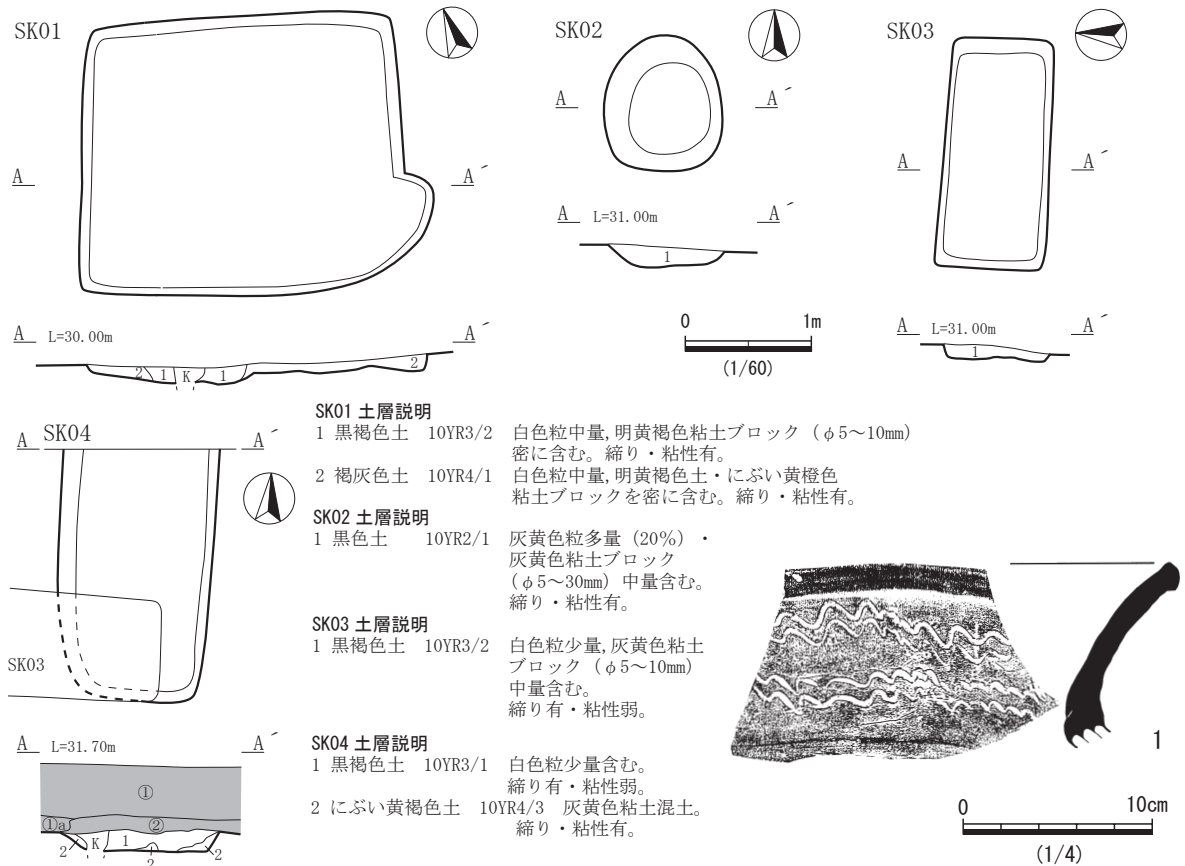
検出位置は1区B 3グリッドである。平面形状はほぼ円形で、断面は皿状になる。規模は径 0.96 ~ 1.06 m, 深さ 16 cmを測り、長軸方向はN-0°を示す。覆土は粘土ブロックを含む黒色土の単層である。遺物は出土せず、覆土の状態からも時期の判断は困難であった。

SK03 (第9図)

検出位置は1区B 3グリッドである。SK04を切る。平面形状は長方形、断面は皿状で、規模は長軸 1.86 m, 短軸 0.85 m, 深さ 11 cmを測り、長軸方向はN-89°-Wを示す。覆土は粘土ブロックを含む黒褐色土の単層で、出土遺物はないが、状態がSK04に類似することから時期は9世紀代と考えられる。

SK04 (第9図, 写真図版2)

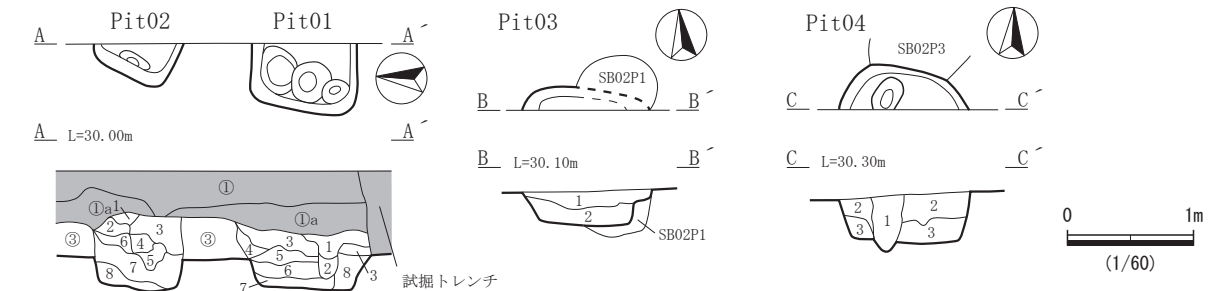
検出位置は1区A・B 3グリッドである。北側が調査区外に延び、南側でSK03に切られる。平面形状は長方形で、断面は皿状になる。規模は長軸 2.03 m以上, 短軸 1.25 m, 深さ 16 cmを測り、長軸方向はN-89°-Eを示す。覆土は黒褐色土が主体である。遺物は覆土中から土師器9点, 須恵器3点, 瓦1点が出土した。出土遺物から9世紀代に埋没したと考えられる。



第9図 SK01 ~ 04, SK04 出土遺物

(4) ピット (第10図)

掘立柱建物跡に伴わない柱穴状のピットを1・2両区で各2基、合計4基を確認した。Pit01・02は2区C6グリッドに位置し、東側の調査区外へ延びる。形状はともに方形で、規模はPit01が東西56cm以上、南北84cm、深さ26cm、Pit02が東西30cm以上、南北68cm以上、深さ24cmを測り、形状や規模が類似するため関連性があると思われる。調査区壁の土層では遺構確認面より上層の③層を切り込んでいるため今次調査の他の遺構より新しい可能性がある。Pit03は1区C1グリッドに位置し、大半が西側調査区外に延びため全容は不明であるが、SB02・P1を切り、深さは28cmを測る。Pit04は同区C2グリッドに位置し、南側調査区外に延びる。SB02・P3と重複するが新旧関係は把握できない。規模は東西102cm、南北33cm以上、深さ38cmを測り、径22cmの柱痕跡が認められる。Pit03・04両ピットはSB02で据え替えられた柱穴の可能性も考えられる。



Pit01 土層説明

- 1 黒褐色土 10YR3/1 白色粒, 灰黄色粒中量含む。締り有・粘性弱。
- 2 黒褐色土 10YR3/1 白色粒, 灰黄色粒, 灰黄色粘土ブロック (φ2~10mm) 多量 (20%) 含む。締り・粘性弱。
- 3 黒褐色土 10YR3/2 灰白色粘土ブロック (φ10~15mm), 灰黄色土ブロック (φ5~10mm) を密に含む。締り・粘性有。
- 4 黒褐色土 10YR3/2 白色粒, 灰黄色粒中量含む。締り・粘性有。
- 5 黒褐色土 10YR3/1 白色粒少量, 灰白色粘土, 灰黄色土ブロック (φ5~10mm) 中量, 黒色土を斑状に多量 (40%) 含む。締り有・粘性弱。
- 6 黒褐色土 10YR3/2 灰白色, 灰黄色粘土ブロック (φ5~20mm) を密に含む。締り・粘性有。
- 7 黒褐色土 10YR3/1 灰黄色粒少量含む。締り有・粘性弱。
- 8 黒褐色土 10YR3/2 灰黄色粘土ブロック (φ10~30mm) を密に含む。締り・粘性有。

Pit02 土層説明

- 1 にぶい黄褐色土 10YR4/3 白色粒, 灰黄色粒微量含む。締り有・粘性弱。

- 2 にぶい黄褐色土 10YR4/3 灰黄色粒少量含む。締り有・粘性弱。
- 3 暗褐色土 10YR3/4 白色粒, 灰黄色粒少量含む。締り有・粘性弱。
- 4 黒褐色土 10YR3/2 白色粒, 灰黄色粒微量含む。締り有・粘性弱。
- 5 黒褐色土 10YR3/2 灰黄色粒中量, 斑状の黒色土を少量含む。締り有・粘性弱。

- 6 灰黄褐色土 10YR5/2 白色粒を斑状に少量, 灰黄色粒中量含む。締り有・粘性弱。

- 7 黒褐色土 10YR3/2 灰白色粘土ブロック (φ10~30mm), 灰黄色土ブロック (φ5~20mm) を密に含む。締り・粘性有。
- 8 黒褐色土 10YR3/1 灰黄色粒微量含む。締り有・粘性弱。

Pit03 土層説明

- 1 黒褐色土 10YR3/1 白色粒少量, 灰黄色粘土ブロック (φ5~30mm) 多量 (40%) 含む。締り・粘性有。
- 2 黒色土 10YR1.7/1 灰黄色粘土ブロック (φ2~10mm) 多量 (20%) 含む。締り・粘性有。

Pit04 土層説明

- 1 黒褐色土 10YR3/1 白色粒少量含む。締り・粘性弱。
- 2 黒褐色土 10YR3/2 白色粒微量含む。締り有・粘性弱。
- 3 灰黄褐色土 10YR4/2 白色粒中量含む。締り・粘性有。

第10図 Pit01～04

(5) 溝跡

SD02 (第11図, 写真図版2)

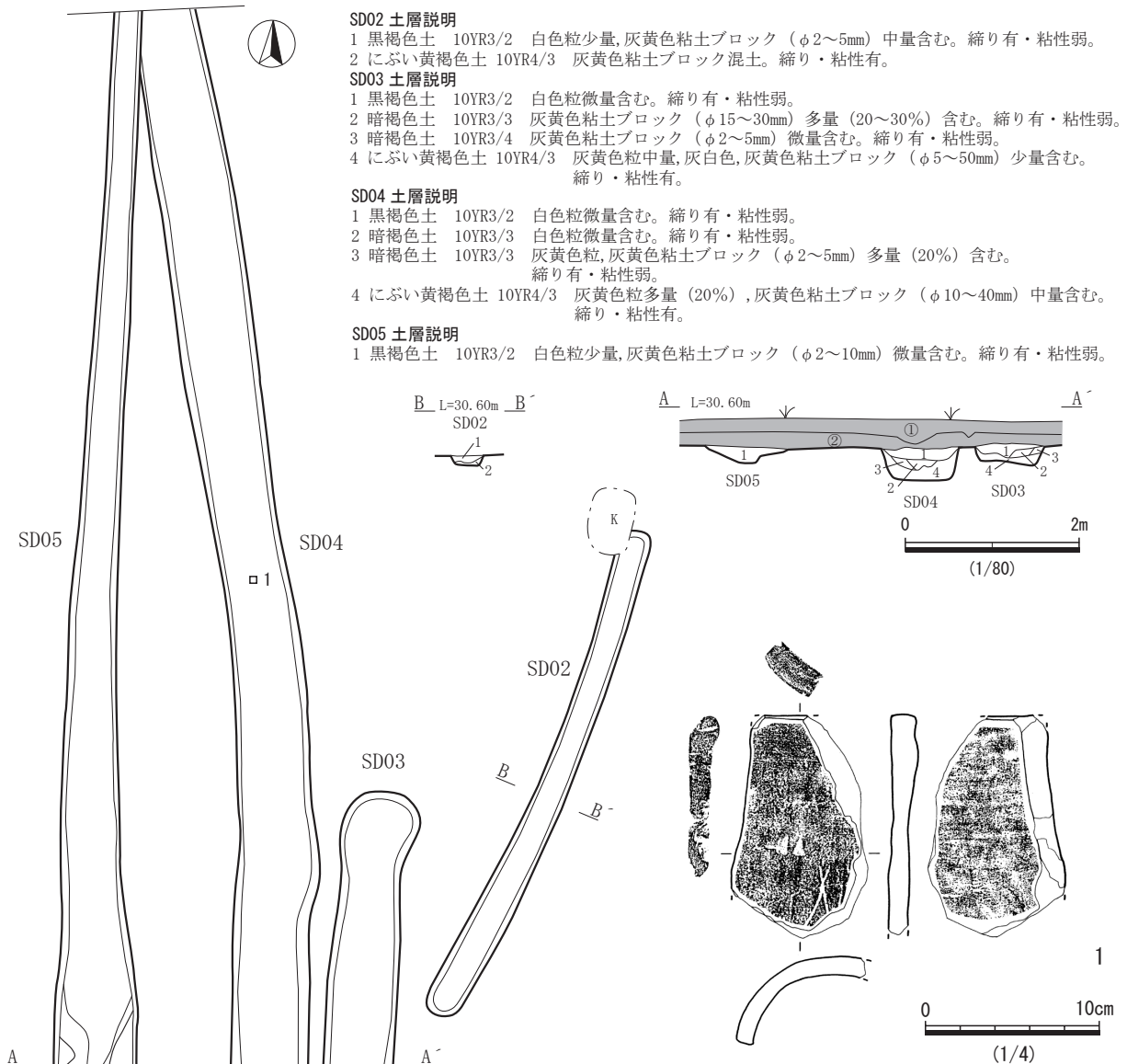
検出位置は1区B2・3, C2グリッドである。断面は半月状になり、走行方向はN-15°-Eを示す。検出長は6.04m, 上端幅0.34~0.45m, 下端幅0.23~0.30m, 深さ12cmを測る。覆土は黒褐色土主体の人為堆積である。遺物は瓦2点が出土するが混入の可能性があり、時期判断は困難であった。

SD03 (第11図, 写真図版2)

検出位置は1区B・C2グリッドである。断面は鍋底状になり、走行方向はN-0°を示す。検出長は3.10m, 上端幅0.68~0.82m, 下端幅0.52~0.65m, 深さ21cmを測る。覆土は黒褐色土と暗褐色土主体の人為堆積である。遺物は瓦2点が出土するが混入とみられ、時期判断は困難であった。

SD04 (第11図, 写真図版2)

検出位置は1区B・C2グリッドで、SB01・P6を切りSD05に切られる。断面は鍋底状になり、走行方向はN-4°-W~N-12°-Wを示す。検出長は12.30m, 上端幅0.74~0.90m, 下端幅0.63~0.73m,



第11図 SD02 ~ 05, SD04 出土遺物

深さ 36 cm を測る。覆土は粘土ブロックを多く含んだ暗褐色土とにぶい黄褐色土を主体とする人為堆積である。遺物は覆土中から土師器 4 点, 須恵器 4 点, 瓦 9 点が出土した。出土遺物の時期や覆土の状態から 9 世紀代には埋没したと考えられる。

SD05 (第11図, 写真図版2)

検出位置は 1 区 B・C 2 グリッドで, SB01・P5・6 と SD04 を切る。断面は半円状になり, 走行方向は N-0° ~ N-3°-W を示す。検出長は 12.30 m, 上端幅 0.32 ~ 0.92 m, 下端幅 0.23 ~ 0.74 m, 深さ 14 cm を測り, 南側へ移行するに従い幅広になる。覆土は黒褐色土の単層である。遺物は土師器 5 点, 須恵器 4 点, 瓦 17 点が出土したが, 混入の可能性があり, 覆土の状態からも時期を判断するのは困難であった。

SD06 (第12図, 写真図版3)

検出位置は 1 区 B 3・4 グリッドで, SX06 の 3 層を切り込む。断面は鍋底状になり, 走行方向は北側の N-21°-E から南側の N-67°-W へと方向転換し, 方形状に区画された可能性が高い。検出長は東西方向で 2.34 m, 南北方向で 5.60 m, 上端幅 0.48 m, 下端幅 0.35 m, 深さ 11 ~ 22 cm を測る。覆

SD06 土層説明

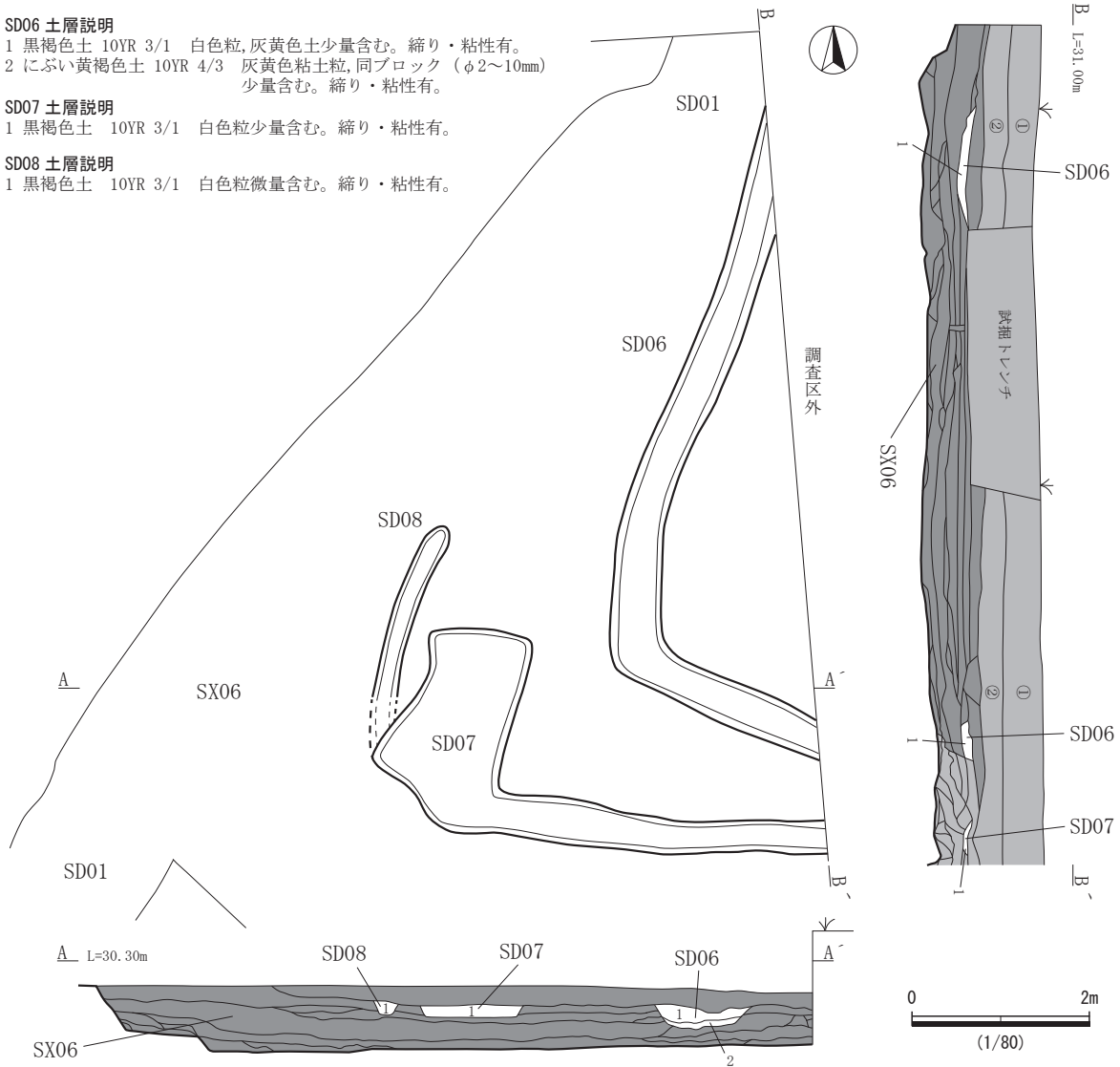
- 1 黒褐色土 10YR 3/1 白色粒, 灰黄色土少量含む。締り・粘性有。
- 2 にぶい黄褐色土 10YR 4/3 灰黄色粘土粒, 同ブロック (φ2~10mm) 少量含む。締り・粘性有。

SD07 土層説明

- 1 黒褐色土 10YR 3/1 白色粒少量含む。締り・粘性有。

SD08 土層説明

- 1 黒褐色土 10YR 3/1 白色粒微量含む。締り・粘性有。



第 12 図 SD06 ~ 08

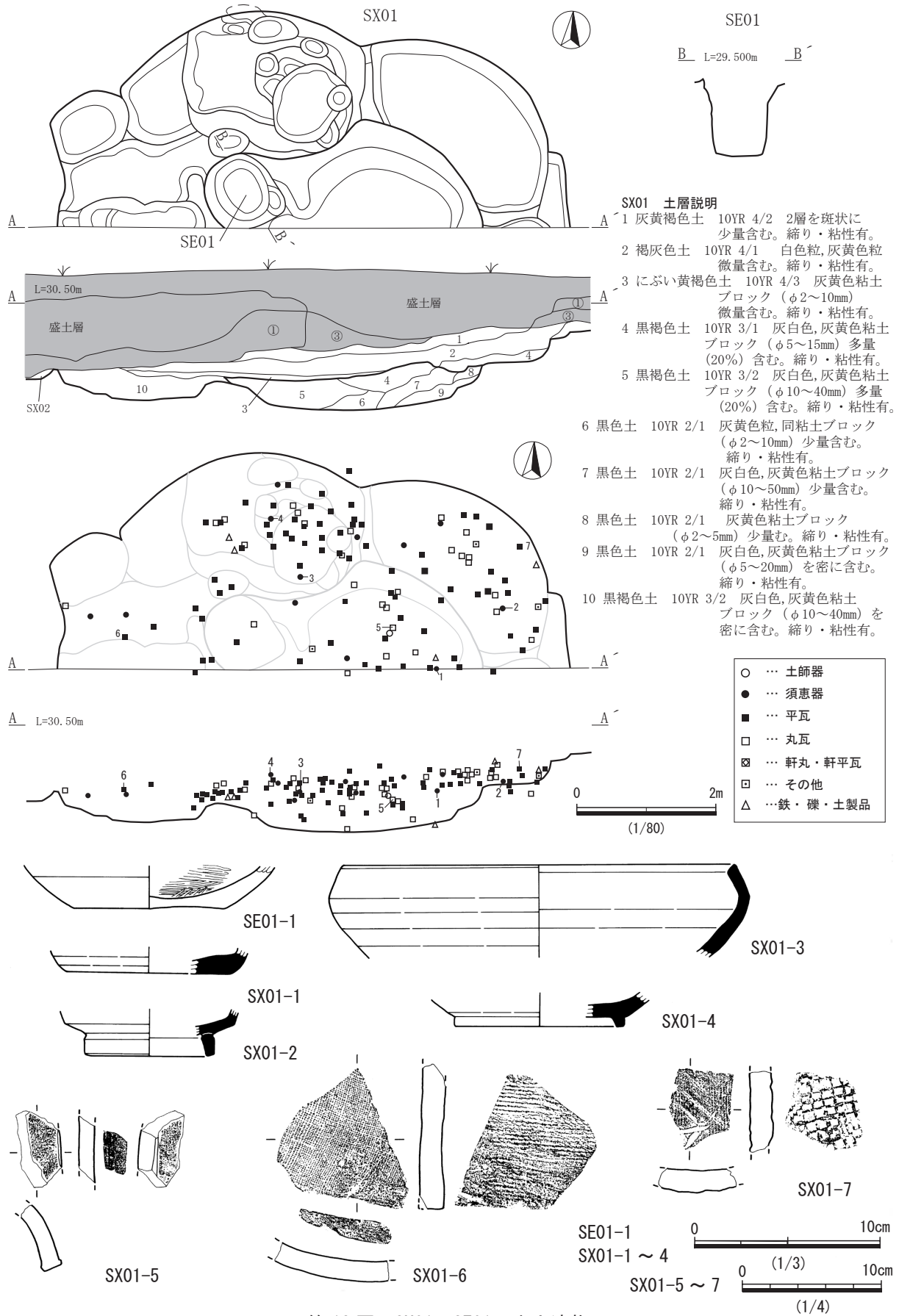
土は黒褐色土とにぶい黄褐色土の自然堆積である。遺物は SX06 と混在しているため、時期の判断は困難であった。

SD07 (第 12 図, 写真図版 3)

検出位置は 1 区 B 3・4 グリッドで, SX06 の 3 層を切り込む。断面は皿状になり, 走行方向は東側の N-85°-W から西側の N-14°-E へと方向転換し, 方形状に区画した可能性がある。検出長は東西方向で 4.34 m, 南北方向で 2.10 m, 上端幅 0.37 ~ 1.28 m, 下端幅 0.16 ~ 1.14 m, 深さ 6 ~ 15 cm を測り, 西側へ移行するに従って幅が広さを増す。覆土は黒褐色土の単層である。遺物は SX06 と混在しているため, 時期の判断は困難であった。

SD08 (第 12 図, 写真図版 3)

検出位置は, 1 区 B 3 グリッドで SX06 の 3 層を切り込む。断面は半円状で, 走行方向は N-22°-E を示す。南側で浅くなり検出不能となるが, SD07 と接続し区画した可能性がある。検出長は 1.46 m, 上端幅 0.25 m, 下端幅 0.16 m, 深さ 2 ~ 14 cm を測り, 覆土は黒褐色土の単層である。遺物は SX06 と混在しているため, 時期の判断は困難であった。

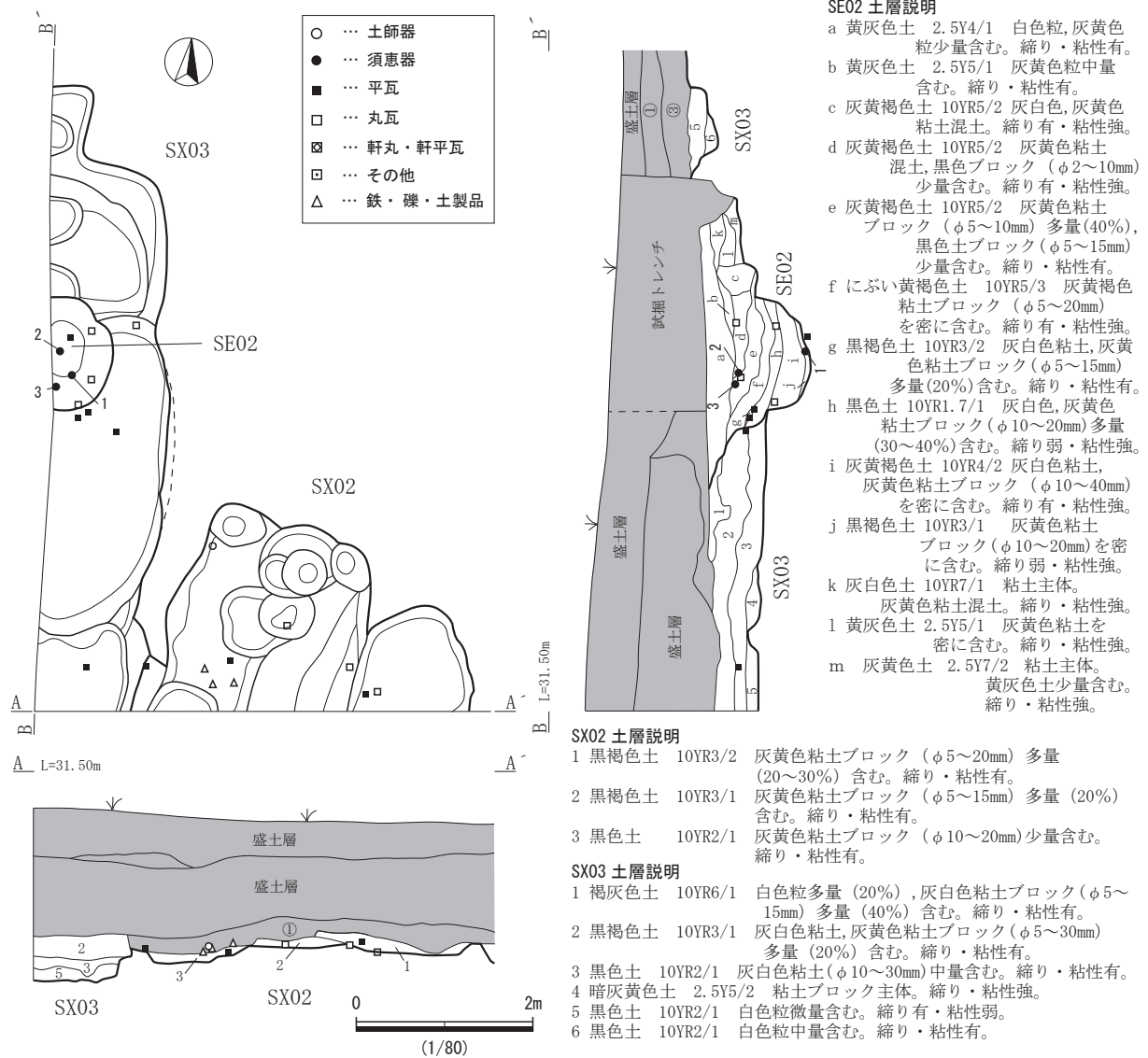


第13図 SX01, SE01・出土遺物

(6) 性格不明遺構・井戸跡

SX01・SE01 (第13図, 写図図版4)

検出位置は2区D5・6グリッドで、南側は調査区外に延びる。SX01の中にSE01が重複し、SX01廃棄後にSE01が構築されたと考えられる。また、西側ではSX02と重複するが新旧関係は把握できず、同一遺構の可能性が高い。SX01は楕円形状の掘り込みが幾重にも重なり、全体に歪な形状であることから粘土採掘坑の可能性が高い。個々の掘り込みは長軸が1.2～3.3m、深さ36～92cmと差が大きく、壁は奥へ抉られている。全体の規模は東西長7.50m以上、南北長3.14m以上を測り、覆土は粘土ブロックを多く含んだ黒色土・黒褐色土の人為堆積である。一方、SE01は円形を基調とした素掘りの井戸で、粘土層を掘り込み礫層まで達していた。円筒形に穿たれた下部の規模は、長軸1.08m、短軸1.00m、確認面から底部までの深さは130cmを測る。覆土は粘土ブロックを多く含む締りの弱い土で埋め戻されているが、SX01の4～6層はSE01に伴う上部覆土の可能性もある。SE01廃棄後の覆土は、SX01を含め灰黄褐色土・褐灰色土を主体とした自然堆積(1～3層)で全体が覆われている。SX01では土師器16点、須恵器19点、瓦の破碎片314点が上層を中心に混在して出土しており、SE01から出土した土器などから見ると、9世紀後半以降には埋没したと考えられる。



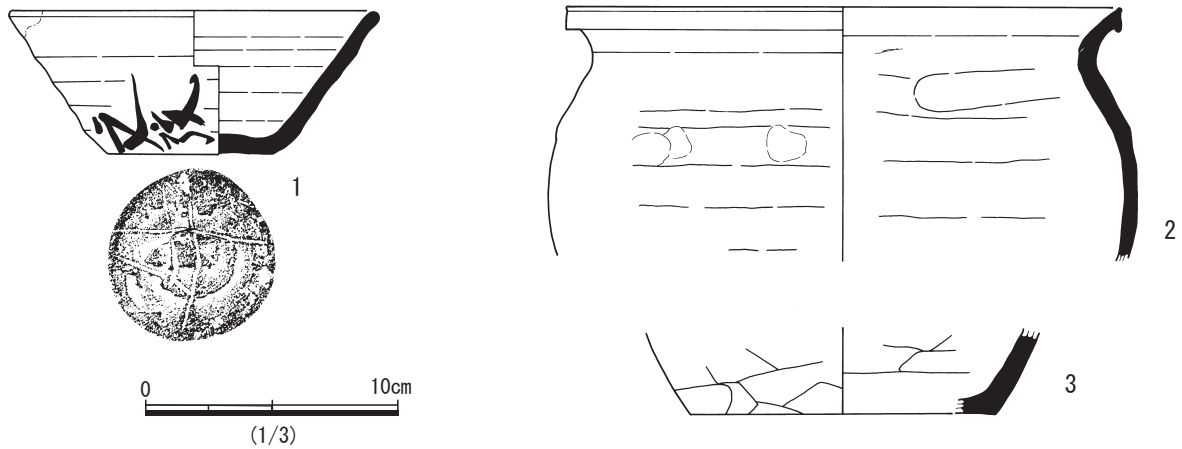
第14図 SX02・03, SE02

SX02 (第14・15図, 写真図版4)

検出位置は2区D5グリッドである。南側は調査区外に延び、西側でSX03と、東側ではSX01と重複するが新旧関係は把握できず、同一遺構の可能性が高い。平面形は長形状や円形状の掘り込みが重なり、全体に歪な形状であることから粘土採掘坑の可能性が高い。東西の長さは2.57 m以上、南北の長さは2.21 m以上を測り、深さは20 cm前後でSX01に比べてかなり浅い。覆土は黒褐色土が主体の自然堆積と考えられる。遺物は土師器1点、須恵器1点、瓦12点が出土したが、細片が多く、覆土の状態からも時期判断は困難であった。

SX03・SE02 (第14・15図, 写真図版4・5)

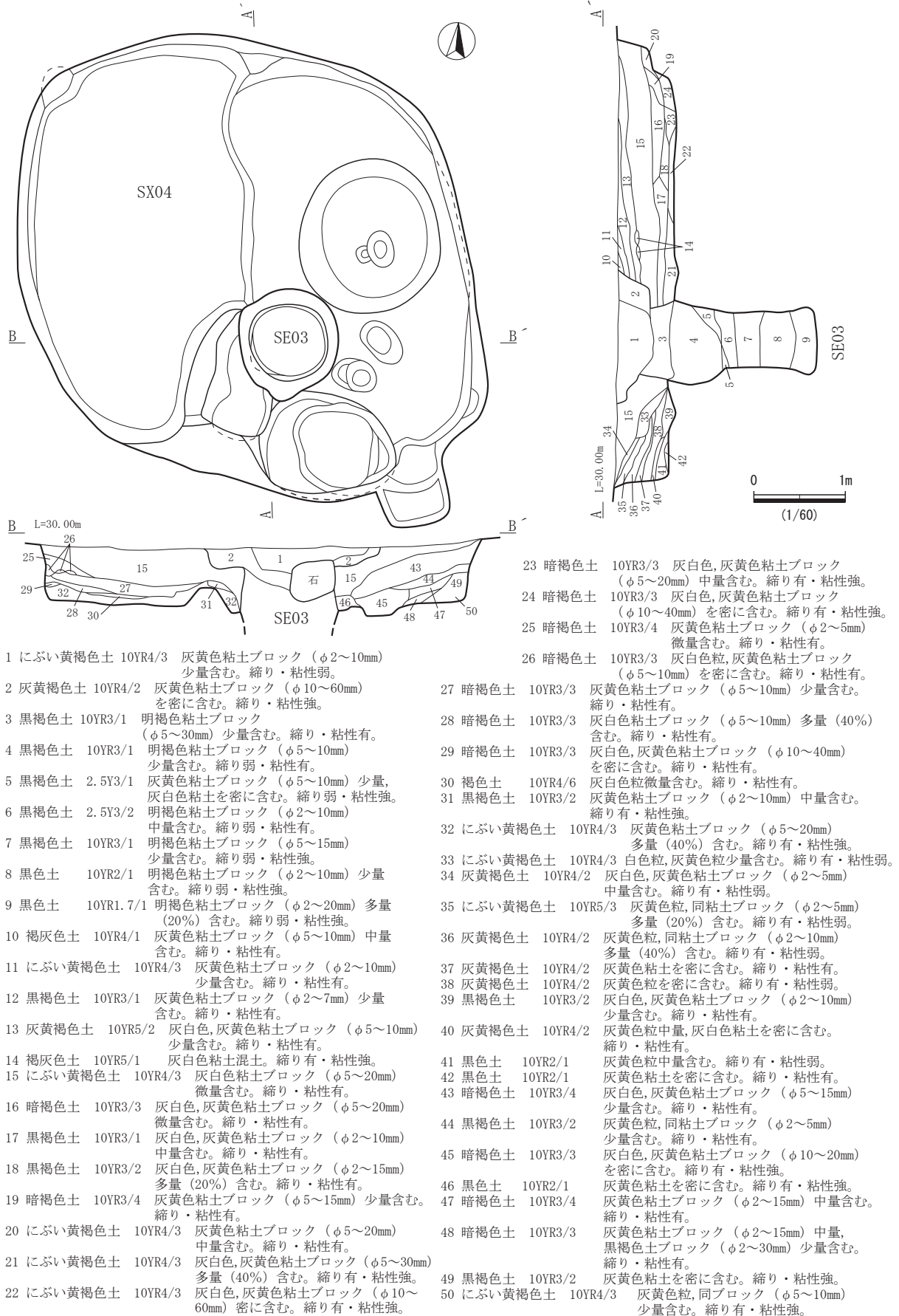
検出位置は2区C・D5グリッドで、西側は調査区外に延びる。SX03は中央やや北寄り、SE02に、南東側でSX02に切られており、歪状に掘り込まれ東壁も奥へ抉られていることから、粘土採掘坑の可能性が高い。SE02を含めた規模は東西長1.31 m以上、南北長7.21 m以上を測り、覆土は黒色土と黒褐色土を主体とした自然堆積である。一方、SE02は円形を基調とした素掘りの井戸で、粘土層を掘り込み礫層まで達していた。開口部は漏斗状に広がり、穿たれた底部はU字状を呈する。北側には昇降を目的としたと考えられる高さ14 cmの段が認められる。規模は、開口部の径が2.20 m、確認面から基底部までの深さは117 cmを測り、覆土は粘土ブロックを多く含む黄灰色土・灰黄褐色土主体の人為堆積である。遺物は両遺構で土師器4点、須恵器5点、瓦31点が出土した。SE02下層から「文殊」と書かれた墨書土器(1)が正位で出土し、廃棄行為に用いられた可能性がある。この出土遺物からSE02は9世紀中葉頃に廃棄され、SX03はそれより以前に埋没したと考えられる。



第15図 SE02出土遺物

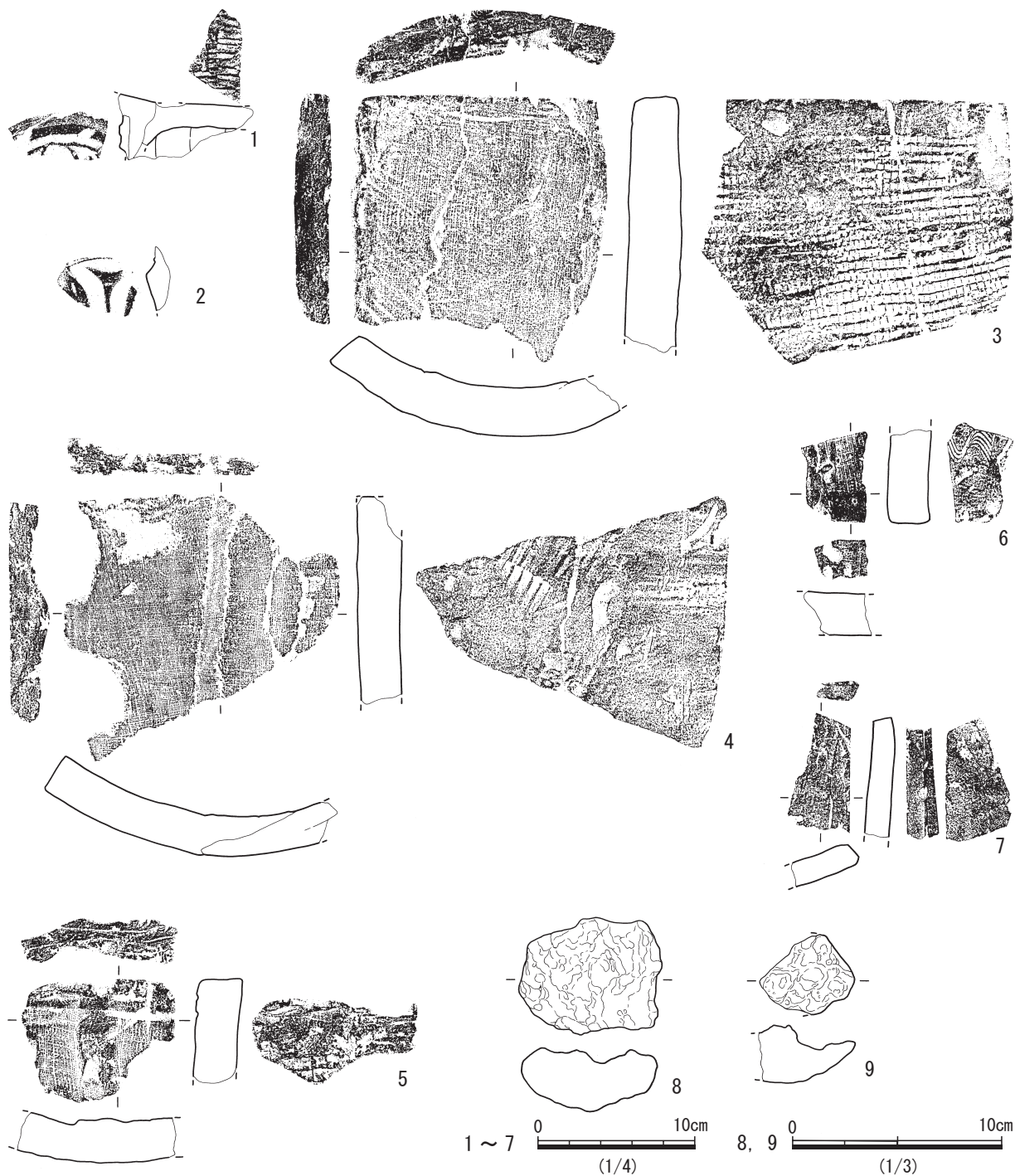
SX04・SE03 (第16～21図, 写真図版5)

検出位置は2区B・C6グリッドである。SX04の中にSE03が重複し、SX04廃棄後にSE03が構築されている。SX04は全体の平面形がやや歪な方形状であるが、数回にわたり長形状又は円形状に掘り込まれた痕跡が認められる。個々に掘り込まれたとみられ、深さはまちまちで段差が生じ、壁は一部が奥へ抉られていることから、粘土採掘坑の可能性が高い。規模は東西長5.03 m、南北長4.78 mを測り、覆土は上層から中層にかけて褐灰色土・灰黄褐色土主体の自然堆積、下層は粘土ブロックを多く含む黒褐色土・暗褐色土主体の人為堆積である。一方、SE03は円形を基調とした素掘りの井戸で、粘土層を掘り込み礫層まで達している。開口部は径1.91 mの播鉢状、下部は径0.6～1.0 mの円筒形で漏斗形を呈し、上部には粘土枠が施されている。確認面から基底部までの深さは211 cmで、覆土は粘土ブロックを含むしまりの弱い土で埋め戻され、50 cm大の花崗岩によって閉塞されて



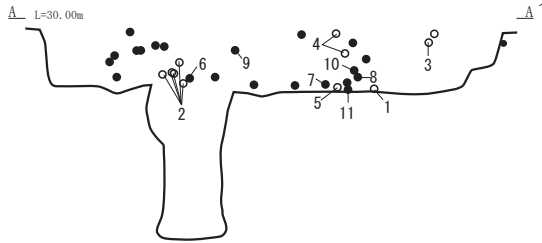
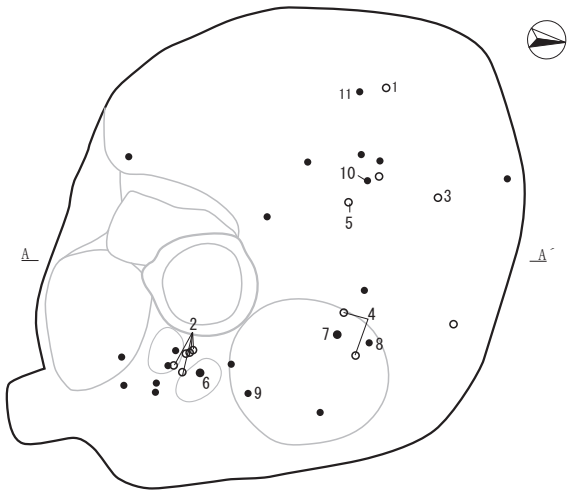
第 16 図 SX04, SE03

いた。遺物は両遺構で土師器 51 点、須恵器 67 点、瓦 2,063 点が出土し、鉄滓も認められる。土器類は SX04 の下層中心に出土し、特に墨書が施された 1 の土師器坏や 5 の耳皿は北西側の底面直上に、2 の土師器坏、6 の須恵器坏は南東側の下層から近接して出土している。6 の墨書は SE02 同様の「文殊」が書かれており、廃棄行為に関連している可能性がある。瓦類は遺構上層から下層にかけて全体から出土しており、特に井戸内の出土品は瓦が主体である。瓦は凹凸面が剥離するなど破碎したものがほとんどであるが、20・22～25 の平瓦、28 の隅切瓦は比較的大きめの破片で、底面直上から重なって出土しているものもある（写真図版 5・遺物出土状況）。土器類から見た場合、SX04 は 9 世紀中葉～後葉には埋没し、その後 SE03 が 9 世紀末から 10 世紀初頭にかけて機能していた可能性が高い。

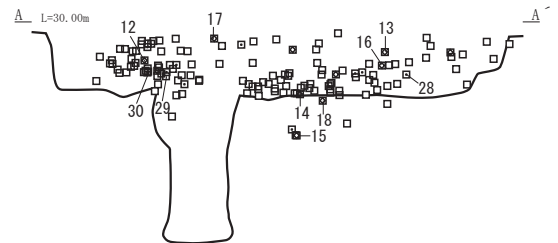


第17図 SE03 出土遺物

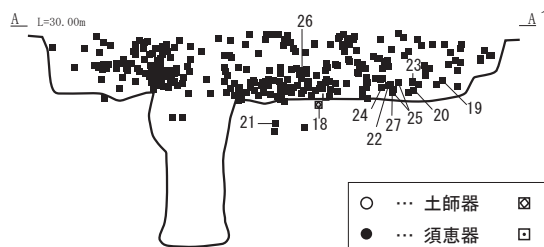
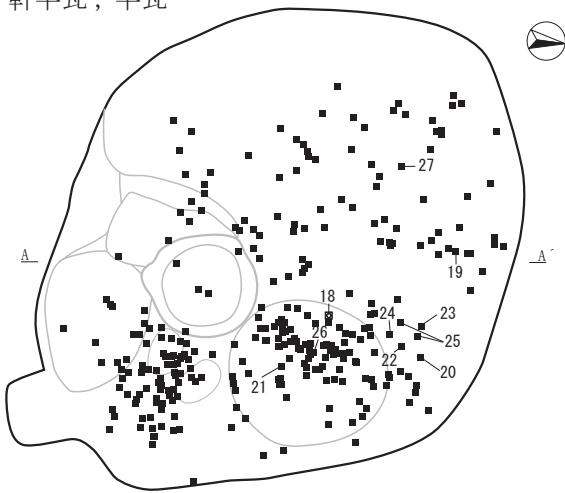
土師器，須恵器



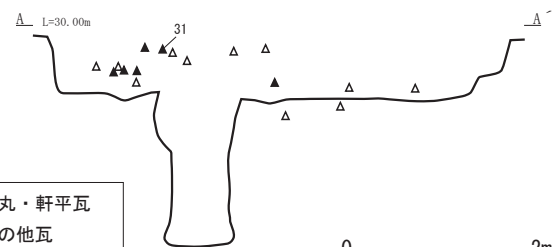
丸瓦，軒丸瓦，道具瓦，種別不明瓦



軒平瓦，平瓦



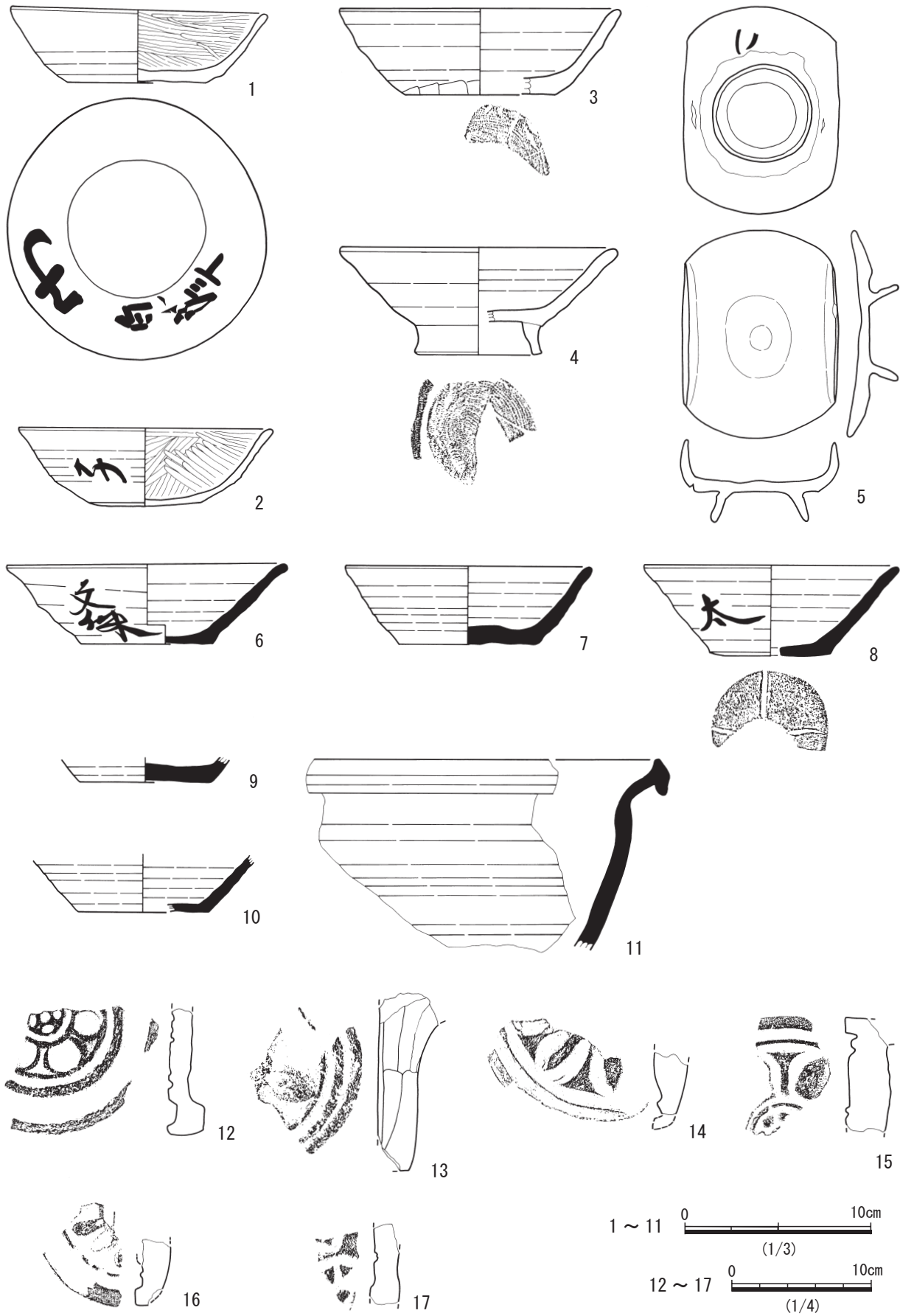
鉄滓，礫



- | | | | |
|---|-------|---|----------|
| ○ | … 土師器 | ⊠ | … 軒丸・軒平瓦 |
| ● | … 須恵器 | □ | … その他瓦 |
| ■ | … 平瓦 | ▲ | … 鉄滓 |
| □ | … 丸瓦 | △ | … 礫 |



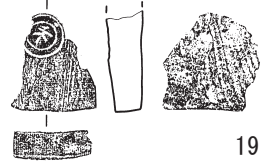
第 18 図 SX04 遺物出土分布図



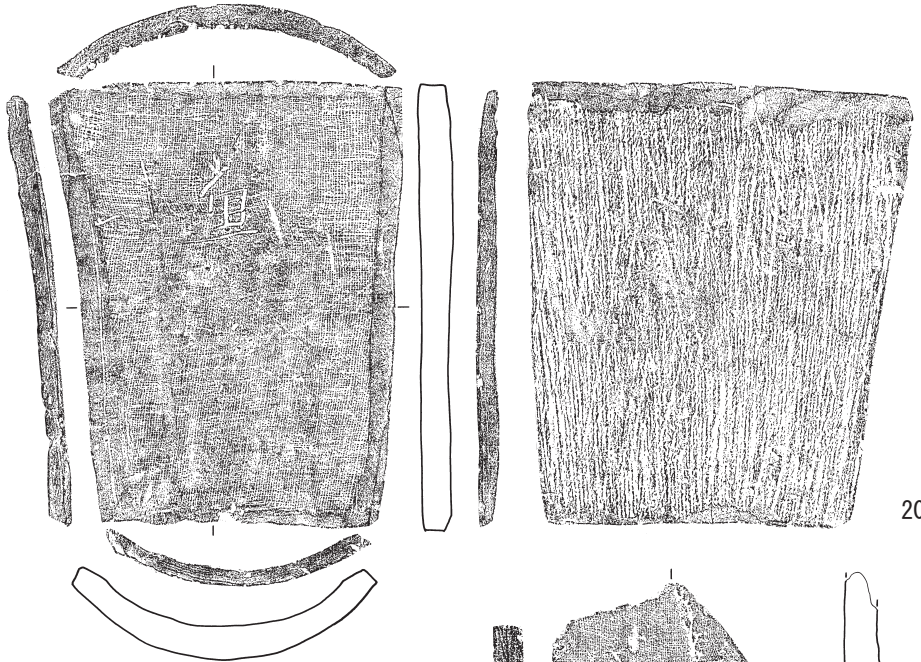
第19図 SX04 出土遺物 (1)



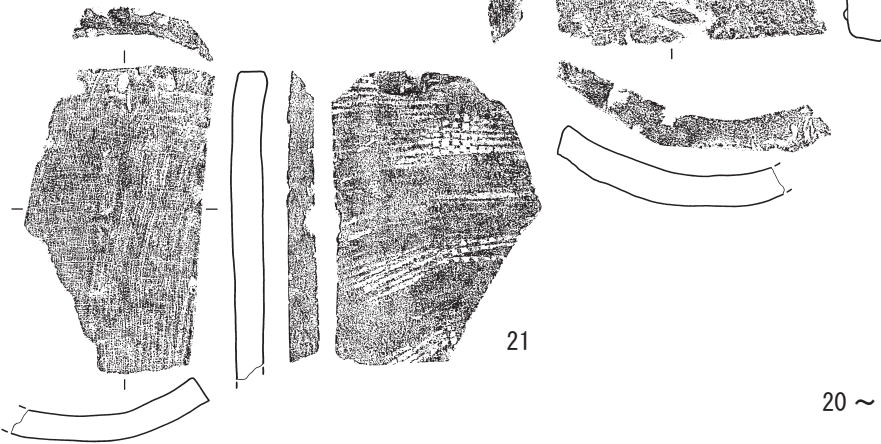
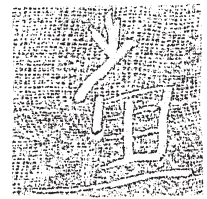
18



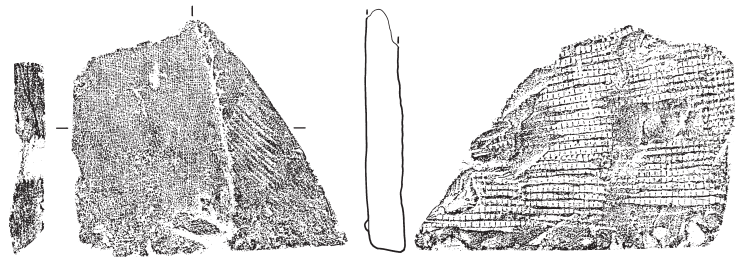
19



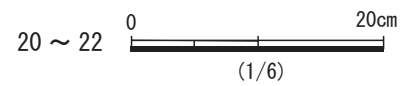
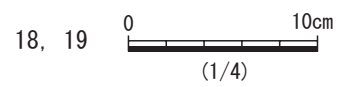
20



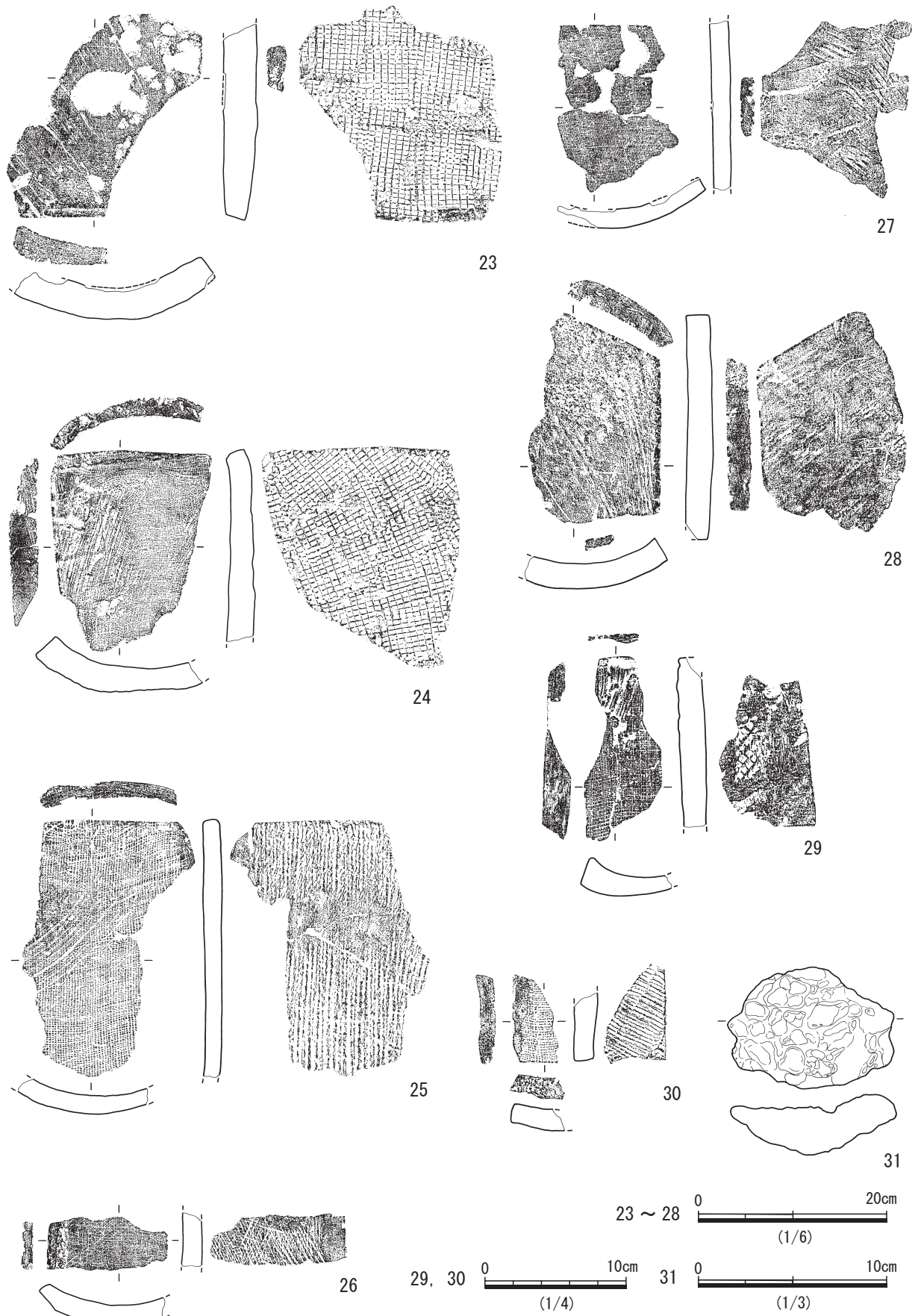
21



22



第20図 SX04 出土遺物(2)



第21図 SX04 出土遺物 (3)

(7) 性格不明遺構・溝跡

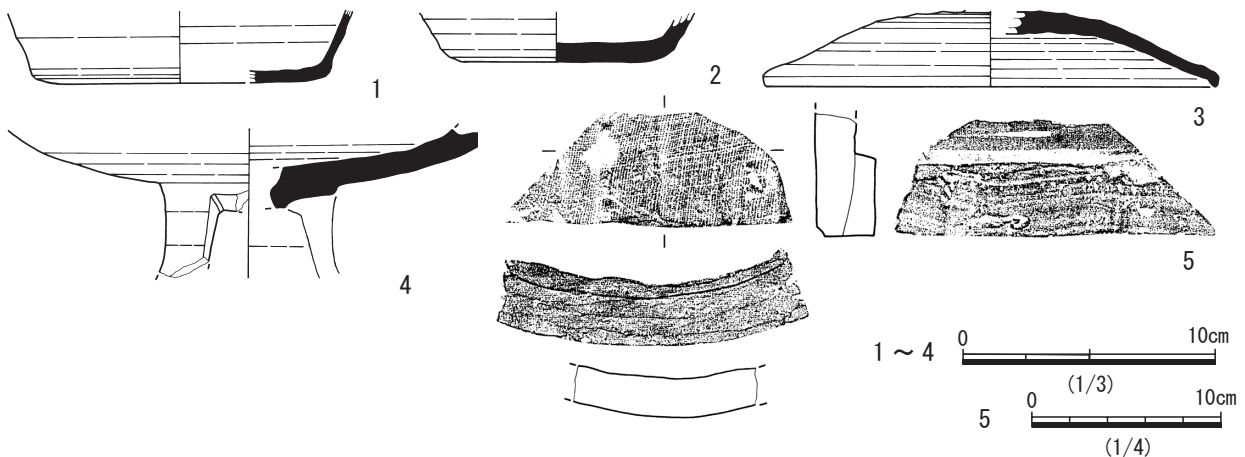
SX05・06, SD01 (第22～29図, 写真図版3)

SX05・06 及び SD01 は共に重複し合い関連性が強い遺構群と考えられる。そのため、SD01 は溝跡の項ではなく、本項で取り扱うこととする。

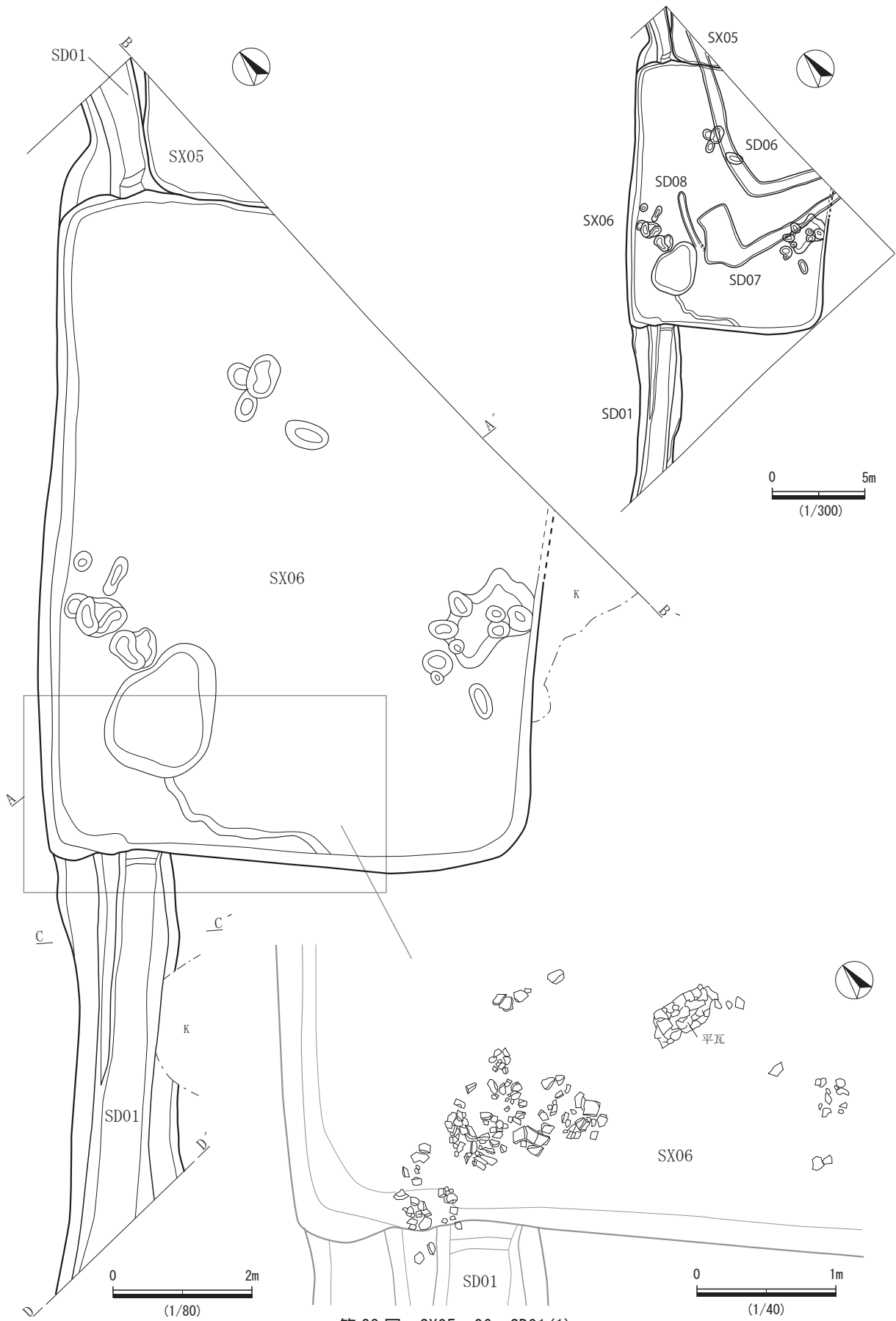
SX05 の検出位置は 1 区 A 3・4, B 3・4 グリッドである。東側は調査区外に延び、西側を SD01 に、南側を SX06 に切られているため規模・形状等全容は不明である。底面はほぼ平坦であるものの、壁は一部が外側へ傾ることから、粘土採掘坑の可能性もある。覆土は粘土ブロックを含む黒色土が主体である。遺物は出土せず、覆土の状態からも時期の判断は困難であったが、SX06 に切られていることから 9 世紀中葉以前には埋没していたと考えられる。

SX06 の検出位置は 1 区 A 3, B 3・4, C 3 グリッドである。東側は調査区外に延び、北東側で SX05 を切る。北東及び南西側で SD01 と重複し、新旧関係は認められない。SX06 部分の平面形は長方形とみられ、竪穴状で底面がほぼ平坦な掘り込みである。規模は長軸が 9.64 m, 短軸が 7.08 m, 深さ 72 cm を測り、覆土は上層が黄灰色土・暗灰黄色土, 下層が黒色土・黒褐色土を主体とした自然堆積である。SD01 接続部分には北東・南西両側で仕切りと考えられる帯状の高まりが横断し、南西側では 10 cm 程高い段が認められた。さらにこの周辺では平瓦とともに凝灰岩の破砕片が多量に散乱していた。底面には所々に土坑状やピット状の落ち込みが確認されるが規則性はうかがえない。遺物は土師器 71 点, 須恵器 100 点, 瓦 1,393 点で、土器, 瓦ともに混在した状態で出土している。平面的に見ると、遺構内のほぼ全域におよんで出土する傾向にあるが、その中でも特に B 4 グリッドに集中していることが把握された。一方、出土している層位では、上層から中層にかけての出土量が多目である。出土した土器から見た時期では、8 世紀前葉から 11 世紀中葉までと幅があるものの、概ね 8 世紀中葉～後葉と 9 世紀前葉～中葉に主体がある。ただ、出土遺物の時期差が大きいことと瓦を含めた出土層位を考えると、遺物は混入した可能性が高く本遺構に伴うかは不明瞭な出土状態であった。覆土と遺物の出土状況から、8 世紀中葉以降には徐々に埋没し、その過程で遺物が混入していったと考えられる。

SD01 の検出位置は、1 区 A 3～C 2 グリッドである。中央で SX06 と重複するが新旧関係は認められず、一連の遺構である可能性が高い。断面は逆台形で底面はほぼ平坦になり、走行方向は N-41°-E を示す。検出長は南西側で 6.35 m, 北東側で 1.88 m, 上端幅 1.30～1.66 m, 下端幅 0.45～0.58 m, 深さ



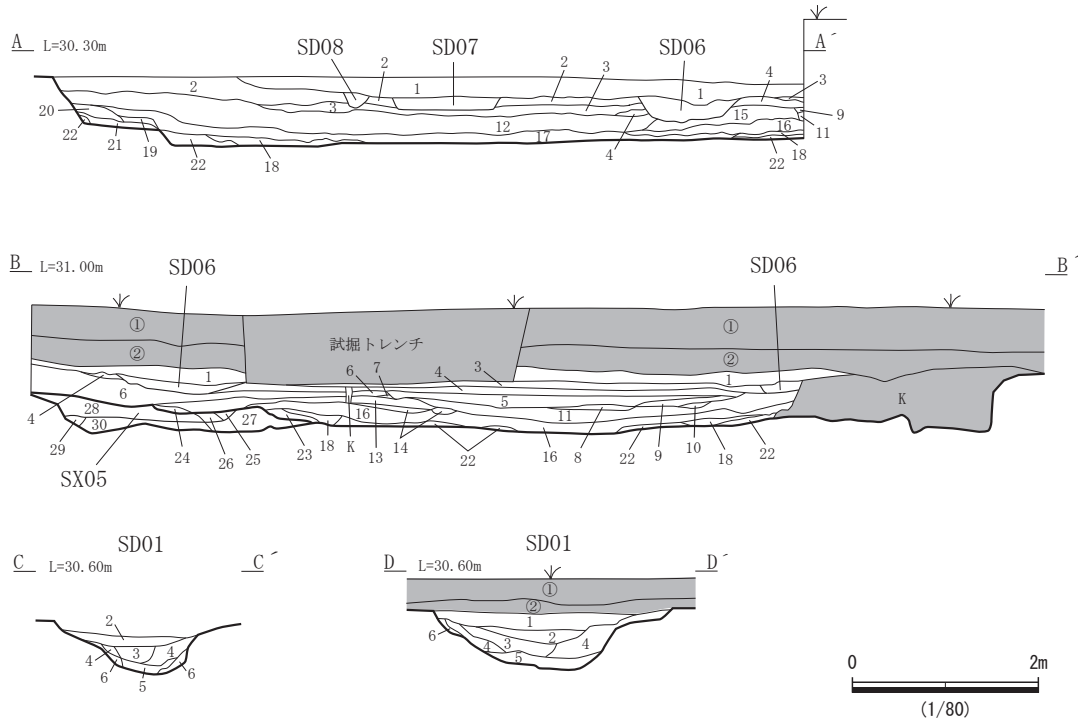
第22図 SD01 出土遺物



第23図 SX05・06, SD01(1)

55～65 cmを測る。覆土は、黒色土・黒褐色土主体の自然堆積で、覆土中から土師器2点、須恵器8点、瓦31点が出土した。ほとんどが上層からの出土であることから混入した可能性も考えられ、土器の時期から、8世紀中葉から後葉にかけて埋没したと考えられる。

なお、SX06とSD01の両遺構が一連のものとして利用された可能性が高いと判断したことについては第4章・総括2の中で推測を述べた。(高野)



SD01 土層説明

- 1 黒褐色土 10YR3/1 白色粒微量含む。締り有・粘性弱。
- 2 黒褐色土 10YR3/1 白色粒、灰白色粘土ブロック (φ30mm) 微量、暗褐色土斑状に少量含む。締り有・粘性弱。
- 3 黒色土 10YR1.7/1 灰白色粘土ブロック (φ2～10mm) 微量含む。締り・粘性有。
- 4 黒色土 10YR2/1 灰白色粒、灰黄色粒中量含む。締り・粘性有。
- 5 黒色土 10YR1.7/1 灰白色、灰黄色粘土ブロック (φ5～20mm) 中量含む。締り有・粘性強。
- 6 黒色土 10YR2/1 灰白色、灰黄色粘土ブロック (φ10～50mm) を密に含む。締り有・粘性強。

SX06 土層説明

- 1 黒褐色土 10YR3/1 白色粒少量、灰黄色粘土ブロック (φ2～5mm) 微量含む。締り有・粘性弱。
- 2 黄灰色土 2.5Y5/1 白色粒、灰黄色土少量含む。締り・粘性有。
- 3 黄灰色土 2.5Y5/1 白色粒微量含む。締り・粘性有。
- 4 暗灰黄色土 2.5Y5/2 白色粒微量、褐色 (10YR4/6) 鉄分を斑状に含む。締り・粘性弱。
- 5 黒褐色土 2.5Y3/2 白色粒微量、褐色鉄分少量含む。締り・粘性有。
- 6 暗灰黄色土 2.5Y4/2 白色粒微量、褐色鉄分を斑状に含む。締り・粘性有。
- 7 黒褐色土 2.5Y3/2 白色粒微量、褐色鉄分少量含む。締り・粘性有。
- 8 黒色土 2.5Y2/1 灰白色粘土、同ブロックφ10～20mm) 多量 (20%) 含む。締り・粘性有。
- 9 黒褐色土 2.5Y3/1 灰黄色粘土ブロック (φ5～30mm) 中量含む。締り・粘性有。
- 10 黒褐色土 2.5Y3/1 灰黄色粘土ブロック (φ2～10mm) 微量含む。締り・粘性有。
- 11 黄灰色土 2.5Y4/1 灰黄色粘土ブロック (φ2～20mm) 少量含む。締り・粘性有。
- 12 暗灰黄色土 2.5Y4/2 灰黄色粘土ブロック (φ2～20mm) 微量含む。締り・粘性有。
- 13 黒色土 2.5Y2/1 灰黄色粘土、同粘土ブロック (φ5～10mm) 中量含む。締り・粘性有。

- 14 黒色土 2.5Y2/1 灰黄色粘土を密に含む。締り・粘性有。
- 15 黒褐色土 2.5Y3/1 灰黄色粘土、同ブロック (φ5～15mm) 少量含む。締り・粘性有。
- 16 黒褐色土 2.5Y3/1 灰白色、灰黄色粒少量、灰黄色粘土ブロック (φ2～5mm) 微量含む。締り・粘性有。
- 17 黄灰色土 2.5Y4/1 灰黄色粘土ブロック (φ2～10mm) 中量含む。締り・粘性有。
- 18 暗灰黄色土 2.5Y5/2 灰白色、灰黄色粘土ブロック (φ2～20mm) 中量含む。締り・粘性有。
- 19 黒褐色土 2.5Y3/2 灰黄色、黄褐色粘土少量含む。締り・粘性有。
- 20 黄灰色土 2.5Y4/1 白色粒少量含む。締り有・粘性弱。
- 21 黒褐色土 2.5Y3/1 灰黄色粒多量、同ブロック (φ5～20mm) 少量含む。締り有・粘性弱。
- 22 黄褐色土 2.5Y5/3 灰黄色粘土ブロック (φ5～30mm) を密に含む。締り・粘性有。
- 23 黄灰色土 2.5Y4/1 灰黄色粘土ブロック (φ2～10mm) 多量 (20～30%) 含む。締り・粘性有。
- 24 暗灰黄色土 2.5Y5/2 白色粒少量、褐色鉄分少量含む。締り・粘性有。

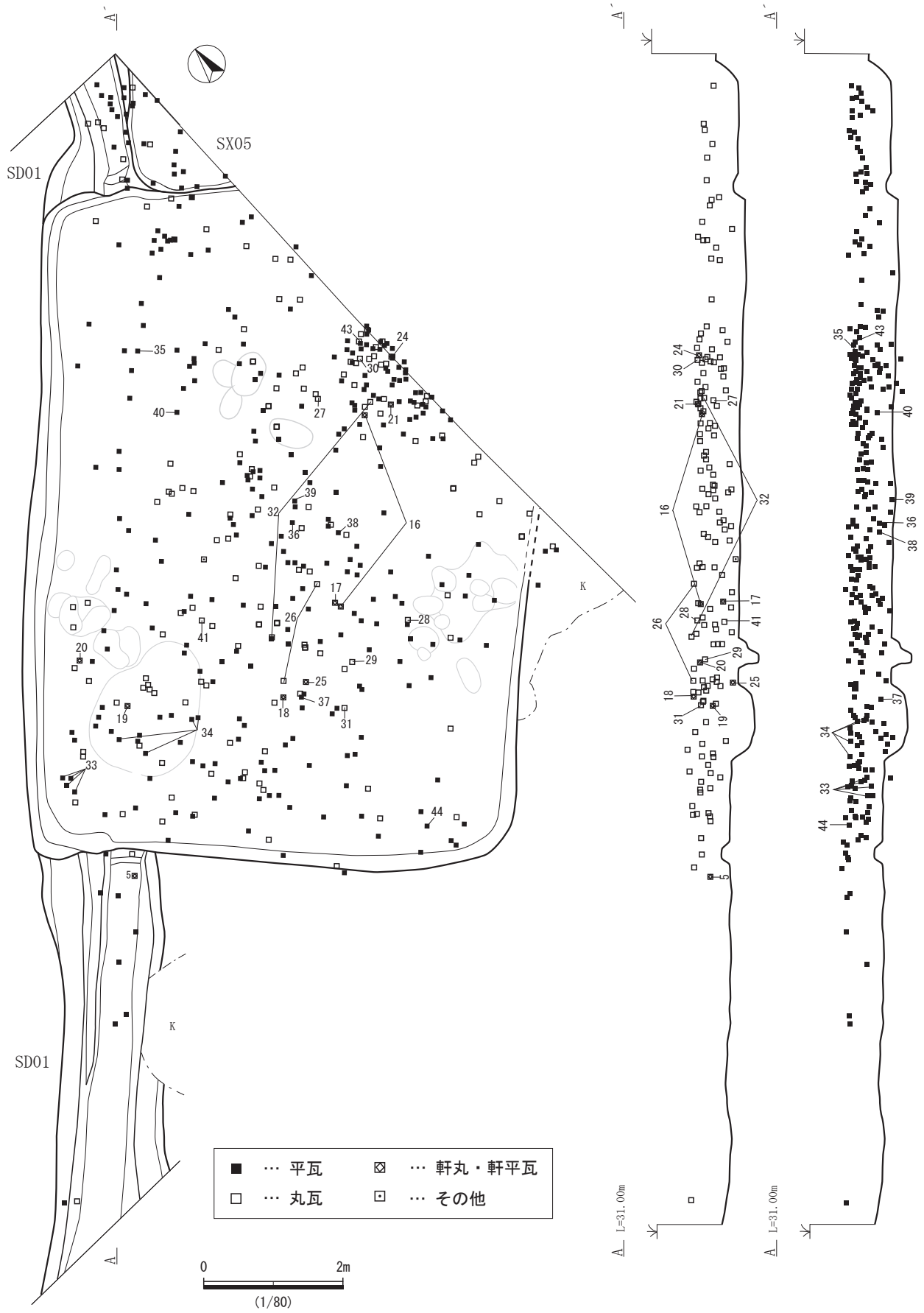
SX05 土層説明

- 25 黄灰色土 2.5Y4/1 白色粒少量、褐色鉄分中量含む。締り・粘性有。
- 26 黒褐色土 2.5Y3/1 白色粒中量、灰黄色粘土多量 (20%) 含む。締り・粘性有。
- 27 黒色土 2.5Y2/1 灰黄色粘土ブロック (φ20～50mm) を密に含む。締り有・粘性強。
- 28 黒色土 10YR2/1 灰白色、灰黄色粘土ブロック多量 (20%) 含む。締り・粘性有。
- 29 灰白色土 2.5Y7/1 粘土主体。締り有・粘性強。
- 30 黒色土 10YR2/1 灰白色、灰黄色粘土ブロック (φ2～20mm) 少量含む。締り・粘性有。

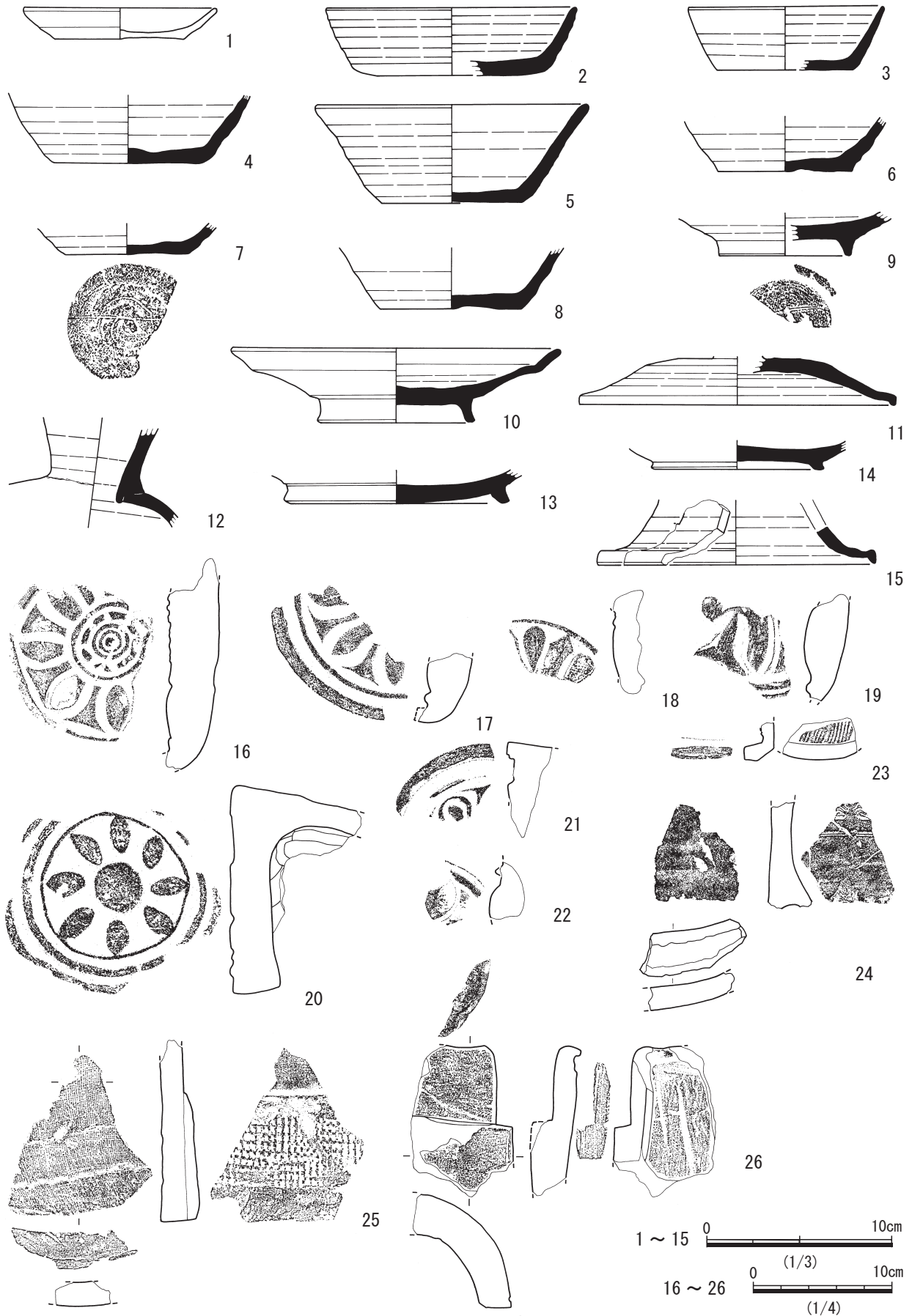
第24図 SX05・06, SD01(2)



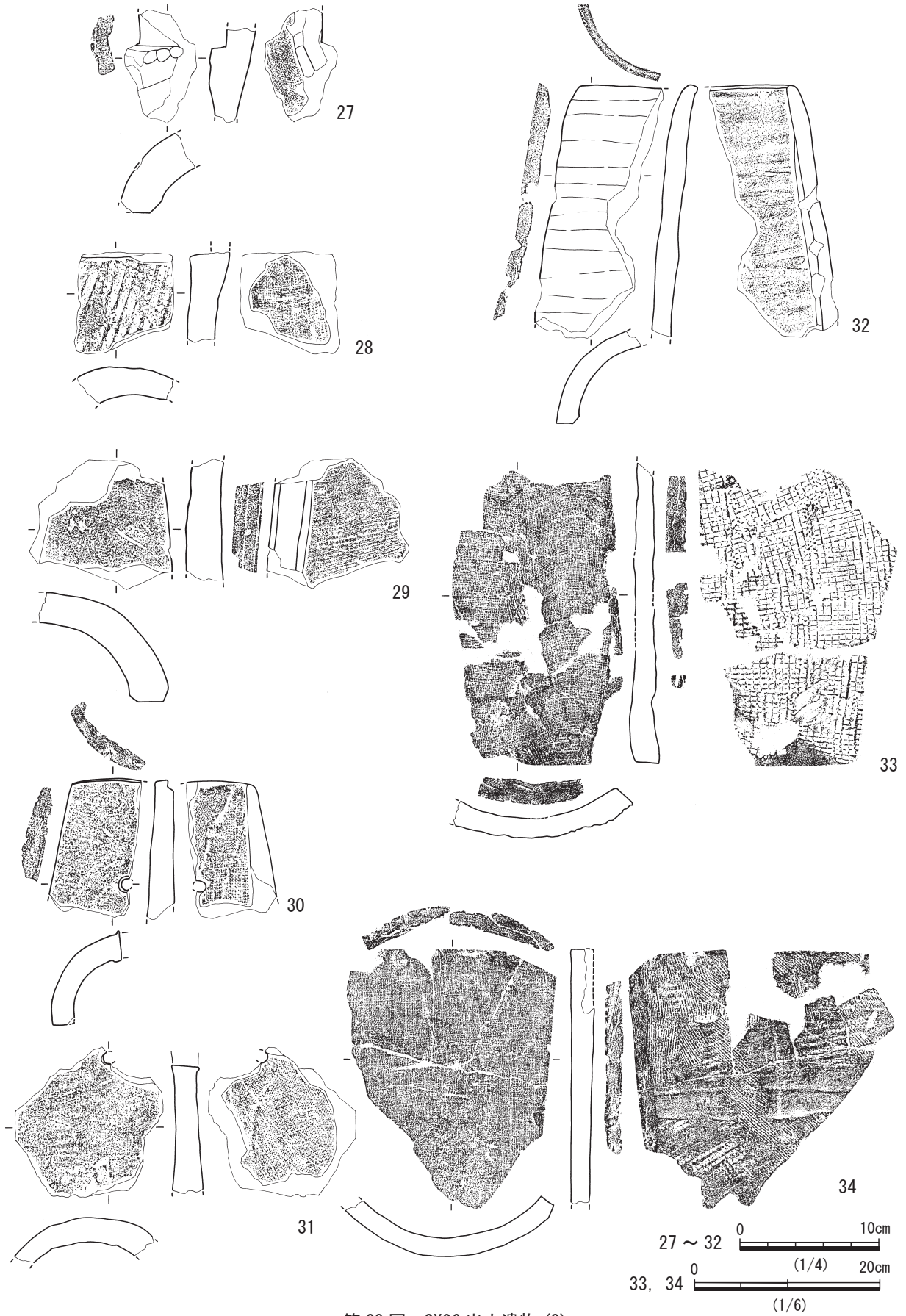
第25図 SX05・06, SD01 遺物出土分布図(土器)



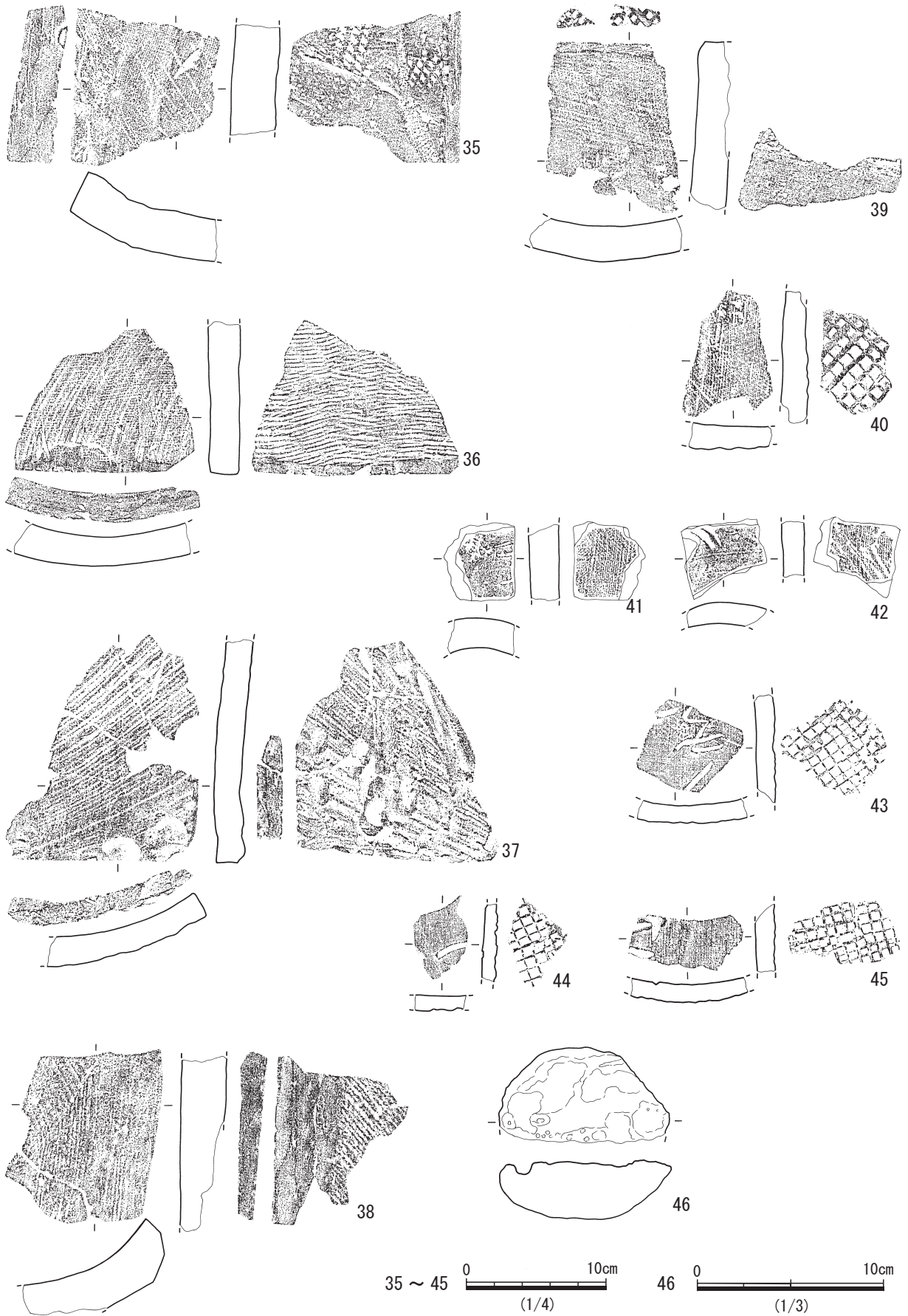
第26図 SX05・06, SD01 遺物出土分布図(瓦)



第27図 SX06 出土遺物 (1)



第 28 図 SX06 出土遺物 (2)



第29図 SX06 出土遺物 (3)

第1表 出土遺物観察表（軒丸瓦）

出土地点	図版番号	型式	瓦当直径	瓦当厚	全長	内区				外区			胎土・鉱物	焼成	色調 (瓦当面: 瓦当面裏)	痕跡・調整・備考等	
						中房径	蓮子数 中・周	内区径	花弁長	花弁幅	外区幅	外区外縁幅					外区外縁高
SE03	1	3115カ 又は 3109カ	—	—	<7.8>	—	—	—	—	—	1.4	—	—	長石, チャート, 針状物	良好 堅緻	灰5Y6/1: —	瓦当面・筒部残存。筒部外面縦位叩き、内面ヨコナデ。
SE03	2	3103カ	—	—	—	—	—	(3.1)	—	—	—	—	—	白色粒少 透明粒少	良好 堅緻	灰白2.5Y8/1: —	瓦当面連弁。間弁のみ残存。連弁先端剣状。間弁撥状。
SX04	12	3115	<8.8>	2.6	—	<2.2>	<4>	<6.4>	2.1	2.3	2.4	0.5	0.5	チャート, 白色砂礫, 針状物	良好 堅緻	褐灰10YR6/1: 灰黄褐 10YR6/2	外面ヘラケズリ。瓦当内面ヘラナデ。全体に赤みを帯びる。
SX04	13	3111カ	<8.9>	<2.4>	<4.2>	<2.3>	—	<7.5>	2.8	1.2	1.5	—	—	白色粒多, 白色砂礫	良好 堅緻	黄灰2.5Y6/1: 灰N5/	外面ヘラケズリ。瓦当内面ヘラナデ。全体に摩耗顕著。外区外縁欠損。
SX04	14	3104カ	<5.6>	<2.4>	—	—	—	3.8	<3.9>	1.8	1.9	0.8	0.6	白色粒, 黒色 白色粒少	良好 堅緻	灰N5/ : 黄灰2.5Y6/1	外面ヘラケズリ。瓦当内面ヘラケズリ後ヘラナデ。
SX04	15	3126カ	<7.7>	3.2	—	<1.1>	<3>	<5.8>	3.6	2.1	2.0	1.2	0.9	チャート, 白色砂礫, 針状物	良好 堅緻	黄灰2.5Y6/1: 灰黄2.5Y7/2	外面ヘラケズリ。瓦当内面ナデ。筒部欠損。
SX04	16	3113カ	<1.9>	<2.5>	—	—	—	<0.6>	2.4	1.1	2.2	1.1	0.5	白色粒, 灰色粒	良好 堅緻	黄灰2.5Y6/1: 灰黄2.5Y6/2	外面ヘラケズリ。瓦当内面ヘラケズリ後ナデ。花卉一部欠損。
SX04	17	—	<4.8>	—	—	<2.9>	1・<2>	<4.8>	1.8	<1.5>	—	—	—	白色粒	良好	灰白2.5Y8/1: 灰白2.5Y7/1	瓦当内面ヘラナデ。中房周縁のみ残存。軟質。
SX06	16	3104 又は 3106	<11.4>	3.7	—	5.4	1+ 8	<10.4>	3.1	1.8	—	—	—	石英, 白色粒, 砂粒	普通 未還元	灰黄褐 10YR6/2: にぶい黄橙 10YR6/4	外面ヘラケズリ。瓦当内面ヘラケズリ・ヘラナデ。外区・筒部欠損。中房二重圏縁で3106型式に該当。連弁周囲に細い輪郭線があり3104型式か。
SX06	17	3126カ	<3.2>	<3.1>	—	—	—	<2.6>	<3.6>	2.0	2.0	0.8	1.0	白色粒, 白色砂礫, 針状物微	良好 堅緻	黄灰2.5Y6/1: 黄灰2.5Y5/1	外面ヘラケズリ。瓦当内面ナデ。中房欠損で系統は不明。素文縁単弁八弁蓮華文か。
SX06	18	3134カ	<4.8>	<1.9>	—	—	—	<3.9>	3.2	1.6	<0.8>	—	—	白色砂礫, 針状物	良好 堅緻	灰5Y6/1: 灰白5Y7/1	瓦当内面指頭圧痕、剥離面か。中房及び外区外縁欠損。連弁は剣先状で雑な范。
SX06	19	3127カ	<6.5>	<2.9>	—	—	—	<5.8>	3.7	1.3	<0.7>	—	—	長石, 角閃石, 砂粒	普通 未還元	浅黄橙 10YR8/4: にぶい橙 7.5YR7/4	瓦当内面ヘラナデ。中房及び外区外縁欠損。連弁は中房に連続。
SX06	20	3111	15.0	2.8	<9.4>	3.5	なし	11.5	2.5~ 3.1	1.5	1.8~ 2.8	—	—	白色粒, 砂粒, 針状物微	良好 堅緻	黄灰2.5Y6/1: 灰黄褐 10YR5/2	外面ヘラケズリ。瓦当内面ヘラナデ。筒部凹面布目一部ヘラナデ。凸部ヨコナデ。外区幅部分的に差あり。
SX06	21	3114カ	<4.0>	—	3.3	—	—	<2.3>	<2.2>	2.6	2.2	0.8	0.6	白色粒, 角閃石, 針状物	良好 堅緻	黄灰2.5Y6/1: —	外面ヘラケズリ。瓦当面裏剥離。
SX06	22	—	<1.9>	0.9	—	—	—	—	—	—	<1.9>	1.0	1.3	石英, 砂粒	良好	灰黄2.5Y7/2: 灰白2.5Y7/1	外縁外面ヘラケズリ。瓦当面裏糸切り。外区部分のみ残存。外縁素文。内側に一重の圏縁。
SX06	23	—	<4.0>	<2.5>	—	—	—	<3.3>	<2.4>	<1.9>	—	—	—	白色粒, 砂粒	普通	にぶい黄橙 10YR7/2: -	瓦当面のみ残存。外区欠損。瓦当内面剥離。

第2表 出土遺物観察表（丸瓦）

出土地点	図版番号	全長 (cm)	厚さ (cm)	凹面痕跡・調整	凸面痕跡・調整	胎土・鉱物	焼成	色調 (凹面 : 凸面)	備考
SI01	6	<5.6>	1.2~ 1.4	成形: 布目 調整: ナデ	成形: 調整: 斜位ヘラケズリ, 側縁ヘラケズリ	白色粒, チャート微	良好 堅緻	灰黄2.5Y6/2: 灰黄2.5Y6/2	左側端部片。凸面強いヘラケズリで凹凸顕著。一部に自然釉かいる。
SD04	1	<12.6>	1.0~ 1.5	成形: 調整: ヨコナデ	成形: 調整: ヨコナデ	長石, 角閃石, 針状物	普通 未還元	淡黄2.5Y8/3: にぶい黄橙10YR7/3	狭端部片。左側端部残存。粘土紐輪積成形か。凸面にヘラ書きあり。
SX01	5	(3.7)	1.2	成形: 調整: ヨコナデ	成形: 調整: ナデ	長石, 白色砂礫, 針状物	良好 堅緻	赤灰2.5YR4/1: 赤褐2.5YR4/8	側端部片。全体に赤彩。
SX06	26	<15.5>	2.5~ 2.8	成形: 布目 調整: 玉縁部側縁ヘラナデ 右側縁ヘラケズリ	成形: 調整: ヨコナデ	白色粒, 角閃石, 針状物	良好 堅緻	暗褐10YR3/3: 灰黄褐10YR4/2	狭端部片。右側縁部残存。有段。玉縁部長5.4cm, 玉縁部厚1.7cm, 肩部厚2.8cm, 段差1.3cm。凹面狭端部縁に杵板圧痕あり。凸面全体に自然釉。
SX06	27	<6.2>	1.6	成形: 布目 調整: 左側縁ヘラケズリ	成形: 調整: ヨコナデ	長石, 灰色砂礫	良好 未還元	にぶい黄橙10YR6/4: にぶい黄橙10YR6/3	左側端部片。有段。玉縁部長<1.3cm>, 玉縁部厚2.0cm, 段差1.1cm。筒部凸面肩部指頭圧痕あり。肩部厚3.0cm。
SX06	28	<6.3>	2.0	成形: 布目 調整: なし	成形: 斜位平行叩き 調整: なし	長石, 白色砂礫, 微小礫	良好 堅緻	灰7.5Y4/1: 灰5Y5/1	有段肩部片。玉縁部欠損。肩部厚2.8cm
SX06	29	<8.6>	2.2~ 2.6	成形: 布目・糸切り 調整: 側縁ヘラケズリ	成形: 調整: ヨコナデ, 側縁ヘラケズリ	白色粒, 針状物	良好 堅緻	黄灰2.5Y6/1: 灰黄2.5Y7/2	右側端部片。3面切。凹凸両面に赤彩か。凸部にヘラ状工具による斜線あり。
SX06	30	<9.9>	1.4~ 1.8	成形: 布目 調整: なし	成形: 斜格子叩き 調整: ヨコナデ	白色粒, 針状物	良好 堅緻	灰5Y6/1: 灰N6/	狭端部片。左側端部残存。凹面布目継ぎあて痕。焼成前凸面から針穴穿孔。
SX06	31	<10.0>	1.6~ 2.0	成形: 布目 調整: なし	成形: 格子叩き 調整: ヨコナデ	白色粒, 白色砂礫, 針状物微	良好 堅緻	灰N6/ : 灰N5/	凹面布継ぎあて痕。焼成前凸面からの針穴穿孔あり。
SX06	32	<18.0>	1.0~ 1.6	成形: 調整: ヨコナデ・ヘラナデ側縁ヘラケズリ	成形: 調整: ヨコナデ	白色粒, チャート, 針状物	良好 堅緻	灰黄2.5Y6/2: 灰白5Y7/2	狭端部片。粘土紐作り。
SX06	41	<5.3>	2.0~ 2.2	成形: 布目 調整: なし	成形: 調整: ナデ	白色砂礫, 黒色粒, 針状物	良好 堅緻	灰N5/ : 灰N4/	凸面にヘラ書きの一部あり。
SX06	42	<3.9>	1.5~ 1.6	成形: 布目・糸切り 調整: なし	成形: 調整: ヨコナデ	白色粒, 長石, 針状物微	良好 軟質	灰白2.5Y8/1: 灰白2.5Y7/1	凹面糸切後、破損部の粘土補充あり。凸面ヘラ書きか。

第3章 調査の成果

第3表 出土遺物観察表（軒平瓦）

出土地点	図版番号	型式	瓦当文様	類形態	全長	瓦当部長	瓦当部厚	平瓦部厚	瓦当部裏段差	凹面痕跡・調整	凸面痕跡・調整	胎土・鉱物	焼成	色調 (凹面：凸面)	痕跡・備考等
SD01	5	3230カ	素文	段頸	<6.5>	4.3	3.1	2.2	1.1	成形：布目圧痕、側縁部ケズリ調整：なし	成形：斜格子叩き調整：ヨコナデ	石英、灰色・白色砂礫*丸みもつ	良好	灰白2.5Y7/1 灰白2.5Y7/1	瓦当面の面取り4回以上。頸面斜格子叩き。凹面模骨痕あり。
SX04	18	3250カ	格子文	段頸	<14.8>	5.0	4.0	3.1	1.0	成形：布目調整：一部ナデ	成形：—調整：ヨコナデ	長石、チャート、白色砂礫	普通	にぶい黄褐10YR5/3: 灰褐7.5YR5/2	瓦当面格子文叩き後ヨコナデ。凹面煤付着。凹面先端丸棒状工具による文字か。
SX06	24	—	欠損	曲線頸	<7.4>	—	—	1.5	—	成形：—調整：ヨコナデ	成形：—調整：ヨコナデ	白色砂礫、針状物	良好堅緻	凹面5Y6/1灰: 凸面5N/ 灰:	泥条盤築技法カ。凸面に沈線と波状櫛歯文。
SX06	25	3233カ	素文	段頸	<12.6>	9.3	1.9~2.7	1.6	0.3	成形：布目調整：—	成形：正格子叩き調整：ヨコナデ	白色粒	良好堅緻	灰白2.5Y7/1: 黄灰2.5Y6/1	凹面布織ぎあて痕あり。凸面瓦当部正格子叩き残る。

第4表 出土遺物観察表（平瓦）

出土地点	図版番号	全長 (cm)	厚さ (cm)	凹面痕跡・調整	凸面痕跡・調整	胎土・鉱物	焼成	色調 (凹面：凸面)	備考
SI01	7	<6.4>	1.2~1.7	成形：布目調整：なし	成形：縄叩き調整：側縁ナデ	長石、針状物	良好	灰黄2.5Y6/2： 灰5Y6/1	広端面。凸面縄叩きの原体は大目。凹面に布織を認める。
SB02	1	<5.7>	1.7~1.8	成形：縄叩き調整：なし	成形：布目・糸切り調整：なし	長石、石英多、角閃石微	普通未還元	にぶい黄橙10YR6/3: にぶい黄橙10YR7/4	広端部片か。凸面端部側に認められる斜位の筋は糸切か。
SE03	3	<16.3>	3.0~3.4	成形：布目・糸切り調整：なし	成形：正格子叩き調整：広端縁ナデ	長石、石英	普通未還元	にぶい褐7.5YR5/3: 灰褐7.5YR5/2	広端部片。左側端部残存。広端縁布末端あり。凹凸両面、端部、破断面煤付着。
SE03	4	(13.0)	2.6~2.8	成形：布目調整：なし	成形：正格子・斜平向叩き調整：ヨコナデ	長石、石英、白色粒	良好堅緻	灰5Y5/1： 灰黄2.5Y6/2	広端部片。右側端部残存。凹面布織ぎあてあり。
SE03	5	(6.6)	2.7~2.8	成形：布目調整：なし	成形：正格子叩き調整：ナデ	白色粒、大粒の砂礫	普通	黄灰2.5Y6/1 灰黄2.5Y7/2	広端部片。凹面模骨痕明瞭。枳板圧痕。布合せ縫い痕あり。摩耗顕著。
SE03	6	<6.0>	2.6	成形：布目調整：側縁ナデ	成形：—調整：ヨコナデ	白色砂礫、黒色粒	良好堅緻	青灰5PB5/1： 暗青灰5PB4/1	広端部片。凹面模骨痕。凸面5本単位櫛歯状工具の波状文、一部縦位ナデ。
SE03	7	<7.7>	1.5~1.6	成形：—調整：ナデ、側縁部ケズリ	成形：—調整：ナデ	チャート、白色砂礫、針状物微	良好堅緻	灰10Y5/1： 褐灰7.5YR4/1	隅切瓦。側端部片。隅端部斜行。凸面～側端部自然釉。
SX01	6	<10.2>	1.5~1.6	成形：布目調整：端縁ケズリ	成形：ヨコ縄叩き調整：ナデ	白色粒、白色針状物	良好堅緻	灰5Y5/1： 灰5Y5/1	端部片。
SX01	7	<5.7>	1.6	成形：布目調整：なし	成形：正格子叩き調整：なし	白色粒、透明粒	普通未還元	にぶい黄橙10YR7/4: 浅黄2.5Y7/4	凹面糸切り痕残る。判読不明ヘラ書きあり。
SX04	19	<5.3>	1.4~2.0	成形：布目調整：ナデ	成形：—調整：糸切りか	白色砂礫、白色粒	良好	灰白2.5Y8/2： 灰白2.5Y8/2	広・狭端部片。凹面に押印「禾」。
SX04	20	35.8	2.0~2.6	成形：布目調整：一部タテナデ	成形：縄叩き調整：なし	白色砂礫、針状物	良好堅緻	灰5Y6/1： 灰黄2.5Y7/2	完存。凹面広・狭端縁・左右側端縁ヘラケズリ。凸面広端縁ヘラケズリ後ナデ。狭端縁ヘラケズリ。凹面ヘラ書き「口里カ」。広端幅26.8cm、狭端幅21.0cm。
SX04	21	<24.6>	2.2~2.5	成形：布目・糸切り調整：なし	成形：正格子・斜格子叩き調整：ヨコナデ	長石、チャート、砂粒多	良好	灰黄2.5Y7/2： 灰黄2.5Y6/2	広端部片。左側端部残存。広端部面取り2回。凹面広端縁に布末端か。
SX04	22	<19.5>	2.4~2.9	成形：布目・糸切り調整：なし	成形：正格子叩き調整：一部ヘラナデ	白色砂礫、灰色砂礫少	普通未還元	灰黄褐10YR6/2: にぶい黄橙10YR6/4	狭端部片。左側端部残存。凹面に布合せ縫い痕あり。左側端部面取り2回。
SX04	23	<21.1>	2.3~3.6	成形：布目・糸切り調整：なし	成形：正格子叩き調整：なし	長石、石英、白色粒	良好	灰黄2.5Y6/2： 灰黄2.5Y7/2	狭端部片。右側端部残存。凹面一部剥離。水付き変色。狭端部縁に布末端痕。
SX04	24	<20.7>	2.2~2.9	成形：布目・糸切り調整：なし	成形：斜格子叩き調整：なし	白色砂礫少、白色粒	良好	灰白2.5Y7/1： 灰白2.5Y7/1	広端部片。左側端部残存。凹面広端縁に枳板痕あり。広端部面取り2回。
SX04	25	<27.5>	1.6~2.1	成形：布目・糸切り調整：なし	成形：縄叩き調整：なし	長石、チャート、針状物	良好堅緻	黄灰2.5Y5/1 黄灰2.5Y6/1	広端部片。広端部面取り2回。
SX04	26	<5.7>	2.0~2.1	成形：布目調整：なし	成形：斜位縄叩き・格子状調整：なし	白色砂礫、白色粒	良好	灰白2.5Y7/1： 灰黄2.5Y7/2	側端部片。凹面側縁ヘラケズリ。凸面側縁幅広のヘラケズリ。
SX04	27	<17.9>	1.9~2.1	成形：布目調整：なし	成形：平行叩き調整：ナデ	長石、白色粒	普通	褐灰10YR4/1： 黄灰2.5Y6/1	側縁部片。凸面平行叩きは不定方向。
SX04	28	<24.1>	2.5~2.7	成形：糸切り調整：なし	成形：斜格子叩き調整：ヨコナデ	白色粒、白色砂礫、砂粒多	普通	灰黄2.5Y7/2： 黄灰2.5Y6/1	隅切瓦。側端部片。端部斜行。凹面器面荒れ。側縁部面取り2回か。
SX04	29	<12.0>	1.6~2.1	成形：布目調整：一部ナデ	成形：斜格子叩き調整：タテナデ	白色砂礫、針状物	良好	黄灰2.5Y5/1 灰白2.5Y7/1	隅切瓦。端部斜行。側端部面取り2回。凹面端部に枳板痕あり。
SX04	30	<4.7>	1.3~1.6	成形：布目、側縁ヘラケズリ調整：なし	成形：斜位平行叩き調整：なし	白色砂礫、針状物	良好堅緻	黄灰2.5Y6/1： 青黒5B1.7/1	隅切瓦。凸面及び端部に自然釉。道具瓦か。
SX06	33	<32.6>	1.7~2.9	成形：布目調整：なし	成形：正格子・斜格子叩き調整：広端部ヘラナデ	白色粒、赤褐色粒、針状物微	良好未還元	にぶい黄褐10YR5/3: 灰黄褐10YR4/2	狭端部片。右側端部残存。桶巻作りか。
SX06	34	<27.5>	2.0~2.5	成形：布目・糸切り調整：なし	成形：縦位・斜位平行叩き、斜格子叩き調整：ヨコナデ	長石、石英、角閃石、砂粒多	普通未還元	にぶい黄7.5YR7/4: にぶい黄橙10YR7/4	広端部片。右側端部残存。布目縦糸広端方向。桶巻作りの可能性。
SX06	35	<7.8>	3.1~3.3	成形：布目・糸切り調整：なし	成形：斜格子叩き調整：ヘラナデ	白色砂礫、砂粒、針状物	良好堅緻	灰5Y6/1： 灰黄2.5Y6/2	側端部片。側端部ヘラケズリ。凹面模骨痕。
SX06	36	<10.6>	2.1~2.3	成形：布目・糸切り調整：端縁ヘラケズリ・部分的ナデ	成形：横位平行叩き調整：端縁ヘラケズリ	白色砂礫、白色粒、針状物	良好堅緻	灰N4/ 灰N5/	広・狭端部片。端部ヘラケズリ。
SX06	37	<15.7>	1.7~2.0	成形：—・糸切り調整：なし	成形：—・糸切り調整：部分ナデ	チャート、大粒の白色砂礫	普通	灰黄2.5Y7/2： 灰黄2.5Y7/2	狭端部片。右側端部残存。端部ヘラナデ。凹凸面ともに指頭痕あり。
SX06	38	<11.8>	3.1~3.2	成形：布目調整：斜位～縦位ヘラナデ・側縁ヘラケズリ	成形：斜位縄叩き調整：側縁ヘラケズリ	砂粒多、角閃石	普通未還元	灰白10YR8/2： 浅黄橙7.5YR8/4	側端部片。摩耗・剥離顕著。
SX06	39	<12.0>	2.5	成形：布目調整：端縁ヘラケズリ	成形：—調整：ヨコナデ	白色粒、砂粒	良好未還元	にぶい黄橙10YR7/3: 灰白10YR8/2	広・狭端部片。凸面部分的剥離。端部に格子目痕が残り無調整。
SX06	40	<9.0>	1.5~1.9	成形：布目・糸切り調整：なし	成形：斜格子叩き調整：なし	チャート、白色砂礫、針状物	普通未還元	にぶい黄5YR7/4: 灰白10YR8/2	凹面模骨痕。凸面格子目0.9cm。
SX06	43	<7.6>	1.8	成形：布目調整：なし	成形：斜格子叩き調整：なし	白色粒、灰色粒、針状物微	普通	明黄褐10YR7/6: にぶい黄橙10YR7/3	文字瓦。凹面に先端丸目の工具によるヘラ書き(判読不明)あり。
SX06	44	<5.6>	0.9~1.1	成形：布目調整：なし	成形：斜格子叩き調整：なし	長石、白色粒	良好	褐10YR4/4： にぶい黄褐10YR4/3	文字瓦。先端丸目の工具によるヘラ書き(判読不明)あり。
SX06	45	<4.8>	1.2~1.4	成形：布目調整：なし	成形：正格子叩き調整：なし	白色粒、砂粒、針状物微	良好	褐7.5YR4/4： 灰黄褐10YR6/2	文字瓦。凹面に先端丸目の工具によるヘラ書き(判読不明)あり。凹面模骨痕。

第5表 出土遺物観察表(土器)

出土地点	図版番号	種別器種	残存部位 残存率(%)	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	技法・特徴	胎土	焼成	色調 (外面：内面)	備考
SI01	1	土師器 杯	口縁～底部 70%存	14.2	4.4	6.6	ロクロ成形。体部下端～底部回転ヘラズリ。内面 黒色処理,密なミガキ(ココ)。	長石,石英,針状 物多	良好	にぶい黄橙10YR7/4 :黒10YR1.7/1	
SI01	2	土師器 高台付皿	口縁～底部 90%存	9.8	3.7	6.4	ロクロ成形。高台部貼り付け後ナデ。	チャート微,角閃 石・輝石類	良好	浅黄橙7.5YR8/4 : 浅黄橙10YR8/4	
SI01	3	須恵器 杯	口縁～底部 20%存	(14.2)	4.6	(7.5)	ロクロ成形。底面周縁ナデ。	チャート,大粒砂 礫,針状物微	良好 堅緻	灰N6 / : 灰N6/	
SI01	4	須恵器 杯	底部片	—	<1.5>	7.0	ロクロ成形。底面回転ヘラ切り後無調整で「X」の ヘラ書きあり。	石英,大粒砂礫	良好 堅緻	灰5Y6/1 : 灰5Y6/1	
SI01	5	須恵器 甕	胴部片	—	<3.4>	—	外面上部コロナデ,下部斜位平行線文叩き。内面 同心円文叩き。	白色粒,黒色粒少	良好 堅緻	灰N5 / : 灰N5/	
SB01	1	須恵器 盤	体部～底部 70%存	—	<3.8>	14.8	口縁部欠損。ロクロ成形。底部回転ヘラズリで高 台部貼り付け後ナデ。	チャート,大粒白 色砂礫多,針状物	良好 堅緻	灰5Y5/1 : 灰5Y5/1	
SK04	1	須恵器 甕	口縁～ 頸部片	—	<9.8>	—	外面頸部に2本単位の沈線波状文を2段巡らせ る。内面自然釉がかかり,輪積痕が残る。	白色砂礫多,黒色 粒	良好 堅緻	灰黄2.5Y6/2 : 暗灰黄2.5Y5/2	
SD01	1	須恵器 杯	体部～底部 20%存	—	<2.8>	(11.4)	ロクロ成形。底面回転ヘラズリ。体部外面に自然 釉。	長石,石英, チャート,針状物	良好 堅緻	暗灰N3 / : 灰N5/	
SD01	2	須恵器 杯	底部片	—	<2.0>	(8.2)	ロクロ成形。底面回転ヘラ切り後無調整。	石英,黒色粒,針 状物	良好 堅緻	灰N5 / : 灰N5/	
SD01	3	須恵器 蓋	天井部～口 端部30%存	(17.7)	<3.0>	—	ロクロ成形。摘み部欠損。外面天井部回転ヘラ ズリ。	石英,白色砂礫, チャート,針状物	良好 堅緻	灰5Y5/1 : 灰5Y5/1	
SD01	4	須恵器 高杯	杯部～ 脚部片	—	<5.8>	—	ロクロ成形。脚部透かしあり。外面自然釉。	チャート,白色粒, 針状物微	良好 堅緻	灰オリーブ5Y5/2 : 灰5Y5/1	
SE01	1	土師器 杯	体部～ 底部片	—	<2.3>	8.0	ロクロ成形。底面～体部下端回転ヘラズリ。内面 黒色処理,密なミガキ(体部横方向,底部一方向)。	長石,石英,灰色 砂礫,針状物	良好	にぶい黄褐10YR5/4: 黒10YR1.7/1	
SX01	1	須恵器 杯	底部片	—	<1.4>	(8.8)	ロクロ成形。底面一方向ヘラズリ。	白色砂礫多,針状 物	良好 堅緻	灰N6 / : 灰N6/	
SX01	2	須恵器 高台付杯	底部片	—	<2.5>	(7.0)	ロクロ成形。高台部貼り付け後ナデ。外面自然釉。	チャート,白色粒, 針状物	良好 堅緻	オリーブ灰2.5GY5/1 :灰10Y5/1	
SX01	3	須恵器 鉢	口縁～ 体部片	(21.0)	<5.0>	—	ロクロ成形。	白色砂礫,黒色 粒,針状物	良好 軟質	褐灰10YR6/1: にぶい黄橙10YR7/4	
SX01	4	須恵器 瓶類	底部片	—	<1.8>	(9.0)	ロクロ成形。底面回転ヘラズリ。高台部貼り付け 後ナデ。	長石,黒色粒	良好 堅緻	褐灰10YR4/1: 青灰5PB5/1	
SE02	1	須恵器 杯	口縁～底部 90%存	14.2	6.7	6.6	ロクロ成形。底面回転糸切り離し後無調整で「井」 状ヘラ書き。体部下墨書「文殊」。口縁部煤付着。	チャート,大粒の 白色砂礫,針状物	良好 堅緻	灰7.5Y5/1 : 灰5Y5/1	
SE02	2	須恵器 甕	口縁～ 胴部片	(21.8)	<10.0>	—	内外面ともに横位ヘラナデ。	チャート,白色粒, 白色砂礫,針状物	良好 堅緻	にぶい褐7.5YR5/3: にぶい黄褐10YR5/3	SX03-2と 同一個体
SE02	3	須恵器 甕	胴部～ 底部片	—	<3.4>	(12.0)	胴部外面ヘラズリ。底面はナデか。内面ヘラナ デ。	チャート,白色粒, 白色砂礫,針状物	良好 堅緻	黄灰2.5Y5/1 : 暗灰黄2.5Y4/2	SX03-1と 同一個体
SX04	1	土師器 杯	完形	13.6	4.0	7.4	ロクロ成形。体部下端～底面回転ヘラズリ。内面 黒色処理,密なミガキ(体部コ方向,底部一方向)。外面体部に墨書「子」,「白口」(横書)。	白色砂礫,角閃 石・輝石類,針状 物微	良好	にぶい黄橙10YR6/4 :黒10YR1.7/1	
SX04	2	土師器 杯	口縁～底部 70%存	13.4	4.2	6.0	ロクロ成形。体部下端～底面回転ヘラズリで中央 部が若干高い。内面黒色処理,密なミガキ(体部コ 方向,底部一方向)。体部外面に墨書「子」(横書)。	砂粒,角閃石,針 状物多	良好	橙5YR6/6 : 黒10YR1.7/1	
SX04	3	土師器 杯	口縁～底部 20%存	(14.8)	4.6	(8.0)	ロクロ成形。底面回転糸切り離し後無調整。	砂粒,角閃石,針 状物微	普通	にぶい橙7.5YR6/4 :灰黄褐10YR4/2	
SX04	4	土師器 椀	口縁～底部 60%存	14.6	5.8	(6.8)	ロクロ成形。底面回転糸切り離し後高台部貼り付 け。	白色・灰色砂礫, 角閃石,針状物微	良好	浅黄橙10YR8/4 : 橙7.5YR7/6	
SX04	5	土師器 耳皿	完形	11.1～ 7.9	4.4	5.0	ロクロ成形。底部貼り付け後ナデで,粘土のみ出 しが残存。皿器形を折り曲げ耳部を作出し,耳部屈 曲部に亀裂が入る。体部外面に墨書「○+大か」。	細砂粒,赤褐色 粒,針状物	良好	橙7.5YR7/6 : 橙7.5YR7/6	
SX04	6	須恵器 杯	口縁～底部 80%存	14.8	4.3	7.0	ロクロ成形。底面回転ヘラ切り後無調整。内面ター ル状付着物あり。体部外面墨書「文殊」(正)。	砂粒多,白色砂 礫,針状物	普通 未還元	橙7.5YR6/6 : にぶい橙7.5YR6/4	
SX04	7	須恵器 杯	口縁～底部 70%存	13.0	4.2	7.4	ロクロ成形。底面回転ヘラ切り後無調整。	砂粒多,白色砂礫	不良 未還元	にぶい黄橙7.5YR7/4 :にぶい赤褐5YR5/4	
SX04	8	須恵器 杯	口縁～底部 50%存	(13.4)	4.8	6.4	ロクロ成形。底面ナデ。「十」の線刻を中心に焼成 後穿孔。体部に墨書「太」(正)あり。内面口縁一部 にタール状の付着物。	チャート少,白色 砂礫,白色粒多, 針状物	良好 堅緻	灰黄2.5Y6/2 : 灰5Y5/1	穿孔は廃棄 行為によるもの か。
SX04	9	須恵器 杯	底部片	—	<1.3>	(7.0)	ロクロ成形。底面回転ヘラ切り後無調整。	チャート,白色粒, 針状物多	良好 堅緻	灰10Y5/1 : 灰10Y5/1	
SX04	10	須恵器 杯	体部～ 底部片	—	<3.1>	(7.0)	ロクロ成形。底面回転ヘラ切り後無調整。	チャート少,白色 砂礫,針状物微	良好 堅緻	灰7.5Y5/1 : 灰5Y5/1	
SX04	11	須恵器 甕	口縁～ 胴部片	—	<10.3>	—	ロクロ成形。	大粒白色砂礫,針 状物微	良好 堅緻	灰N4 / : 灰N5/	
SX06	1	土師器 皿	口縁～底部 50%存	(10.4)	1.7	(7.0)	ロクロ成形。底面回転ヘラ切り後無調整。	長石,角閃石,白 色砂礫,砂粒	良好	橙5YR6/6 : 橙5YR6/6	
SX06	2	須恵器 杯	口縁～底部 40%存	(13.3)	3.6	(8.2)	ロクロ成形。底面回転ヘラズリ。	大粒白色砂礫,黒 色粒,針状物	良好 堅緻	灰N5 / : 青灰5PB5/1	
SX06	3	須恵器 杯	口縁～底部 90%存	10.5	3.4	7.4	ロクロ成形。底面ナデ。内面口縁部一部に煤付 着。下半全体に漆状のタール付着。	白色砂礫	良好 堅緻	灰10Y6/1 : 灰5Y6/1	
SX06	4	須恵器 杯	体部～底部 40%存	—	<3.7>	8.0	ロクロ成形。底面回転ヘラ切り後無調整。摩耗顕著	チャート,白色砂 礫,針状物	普通 未還元	にぶい橙7.5YR7/4 :橙7.5YR7/6	
SX06	5	須恵器 杯	口縁～底部 40%存	(14.5)	5.3	(7.6)	ロクロ成形。底面回転ヘラ切り後無調整。	チャート少,白色 砂礫,針状物多	良好 堅緻	灰5Y6/1 : 灰10Y5/1	
SX06	6	須恵器 杯	体部～底部 40%存	—	<3.0>	7.2	ロクロ成形。底面回転ヘラ切り後無調整。	白色砂礫,針状物 多	良好 堅緻	黄灰2.5Y6/1 : 灰黄2.5Y6/2	
SX06	7	須恵器 杯	体部～ 底部片	—	<1.7>	6.6	ロクロ成形。底面回転ヘラ切り後無調整。直線状の ヘラ書きあり。	大粒白色砂礫,針 状物	良好 堅緻	灰N4 / : 灰10Y5/1	
SX06	8	須恵器 杯	体部～ 底部片	—	<3.3>	(7.6)	ロクロ成形。底面回転ヘラ切り後無調整。	白色砂礫,黒色粒 多,針状物少	良好 堅緻	灰5Y5/1 : 灰10Y5/1	

第4章 総括

1 土地利用の変遷

本次調査において確認できる最初の土地利用は縄文時代であるが、遺構は検出されず縄文土器が2点出土したにとどまる。その当時は山林が広がっていたようで、後世の遺構に切り込まれた風倒木痕が多数確認され、同様の状況は近接するアラヤ遺跡第15地点（台渡里第131次）においても確認されている（高野・米川 2015）。

弥生時代・古墳時代の土地利用は確認できないが、平安時代になり、台渡里廃寺跡から若干離れた場所にSB01・SB02が構築される。この場所は廃寺跡よりも標高が低く、両建物跡は7mの間隔を隔てて桁行をほぼ揃えて配置されていることから、いずれも同時期に機能していたとみられる。台渡里廃寺観音堂山地区の伽藍と同様の主軸方位を示すことから、寺院に関係する施設であった可能性がある。本地点の西方約110mに位置するアラヤ遺跡第15地点においても主軸方向が近似した掘建柱建物跡が検出されており（高野・米川前掲）、同様の建物群が広く展開していたのではないだろうか。

SB01・02が機能していた頃は、台渡里廃寺跡との間は湿地帯などの空地であった可能性が高いと考えられるが、その後は粘土を採掘する場所として利用されている。粘土採掘坑SX01～05からは新旧混在する形で遺物が出土しているものの、覆土を切る井戸跡SE01・02から出土した遺物が9世紀中葉頃に位置づけられるため、粘土の採掘はそれ以前から行われていた可能性が高い。本地点の東側に隣接する台渡里廃寺跡観音堂山地区の南側では、講堂や金堂の位置で確認されている関東ローム層上面の検出深度に1.7mものレベル差が認められており、この南側では低い谷地形を埋めて平坦面を確保するために、ロームブロックや粘土を混ぜた整地層が広域に広がっている状況が確認されている（川口・小松崎・新垣編 2005）。このことからSX01～05の粘土採掘坑は7世紀後半から始まった観音堂山地区の伽藍造営に際して掘り込まれ、奈良時代以降、窪地となった採掘坑に不要となった瓦や土器類がいくつかの時期を経て、平安時代前半まで廃棄されていった結果、新旧の遺物が混在する形となったと理解することもできる。それぞれの規模は一辺が5m前後と小さいが、南東側に隣接する第8次調査の西側でも同様の遺構が検出されており（井上・千葉 1995）、この一帯に集中して灰白色の良質な粘土が採取されたようである。土器や瓦等の生産地ではない製品を消費する地域での粘土採掘坑の検出は非常に珍しく、類例を探れば武蔵国分寺付近に見ることができる。同遺跡では粘土採掘坑の年代は8世紀末から9世紀前半とされ、採掘量が少ないとの予想から、周辺地区の竪穴建物跡のカマド等の施設に利用される程度と考えられている（坂詰ほか 1999）。また、官衙関連の寺院跡という点から基壇造成の際に用いられた可能性も指摘されており、本地点が郡衙周辺寺院に隣接することから考えると先にも指摘したように伽藍地造成のための整地土や基壇造成の際に用いられたとする見方が自然であろう。9世紀第3四半期以降に造営されたと考えられる南方地区では塔跡基壇の造成土に白色粘土の層が基壇の中層に認められることから、7世紀後半創建と考えられている観音堂山地区の伽藍地造成のみならず、9世紀第3四半期以降に再建されたと考えられる南方地区の伽藍への供給も示唆される。

粘土採掘坑SX01・02・04が埋没した場所には、再度井戸SE01～03が掘られている。これらの井戸は出土した須恵器坏の技術的形態的特徴から9世紀中葉以降に利用されたと思われる。この時期には南方地区で寺院の再建事業が進行するが、東側寺院地区画溝において、9世紀第4四半期から10世紀第1四半期の土器が覆土上部に堆積していること、南側伽藍地区画溝が途中で途切れて人為的に

埋め戻されている状況などから、再建半ばで断念されたと考えられている。本次調査においても10世紀代の土地利用の痕跡は認められていない。その中でSX06は性格や両目的が不明瞭な竪穴状遺構であるが、SD01とともに主軸方向が台渡里廃寺跡の伽藍配置やSB01・02など寺院との関連が想定される施設とは極端に食い違うことから、明らかに違う土地利用が行われた痕跡と考えられる。多量に出土した遺物は、出土層位から混入した遺物の可能性が高いものの、最新で11世紀前半と考えられる遺物（第27図1）の出土から、SD01・SX06は寺院の廃絶する時期に構築された可能性が高く、その後の土地利用を考察するうえで注意する必要があるだろう。本次調査で検出された遺構・遺物の大部分は奈良・平安時代に帰属することが明らかとなった。しかし、台渡里廃寺跡観音堂山地区の南西側に隣接しているにも関わらず、寺院跡に関連する遺構は希薄と言ってもよく、遺物は寺院の堂塔に使用された瓦片を主体に、大部分が各遺構の埋没に伴って混入したものばかりであった。この状況は、寺院に関連する遺構は本次調査の場所よりも東側の中心部に展開し、外縁部へと行くに従い、不要資材の廃棄空間としての土地利用が展開していたことを示しているのではないかと考えられる。ただし、2区の井戸跡SE02や粘土採掘坑SX04で出土した底部直上の墨書土器や耳皿（第15図1、第19図1・5）は意図的に置かれたとみられる状態で出土し、「文殊」と書かれた墨書土器（第15図1、第19図6）は、いずれも油煙の痕跡から灯明に用いられたとみられ、祭祀的な様相が色濃い。このように井戸跡と粘土採掘坑では利用する目的が異なるが、それぞれを廃棄する際に行われた信仰行為が垣間見られ興味深い。さらには「文殊」銘墨書土器は、石岡市にある茨城郡衙周辺寺院と考えられている茨城廃寺跡で郡名を冠した墨書土器とともに出土例が知られており、文殊菩薩を安置していた可能性が示唆されている（黒澤 1995）。郡衙周辺寺院に隣接した地点での今回の出土例は、寺院の機能が衰退する時期と重なるため、直接的に台渡里廃寺跡との関連を示すことはできないものの、廃絶に際したこの地に仏教的要素の強い文殊菩薩信仰が根付いていたことがうかがわれる。

2 SX06・SD01の性格について

本次調査で検出されたSX06は、長形状に掘り込まれた大型の竪穴状遺構である。SD01と重複するが新旧関係が認められないため、一連の遺構ではないかと考えた。性格を推測する上で注目したのは、SX06南西側の底面直上に散在した凝灰岩や平瓦の破砕片である（第23図右下）。SD01の接続部分から底面直上に散らばり、さらに接続部分には地山を掘り残した帯状の高まりがあった。これはSD01とSX06の間に仕切りを設け、散在した凝灰岩や不要となった平瓦は、水を堰き止めたり出し入れを調節した板状のものが破砕したと想定することができる。SD01によって導水が行われ、SX06に貯水した可能性が考えられる。しかし、それ以外の木樋や石組枡など導水に関連した遺構や流水などの痕跡が認められないため、周辺域の状況やデータの蓄積を待ちたい。（高野）

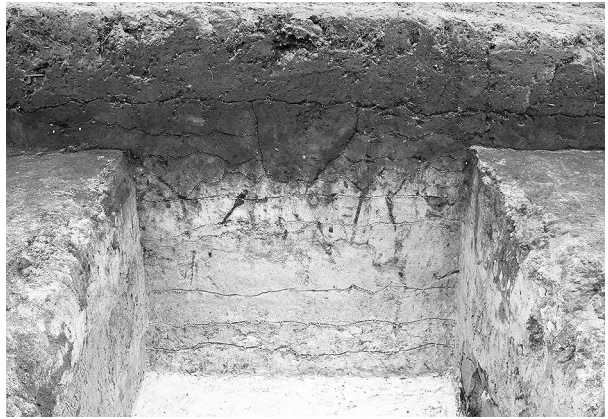
【主な引用・参考文献】

- 渥美賢吾・高野浩之 2009『渡里町遺跡（第8地点）市道常磐23、31、307号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
水戸市教育委員会
- 井上義安・千葉隆司 1995『水戸市台渡里廃寺跡 都市計画道路3・6・30号線埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市台渡里廃寺跡発掘調査会
- 川口武彦・小松崎博一・新垣清貴 2005『台渡里廃寺跡一範囲確認調査報告書一』水戸市教育委員会
- 黒澤彰哉 1995『茨城廃寺跡』『茨城県史料 考古資料編 奈良・平安時代』茨城県
- 高野浩之・米川暢敬 2015『台渡里16一共同住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告（台渡里131次）一』水戸市教育委員会
- 水戸市教育委員会 2012『古代常陸の原像一那賀郡の成立と台渡里官衙遺跡群一』
台渡里官衙遺跡群国指定史跡追加指定記念シンポジウム記録集
- 坂詰秀一・川崎義雄・小川将之・牧野麻子 1999『武蔵国分寺南西地区発掘調査報告一府中都市計画道路3・2・2の2号線建設に伴う調査一』
武蔵国分寺関連遺跡調査会・東京都北多摩南部建設事務所

写真図版



調査前現況（西から）



基本堆積土層（南から）



1区遺構確認状況（南東から）



1区西側風倒木痕確認状況（南から）



1区全景（西から）



SB01 全景 (南から)



SB01 確認状況 (南から)



SB01・P2 遺物出土状況 (西から)



SB01・P2 土層断面 (南から)



SB02 全景 (北から)



SB02 確認状況 (北から)



SK04 全景・土層断面 (南から)



SD02～05 全景 (南から)



SX06 上面 SD06 ~ 08 全景 (南西から)



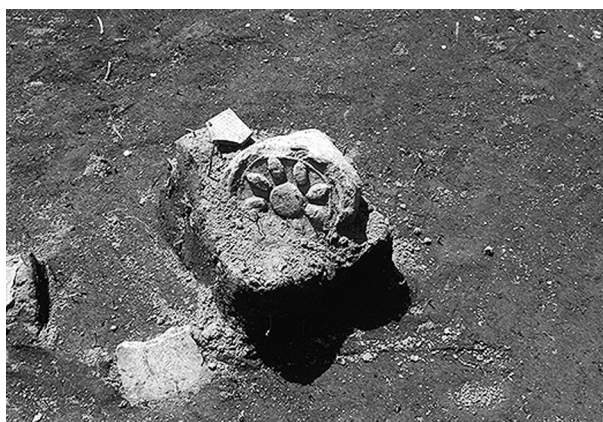
SX05・06, SD01 全景 (南西から)



SX06 上面遺物出土状況 (南西から)



SX06 遺物出土状況 (西から)



SX06 遺物出土状況近景 (東から)



SX06 礫集中部分確認状況 (南西から)



SD01 南側全景 (北東から)



SX05, SD01 北側全景 (南西から)



2区全景（北東から）



2区遺構確認状況（北から）



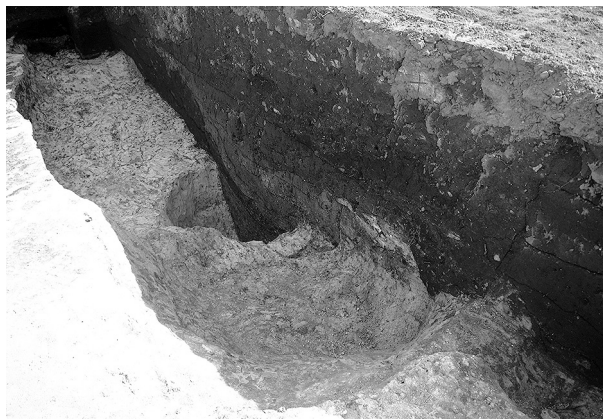
SX01・02, SE01 全景（東から）



SX01・02, SE01 土層断面（北から）



SX02・03・SE02 全景（南から）



SX03・SE01 土層断面（北東から）



SX04・SE03 全景（南から）



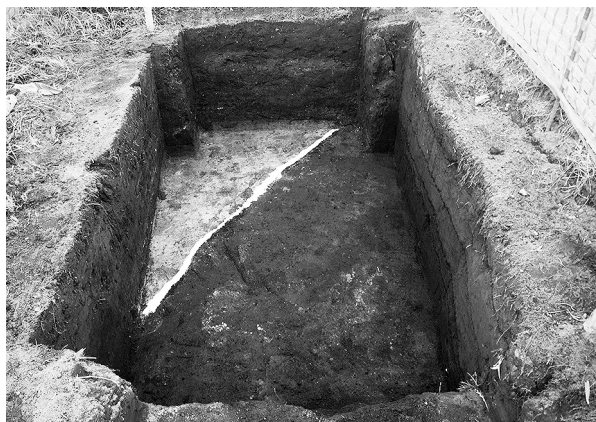
SX04・SE03 土層断面（南から）



SX04 ①区遺物出土状況近景（北東から）



SX04 ④区遺物出土状況近景（北西から）



3区遺構認状況（北西から）

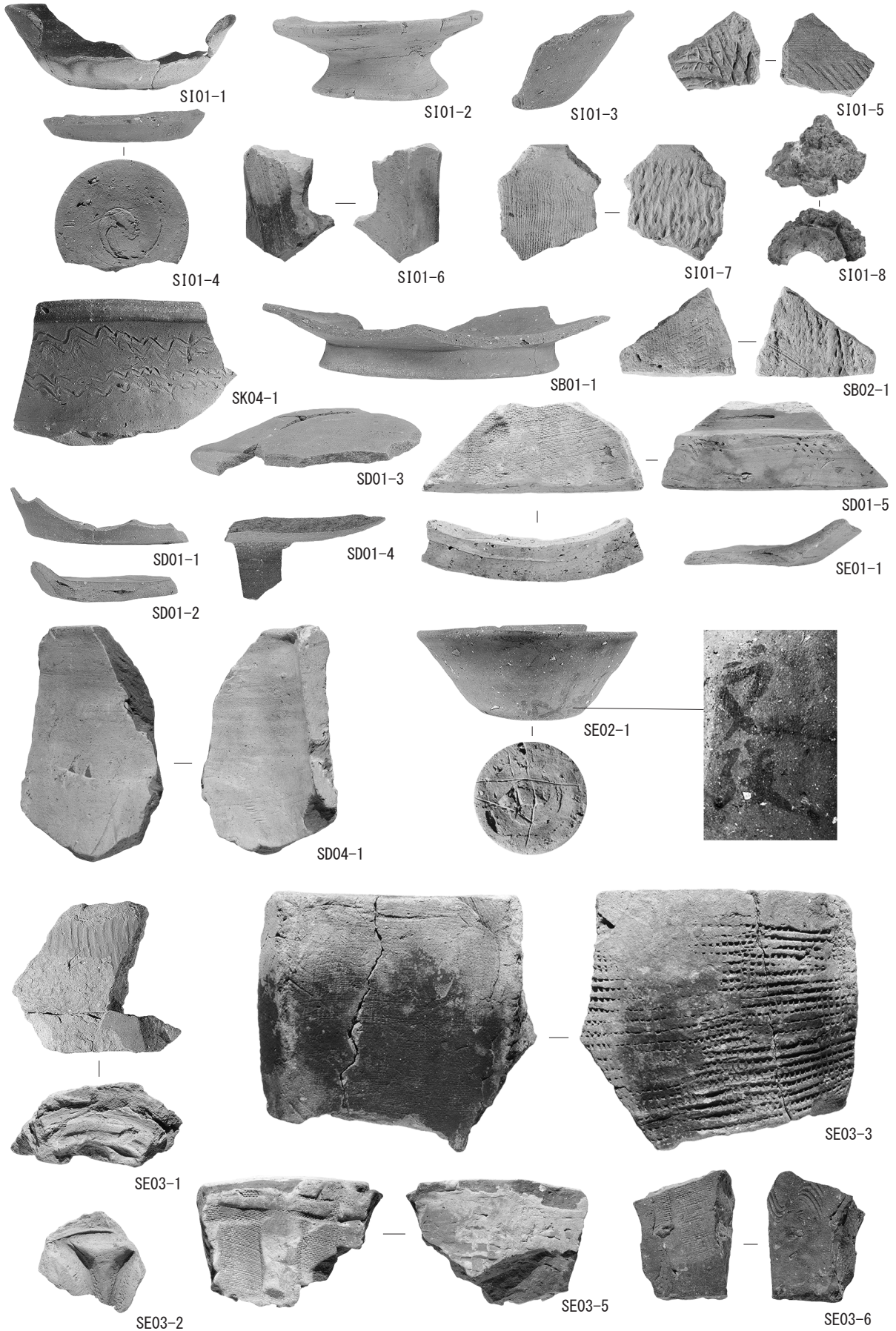


S101 遺物出土状況・土層断面（北から）

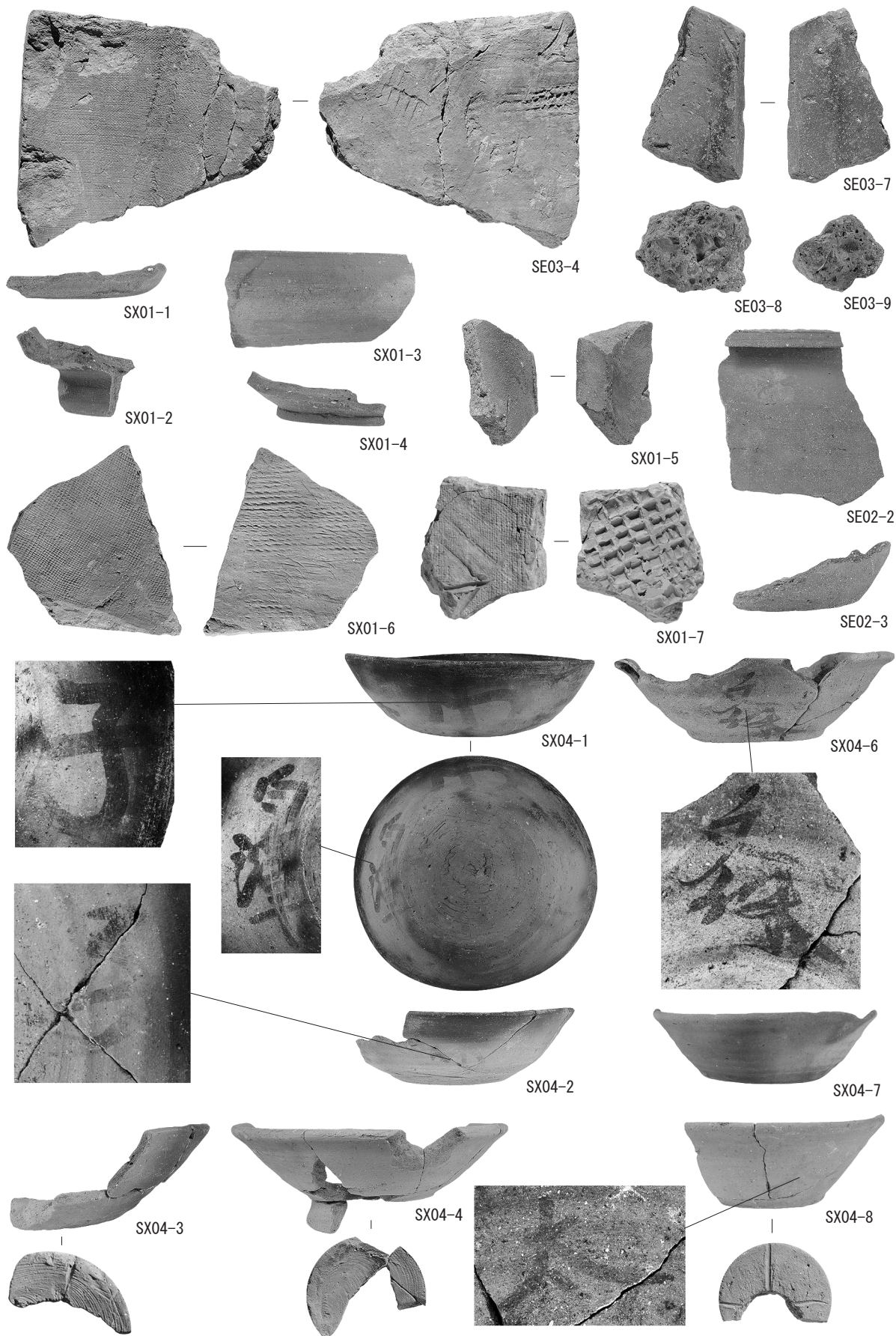


S101 全景（西から）

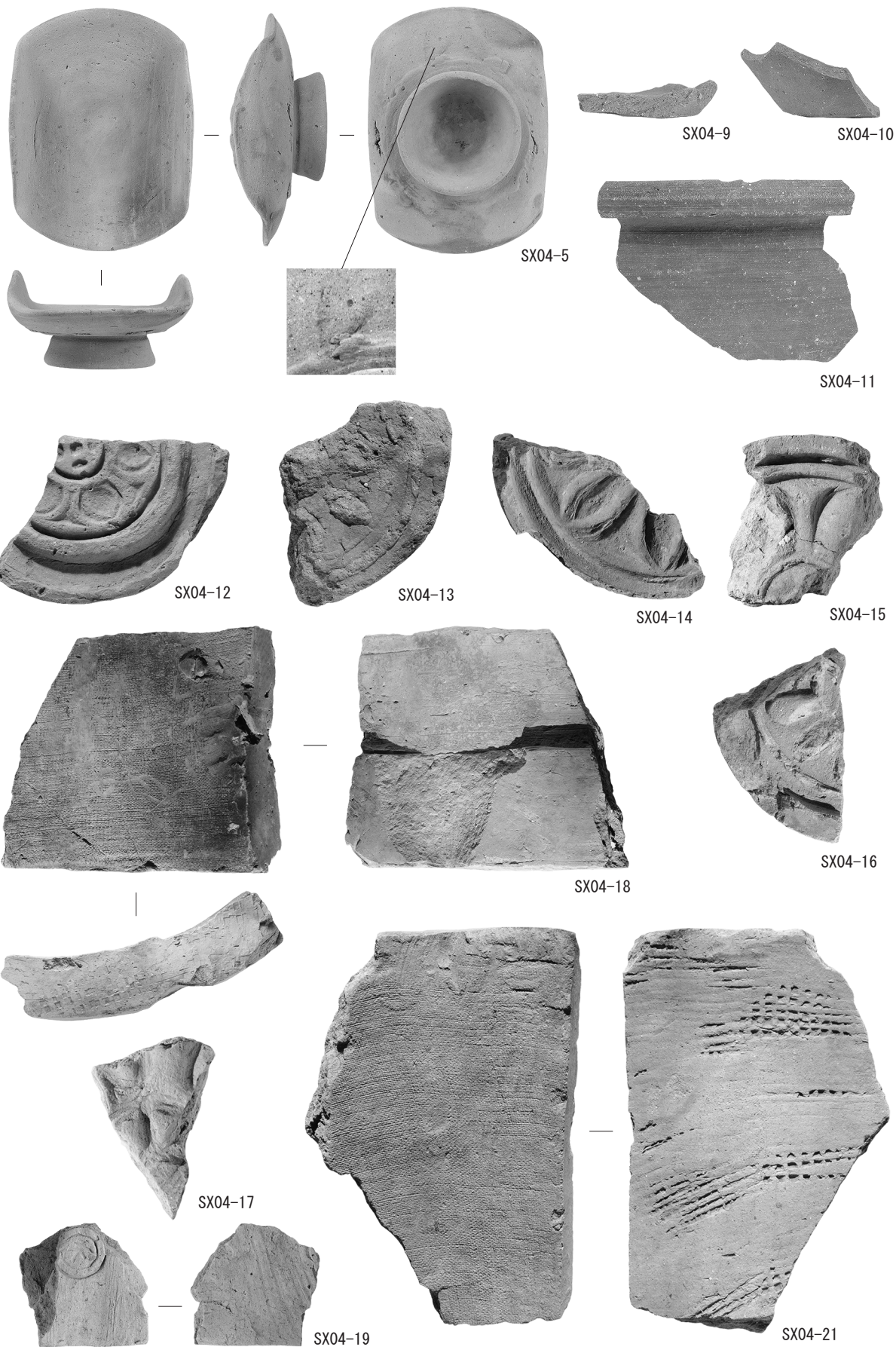
写真図版 6



SI01, SK04, SB01・02, SD01・04, SE01・02・03 出土遺物



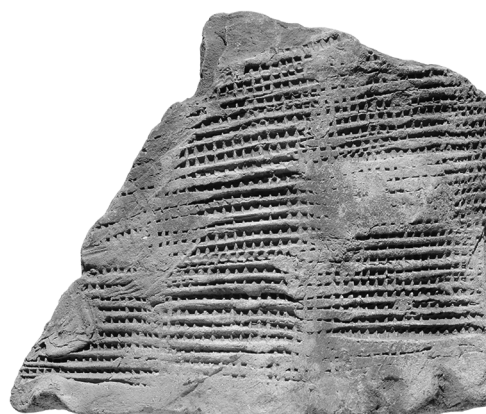
SE02·03, SX01·04 出土遺物



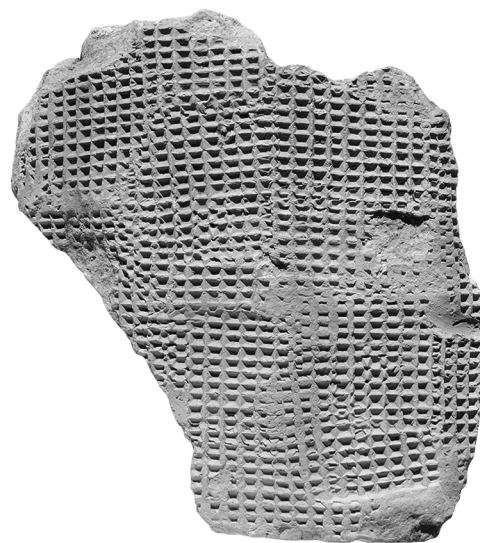
SX04 出土遺物



SX04-20

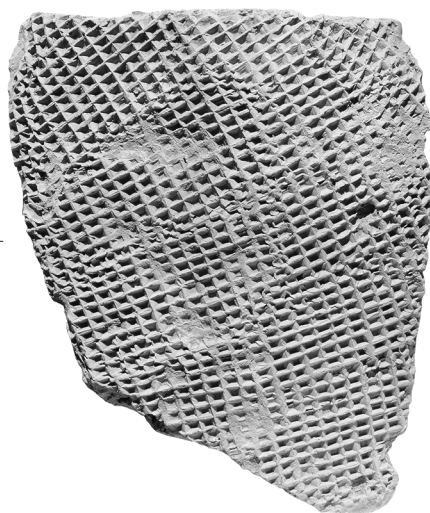


SX04-22



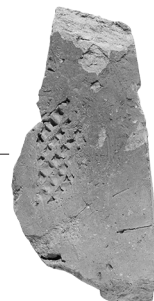
SX04-23

SX04 出土遺物



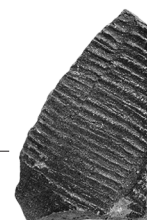
SX04-24

SX04-31



SX04-29

SX04-25



SX04-30



SX04-26

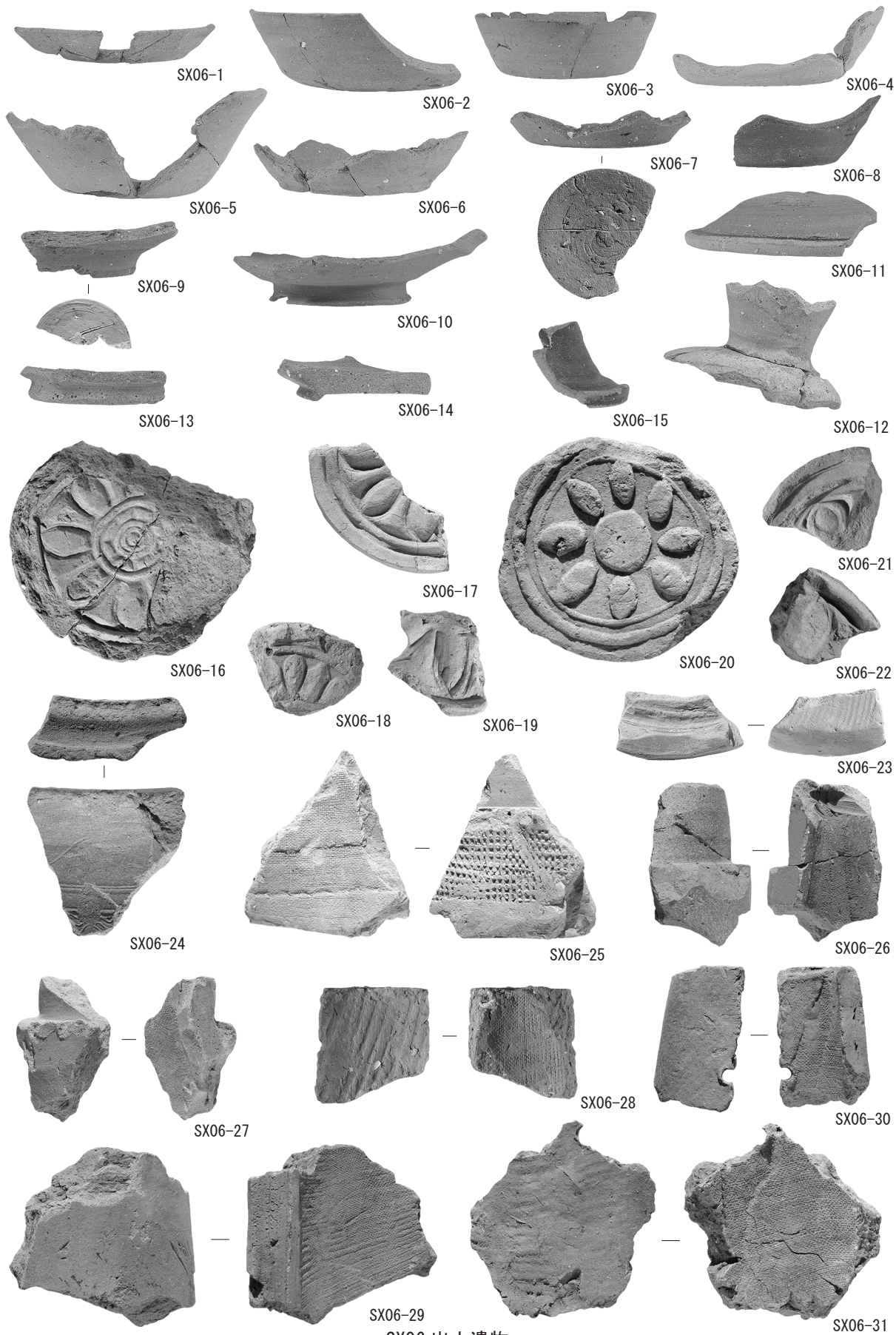


SX04-27

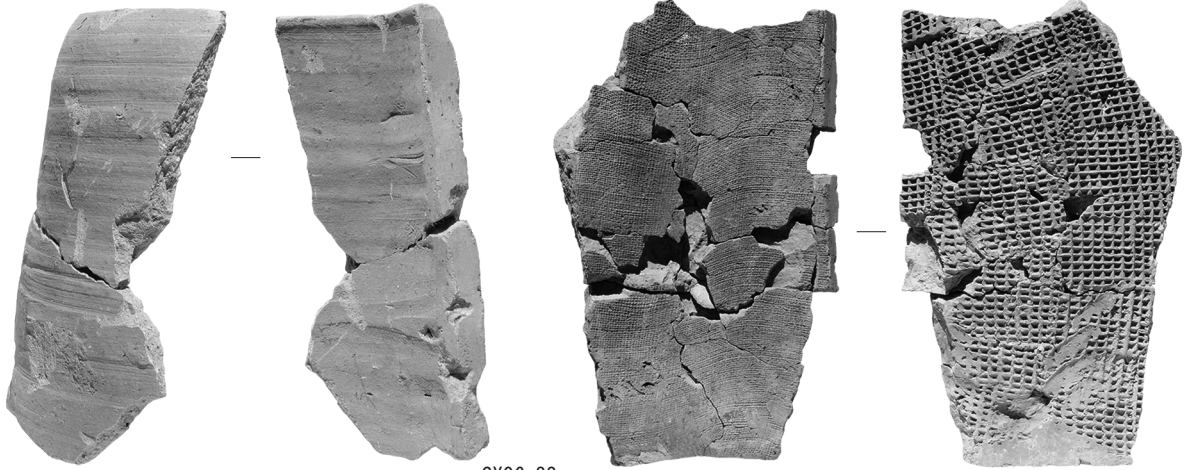


SX04-28

SX04 出土遺物

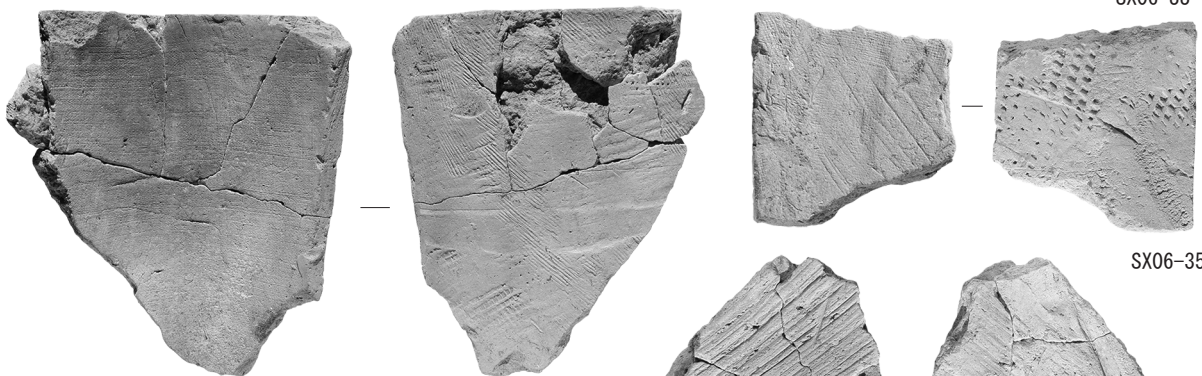


SX06 出土遺物



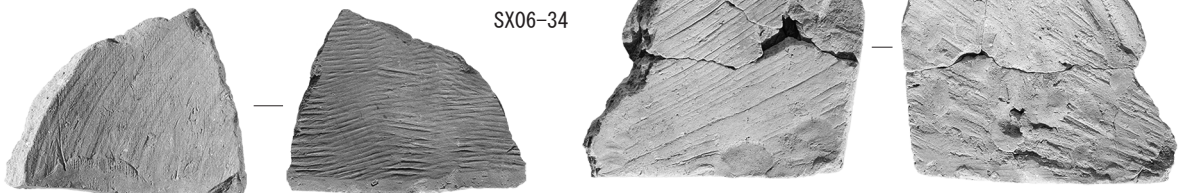
SX06-32

SX06-33



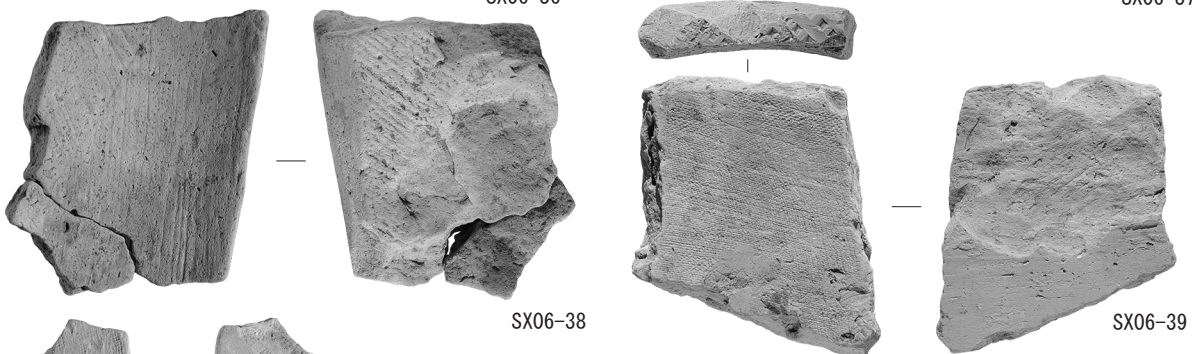
SX06-34

SX06-35



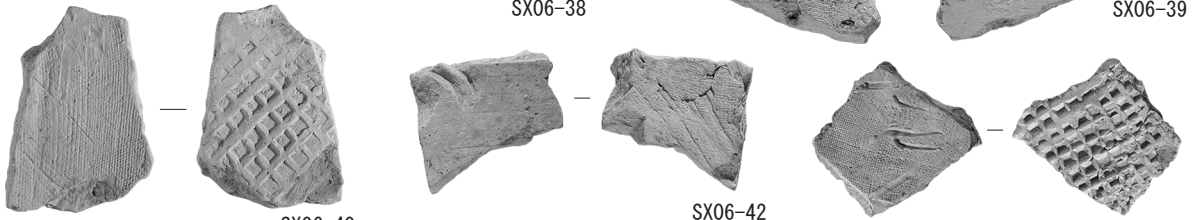
SX06-36

SX06-37



SX06-38

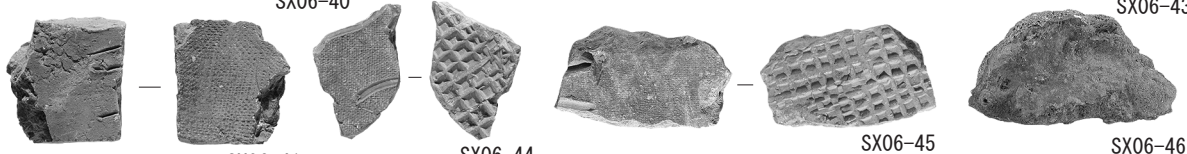
SX06-39



SX06-40

SX06-42

SX06-43



SX06-41

SX06-44

SX06-45

SX06-46

SX06 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	だいわたり にじゅう							
書名	台渡里 20							
副書名	店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(台渡里第168次)							
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第108集							
編著者名	高野浩之・米川暢敬							
編集機関	株式会社地域文化財研究所／〒270-1327 千葉県印西市大森2596-9 電話:0476-42-7820							
発行機関	水戸市教育委員会／〒310-8610 茨城県水戸市中央1-4-1 電話:029-224-1111							
	(担当)教育委員会事務局教育部歴史文化財課埋蔵文化財センター 電話029-269-5090 株式会社地域文化財研究所／〒270-1327 千葉県印西市大森2596-9 電話:0476-42-7820							
発行年月日	2019(平成31)年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号					
だいわたり はいじあと 台渡里廃寺跡 だいじちようさ (第168次調査)	いばらきけんみとしわたりちよう 茨城県水戸市渡里町 あざまえ 字アラヤ前2960-1, 2962-1	201	098	36° 24' 31"	140° 25' 50"	2018.06.25 ～ 2018.08.01	578㎡	店舗建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
台渡里廃寺跡		縄文時代			縄文土器(深鉢)		井戸跡SE02と粘土採掘坑SX04の両遺構から、「文殊」と書かれた墨書土器が出土した。台渡里廃寺跡周辺域における文殊信仰の可能性が示唆される貴重な発見となった。	
	集落跡	奈良・平安時代	竪穴建物跡 1棟 掘立柱建物跡 2棟 土坑 4基 ピット 4基 溝跡 8条 井戸跡 3基 性格不明遺構 6ヶ所	土師器(坏, 碗, 皿, 甕, 耳皿) 須恵器(坏, 高台付坏, 盤, 蓋, 鉢, 高坏, 甕, 壺・瓶類) 瓦(軒丸瓦, 軒平瓦, 丸瓦, 平瓦, 隅切瓦) 土製品(羽口) 鉄滓				
要約	本地点は、国指定史跡台渡里官衙遺跡群内にある台渡里廃寺跡観音堂山地区の八幡神社西側に隣接する。検出された遺構は出土遺物から奈良・平安時代が主体と考えられるが、廃寺跡に関連する建物跡等の存在は希薄である。出土遺物は9世紀中葉から後葉の時期を主体としており、9世紀半ばには焼失したとされる台渡里廃寺跡観音堂山地区のその後を考える上での参考となる資料が得られた。							

水戸市埋蔵文化財調査報告第108集

台 渡 里 20

店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第168次）

平成31（2019）年3月25日印刷

平成31（2019）年3月31日発行

編集 株式会社 地域文化財研究所

発行 水戸市教育委員会

株式会社 地域文化財研究所

印刷 株式会社 正文社
